

元バカと元劣等生と現 仮面ライダー

半熟探偵弟子

【注意事項】

このPDFファイルは「ハーメルン」で掲載中の作品を自動的にPDF化したものです。

小説の作者、「ハーメルン」の運営者に無断でPDFファイル及び作品を引用の範囲を超える形で転載・改変・再配布・販売することを禁じます。

【あらすじ】

呉島 貴斗が幼馴染み達と文月学園に進学してから1年が経ち、貴斗達は2年になった。

悪友の吉井 明久達と文月学園生活を楽しまつつ、FF団を避けながら恋人の木下優子とデートしていた。

兄の呉島 光実が編入してくるまでは、、、

初投稿で駄文です。

追伸： タイトル変えました。

タグでつけきれませんが、暗殺教室からの登場メンバーでカップル組ませる予定で

す。

後、仮面ライダーマツハ、仮面ライダーチェイサーはオリジナルフォームを出す予定です。

後、タグでつけてませんが、オリジナルFFRも出ます！

後、タグでつけてませんが、オリキャラも出ます。

タグのR-15は念のためです

目次

設定

設定《バカテス》 1

設定《劣等生& a m p ;オリ主、ライ

ダーメンバーズ》 7

試召戦争編

第1話 寝坊とクラス発表と再会

12

第2話 親友と爆弾発言と暗躍者

16

第3話 何故霧島財閥に予告状が届

いたのか 20

第4話 B B Qとブラフとドライブ

反撃 24

第5話 何故秀吉が魔進チエイサー

に変身出来る様になったのか 30

第6話 ルパンRの正体とは誰か？ 37

第7話 何故貴斗はルパンRの正体

を突き止められたのか 41

第8話 何故優子と美波が倒れなけ

ればならなかったのか 49

第9話 何故F F F団は貴斗の怒り

に触れたのか 56

番外編その1

番外編1話 俺とシャルモンとラ

ライダーナーナメント ————— 64

清涼祭編

97

第10話 貴斗と優子とコスプレ喫

第16話 何故貴斗と優子は爆発に

茶 ————— 75

第11話 貴斗と先輩と召喚大会

? ————— 101

79

第12話 貴斗と優子とライダーズ

件捜査課 ————— 111

————— 82

第13話 怒りのHT／危険なツイ

番外編2話 貴斗と焦る秀吉と決闘

ンマキシマム ————— 87

第14話 貴斗とマツハと準決勝

番外編3話 貴斗と優子とガオウ討

92

第15話 光実と姫路とチート

合宿編 ————— 127

第18話 貴斗と元暗殺者と合宿案

| | | | | |
|-----|------------------------------|-----|--|--|
| | 内 | 136 | | |
| | 合宿編からの登場メンバーのキャラ設定 | | | |
| | 定 | 140 | | |
| | 第19話 貴斗と優子と言いがかり | 145 | | |
| | 第20話 何故合宿所内で立てこもりが起こったのか | 152 | | |
| | 第21話 何故撃たれたはずの貴斗が生きているのか | 158 | | |
| | 合宿編裏話 第20話・第21話 | | | |
| 168 | 康太、優子、秀吉達視点 ver | | | |
| | 番外編その3 | | | |
| | 番外編4話 貴斗と優子とカラオケ大会 | 175 | | |
| | 番外編5話 何故ベルトさんの機嫌がすこぶる悪くなったのか | 181 | | |
| | 明久姉編 | | | |
| | 第22話 何故急にブラコン姉が帰って来る事になったのか? | 188 | | |
| | 第23話 貴斗と明久とそれぞれ | | | |
| | の不幸 | 193 | | |
| | 第24話 貴斗と優子とブラコン襲来 | 199 | | |
| | 第25話 因・縁・決・戦 | 202 | | |
| | 第26話 貴斗と秀吉と蛮野撲滅 | | | |

明久姉編裏話 第26話 姫路 瑞

希が島田 美波を憎んでいるのは何故か

? | 219

追憶編

第27話 貴斗の様子がおかしいのは

何故か? | 226

第28話 貴斗が死神という単語に

敏感なのは何故か? 前編 | 231

設定

設定《バカテス》

バカテスのキャラ設定（点数具体的なのは本編で書きます。）と本編の設定です。

よしい あきひさ
吉井 明久

点数は家庭科と英語と歴史系は優秀

それ以外は少し怪しい（?）

呉島兄弟、木下姉弟（正しい）、司波兄妹とは中学からの知り合いかつ家が近いため親友

貴斗、雄二、秀吉、康太とは悪友

趣味については料理と書いて女子のプライド破壊者と読ませるぐらい上手い

嫌いな事は親友をバカにされる事と料理を侮辱される事

文月学園に入ってから島田 美波と出会い、1年の春休みから付き合う

さかもと ゆうじ
坂本 雄二

点数はAクラス平均並み（本気で頑張ると）

貴斗、明久、秀吉、康太とは文月学園で1年の時に同じクラスになり、ある出来事が

きっかけで親友（悪友）となった

趣味は親のトンチンカンなボケに対するツツコミと人並みに上手い料理

元悪鬼羅刹、現親友思いの喧嘩バカ

優斗に渡されたバースドライブで仮面ライダーバースに変身出来る

貴斗のおかげで霧島 翔子との互いの誤解を解き、付き合うようになった

きのした ひでよし
木下 秀吉

点数は古典と現代文は優秀

それ以外もC〜Dクラス平均並みは取れる

明久、呉島兄弟、司波兄妹とは中学からの知り合いかつ家が近いので親友

明久、貴斗、雄二、康太とは悪友

好きな事は演劇、特技は声マネ（声帯模写）

苦手な事は姉の折檻

仮面ライダーチェイサー、魔進チェイサー、超デッドヒートドライブに変身出来る

実は貴斗がドライブとして戦っている事を幼馴染の中で唯一知っていた上に貴斗の

頼みで黙っていた

貴斗と優子と光実以外には女として見られていたが、大切な姉である優子を守るため

に魔進チェイサー、仮面ライダーチェイサーに変身出来るようになってからは貴斗と共

に筋トレを頑張るようになり、男として見られるようになったが、未だに元FFF団のメンバーには女として見られるらしい

土屋 つちや 康太 こうた

点数は保健体育は先生と肩を並べる程
それ以外もDクラス平均並みは取れる

明久、雄二、秀吉、貴斗とは親友（悪友）

趣味は写真撮影と録音する事

特技は忍者も驚くレベルの隠密行動

島田 しまだ 美波 みなみ

点数は英語は優秀 数学もBクラス平均並み

それ以外もDクラス平均並みに取れる

文月学園に1年の時に帰国子女だった為に言葉の誤解からイジメをうけていた時に
明久や呉島 貴斗達に助けられ、明久を好きになり、1年の春休みから付き合う

霧島 きりしま 翔子 しょうこ

点数は一度聞いたら絶対に忘れない記憶力でほぼ満点

優斗に渡されたなしこドライバーで仮面ライダーなしこに変身出来る

呉島 貴斗のおかげで雄二との互いの誤解を解き、付き合うようになった

木下 優子きのした ゆうこ

点数はAクラス平均並みに取れる

呉島兄弟、明久、司波兄妹とは中学からの知り合いかつ家が近いため親友

呉島 貴斗に1年の2月に告白した結果、付き合うようになった

仮面ライダー電王、マツハ、Wに変身出来る

工藤 愛子くどう あいこ

呉島 貴斗が2年の時に光実、エリカ、レオとともに編入してきた

実は康太本人は覚えてないが1年の夏に海で偶然会っていた

特技は水泳

根本 恭二ねもと きょうじ

Bクラス代表

原作とは全く違う性格

小山 友香こやま ゆうか

原作とは違いBクラス

性格は原作とは違う性格だが、清水に脅されて原作の根本並みの行動をせざるを得な

く
な
つ
た

清水 美春しみず みはる

原作とは違いDクラス代表

美波の事が大好きで明久を美波から引き離そうとしている

小山の弱みを握り、脅していた

なかばやし ひろみ
中林 宏美

原作よりはマシなスポーツバカ（いい意味で）

原作とは違い、呉島 光実のことが編入してきたその日に好きになった

ひめじ みずき
姫路 瑞希

2年Fクラス代表

明久はFクラスにいるべきだと思っている

明久が美波と付き合っているのを認めていない

点数は家庭科が絶望的な点

それ以外はAクラス平均並みの点

F F F 団

点数平均1ケタ

告白、好きにやたら反応し、その現場の中心の男子を鎌、出刃包丁等を持って追いか

け回す

その異様さと見た目が原因で特殊状況下事件捜査課 通称特状課を頻繁に出動させ

た事があり、あらぬ誤解で全く関係ないチエイスが逮捕されかけた事がある

召喚獣の姿

バカテストメンバーは原作通り

明久は召喚獣の装備の木刀が日本刀の二刀流に変わっている

ただし、呉島 貴斗と呉島 光実、熱血 魂介、養護 医子、脳考 策士や他の仮面

ライダーが戦場に出て戦う場合のみ人間サイズになる

本編の設定

2年次には振り分け試験はないが、試験召喚戦争は出来るため、原作同様設備格差がある

試験科目は、現文、古典、数学、家庭科、保健体育、英語、プログラミング、地理、世界史、日本史、化学、生物、経済活動と法の13科目

法律が変わって、16歳から車、バイクの免許を取得可能になったため、貴斗と光実、優子は免許を持っている

貴斗達の父、呉島 天樹（くれしま あまぎ）は5年前に文月銀行での銀行強盗を説得しようとしていたところ、強盗から拳銃を奪い取った当時小6の女の子に殺された

文月市の隣に沢芽市、桐ヶ丘市がある

設定《劣等生& amp ;オリ主、ライダーメンバーズ》

司波^{しば}達也^{たつや}

点数はBクラス平均並み

呉島兄弟、明久、木下姉弟とは中学からの知り合いかつ家が近いため親友

召喚獣の姿は大黒 竜也をデフォルメした姿で拳銃と日本刀を持っている

司波^{しば}深雪^{みゆき}

点数はAクラス平均並み

呉島兄弟、明久、木下姉弟とは中学からの知り合いかつ家が近いため親友

召喚獣の姿は深雪をデフォルメした姿で氷弓〔ニブルヘイム〕を装備している

千葉^{ちば}エリカ^{えりか}

点数はCクラス平均並み

呉島 光実、愛子、レオンハルトと一緒に編入してきた

一度文月学園の入試を受けたが落ち、その時に司波兄妹と偶然同じ会場で少しだけだ

が話したため、司波兄妹とは友達

召喚獣の姿はエリカをデフォルメした姿で大剣〔大蛇丸〕を装備している

西城さいしやう レオンハルトれおんはると

点数はCクラス平均並み

呉島 光実、愛子、エリカと一緒に編入してきた

一度文月学園の入試を受けたが落ち、その時に司波兄妹と偶然同じ会場で少しだけだ
が話したため、司波兄妹とは友達

愛称はレオ

召喚獣の姿はレオの姿をデフォルメした姿で素手だが、唯一召喚獣のサイズが変更さ
れた時のみアーマードライダーの武器をメイン武器として装備できる

呉島くれしま 貴斗たかと

点数は達也と同じぐらい

この作品の主人公で明久、木下姉弟、司波兄妹とは中学からの知り合いかつ家が近い
ため仲がいい

呉島兄弟の三男で仮面ライダー鎧武、バロン、ドライブ、マツハ、W、切り札/Jの
方のジョーカーに変身出来る

召喚獣は出せないが仮面ライダーに変身して召喚獣と戦える
呉島くれしま 光実みつさね

点数はAクラス平均並み

明久、木下姉弟、司波兄妹とは中学からの知り合いかつ家が近いため仲がいい
呉島兄弟の次男で仮面ライダー龍玄、龍玄・黄泉に変身出来る

一時期、兄 貴虎の勧めで別の学校に通っていたが、学校のレベルを追い越してしま
い、兄に『貴斗の通う学校に行きたい』と直談判して貴斗に内緒で編入してきた

召喚獣は出せないが仮面ライダーに変身して召喚獣と戦える

くれしま たかじら
呉島 貴虎

呉島兄弟の長男で仮面ライダー斬月・真、斬月、斬月ジンバーに変身出来る

霧島財閥の主任のため翔子とは面識がある

木下姉弟、司波兄妹とは家が近いため顔を知っている

弟の貴斗の恋愛に賛成している

はーれい・へんどりくそん
ハーレー・ヘンドリックソン

貴斗が2年の時に新任となった文月学園のプログラミンクの教師で貴斗達呉島兄弟
のライダーベルトの制作兼メンテナンス担当兼呉島兄弟の父親的存在

プログラミンクと英語は文月学園教師の中では高い方

それ以外の教科については不明

ベルトさん（ヘクリム・スタインベルト）

貴斗が仮面ライダードライブに変身する時に使うドライブドライバーそのものでベ

ルトになる前はハーレー・ヘンドリックソンの弟子だった男

実は本人は機械生命体に殺されたのだが、ドライブドライバーに意識を埋め込んだためドライブドライバーそのものとして生きている

熱血 魂介（ハート）

貴斗が2年の時に体育教師として文月学園にきた男

かつて、クリム・スタインベルトを殺したロイミュードの幹部の1人だったが、ロイミュードとしてドライブに変身した貴斗と戦った時に、コアごと破壊されるはずだった所を「072と同じような生き方をしたら、都合の悪い事でもある？ あるんだったら世界を壊す以外の方法で乗り越えなよ」と言われた事で改心した

現在は進化体と超進化体を状況に応じて使い分ける事が出来る

コアのナンバーは002

養護 医子（ヘメディック）

貴斗が2年の時に養護教諭として文月学園にきた女性

かつて、クリム・スタインベルトを殺したロイミュードの幹部の1人だったが、ロイミュードとしてドライブに変身した貴斗と戦った時に、コアごと破壊されるはずだった所を「072と同じような生き方をしたら、都合の悪い事でもある？ あるんだったら世界を壊す以外の方法で乗り越えなよ」と言われた事で改心した

現在は進化体と超進化体を状況に応じて使い分ける事が出来る

コアのナンバーは009

脳考のうけん 策士さくし（ブレレン）

貴斗が2年の時に学園長補佐として文月学園にきた男

かつて、クリム・スタインベルトを殺したロイミュードの幹部の1人だったが、ロイミュードとしてドライブに変身した貴斗と戦った時に、コアごと破壊されるはずだった所を「072と同じような生き方をしたら、都合の悪い事でもある？ あるんだっから世界を壊す以外の方法で乗り越えなよ」と言われた事で改心した

現在は進化体と超進化体を状況に応じて使い分ける事が出来る

コアのナンバーは003

試召戦争編

第1話 寝坊とクラス発表と再会

呉島くれしま 貴斗たかとと吉井よしい 明久あきひさは急いでいた。

その訳は、

明「寝坊した〜!!」

明「貴斗 なんて起こしてくれなかったのさ!」

貴「俺は何回も起こしたぞ! 後5分、後10分、っていつまでも寝とるお前が悪い! お前が起きなかつた所為でこつちまで巻き添えだ!!」

文月学園正門

西「貴様ら遅いぞ!!」

貴「おはようございます 西村先生 明久が全然起きなかつた所為で遅れました」

明「おはようございます 鉄人 貴斗、なんで僕の所為にするのさ!」

西、貴『お前が起きなかつたのが一番悪い!』

西「おはよう 呉島」

西「そして吉井は何回言えば分かるんだ! 俺の名前は西村にしむら 宗一そういちだ! 鉄人と呼ぶ

な!!」

西「ほれ、2年のクラスだ」

そう言つて西村先生は封筒を渡してきた

貴、明『ありがとうございます 西村先生（鉄人）!!?』

貴「なんでこんな発表のしかたなんですか?」

西「我が文月学園は試験召喚獣システムで有名だからな、普通の学校同様にクラスを張り出す訳にはいかんのだ」

貴「そうなんですか。じゃあ、開けてみます」

呉島 貴斗 Aクラス

吉井 明久 Aクラス

西「そうだ、呉島 お前兄がいると聞いていたよな? その兄の方の下の名前を聞

いていいか?」

貴「みつざね光実ですけど、まさか!」

西「ああ、やっぱりか 呉島、兄の方もAクラスだ」

貴「まじですか!」

明「え、光実さんきてるの〜!」

貴「明久行くぞ! 光実兄貴に事情聞きに!!」

明「あ、ちょっと待ってよ〜」

Bクラス前

貴「いた！光実兄貴！ あんた別の進学校に行つてたはずだろ！ なんでこつちにいるんだよ!!？」

光「おはよう 貴斗、久しぶり明久君 ここにいるのは以前の学校のレベルを超えちゃったから、兄さんに頼んで編入させてもらったからだよ」

明「お久しぶりです。 光実さん」

Aクラス前

貴「噂には聞いていたけど、実際に見ると広いな」

光「どつかのホテルのスイートルームっぽいやね」

明「すごい！教室とは思えない！」

貴、光『まあ、自分の部屋よりはほんの少し狭いけど』

明「その一言で雰囲気無し！」

貴「立つとつてもしやあないし、入ろうぜ」

Aクラス

秀、優、美『貴斗、明久（君）（アキ）おはよう』

秀、優『光実さんお久しぶりです』

美「アキ、この人誰？」

明「おはよう、秀吉、優子さん、美波、美波は初めて会ったわけ。この人は貴斗

のお兄さんの光実さんだよ」

貴「おはよう、秀吉、優子、美波さん、秀吉と優子は兄貴に会うのは久しぶりだっ

け」

光「おはよう、秀吉君、優子ちゃん、美波さん初めまして、貴斗の兄の呉島、光実

です、これからよろしくね」

美「光実さん初めまして、アキの彼女の島田、美波です、こちらこそよろしくお願

いします」

達、深「おはよう（ございます）、貴斗（さん）、光実さん、秀吉（君）、優子さん、美

波さん」

明、貴、光、美、秀、優『おはよう、達也（君）、深雪（さん）』

第2話 親友と爆弾発言と暗躍者

達「光実さん、お久しぶりです。また深雪共々お世話になります」

深「光実さん、お久しぶりです。兄共々よろしくお願ひします」

光「久しぶりだね、達也君、深雪さん こっちこそよろしくね」

光「そう言えば美波さん、さっき明久の彼女だつて言つてたけどどういう事？」

美「あ、はい 実は〔過去編のネタバレ〕と言う訳でアキ、いや明久君と付き合つて
ます 後貴斗君も優子さんと付き合つてますよ」

貴、明『美波（さん）のバカ！ 今ここでそれ言つちやマズイ（よ）!!?』

美「何よ、アキも貴斗も突然慌てて 減るもんじやないんだし別にいいでしょ」

優「美波さん、貴方、教室の入り口付近を見てみたら？」

美「何よ、優子さんまでいったい何な、の、、、」

そう言つて美波さんと同じ方向を改めて向くと

康「……新学期早々お熱いカップル」

雄「だな」

翔「……羨ましい

雄二はあんな事言つてくれない」

悪友の坂本^{さかもと} 雄二、土屋^{つちや} 康太^{こうた}、雄二の彼女の霧島^{きりしま} 翔子^{しょうこ}の3人がいた

貴、明、秀、優、美、達、深『おはよう（ございます） 雄二、康太、翔子さん』

光「貴斗、この3人は？」

貴「光実兄貴は初めて会うんだよな 俺の親友の坂本 雄二と土屋 康太、雄二の彼女の霧島 翔子さんだよ 雄二、康太、翔子さん紹介するよ 俺の兄貴の呉島 光実だよ」

ちようどその時、放送が入った

高『呉島 光実さん 職員室前に来てください なお、体育館で始業式を行いますので各クラスはすぐに移動してください』

貴「じゃあ、みんな行こうぜ 兄貴 また後で」

光「じゃあ、皆さんまた後で」

俺達は体育館に移動した

兄貴は職員室の方に向かった

体育館

学園長の話は終わり、

高「新任及び新しく赴任された先生と編入生を紹介します 新任のハーレー・ヘン

ドリクソン先生、赴任された熱血^{ねつけつ} 魂介^{こんすけ}先生、養護^{ようご} 医子^{いこ}先生、脳考^{のうこう} 策士^{さくし}先生です

編入生は呉島 光実君、西城さいじょう レオンハルト君、千葉ちば エリカさん、工藤くどう 愛子あいこさんです
 以上で紹介を終わります」

新任、赴任の先生の名前を聞いた瞬間、俺の目は点になった
 場所はAクラスに戻り、

高「皆さんおはようございます 設備に不備は無いですね？ それでは自己紹介を編入生の4人からしてもらおうと思います」

光「呉島 光実です 呉島 貴斗の兄です 兄弟共々よろしく願います」

西「西城 レオンハルトだ レオって呼んでくれ よろしくな」

千「千葉 エリカです 実家が剣道道場やっています よろしくね」

工「工藤 愛子です 特技は水泳です よろしく願います」

自己紹介が終わり、

高「最後にクラス代表の坂本 雄二君、一言お願いします」

雄「えー クラス代表の坂本 雄二だ 代表、坂本、雄二のどれかで呼んでくれ 俺の勤が正しければ、他のクラスから試召戦争を申し込まれるかもしれないから準備して置いてくれ」

その頃？クラスでは、

???? 「??代表！ 吉井の野郎をAクラスで見かけました!!？」

「??
ありがとうございます
ですよ」

????
の皆さん
明久君、
あなたは?
クラスにいるべきなん

第3話 何故霧島財閥に予告状が届いたのか

放課後Aクラス

貴「さて、そろそろ帰ろうかな」

光「今日、兄さん夕飯いらないうって言ってたよ」

貴「買い物に行く前でよかった!」

明「貴斗、今日夕飯ご馳走になっていい?」

雄「俺もいいか? 後康太も行きたいらしい」

貴「どうせなら秀吉や達也達も来いよ 翔子さんや優子達もだよ 時間は18:3

0ぐらいに来てね」

その時3人の先生がAクラスにきた

熱、養、脳『久しぶりだな(ですわね) 貴斗(さん)』

貴「久しぶりだな ハート、メディック、ブレン」

優「貴斗、先生達と知り合い?」

熱「知り合いも何も、って貴斗 クリム・スタインベルトは?」

貴「ベルトさんなら今家だ」

熱「そうか ならいい さっきの話に戻ろう 俺達と貴斗が知り合いも何も、かつて世界を壊そうとした時に貴斗と拳で語った仲だ」

光「貴斗、兄さんその事知ってるの？」

貴「いや、多分知らない ハート、ハーレー博士見てないか？」

熱「あいつなら今頃お前らの家だろ それより、そっちに俺達もいつていいか？色々話したい事あるしな いいだろ、メディック、ブレン？」

養「ハート様の言う事に異論無しですわ」

脳「貴斗がいいなら遠慮なく行かせてもらいますが」

貴「もちろんいいぜ」

熱「なら、買い物に付き合おう」

貴「人数が人数だし、BBQにするか 飲み物どうするのかな 何本か買っとくかな」

その時、携帯が鳴った

翔「・・・もしもし・・・えっ 予告状？ 分かった 貴斗にかわる 貴斗、お

兄さんから電話」

貴「もしもし 貴虎^{たかご}兄さん 予告状の内容は？ 今夜9時文月学園と霧島財閥の大

切なものを盗ませてもらう 妨害大いに歓迎 怪盗ルパンR？」

貴虎「文月学園の大切なものと言ったらアレしか思い浮かばんだろう？ 間違いないくシステムの方を狙う気だ 貴斗、今持ってるベルトは？」

貴「戦極ドライバー、マツハドライバー、Wドライバー ぐらいだけど」

貴虎「光実にもかわれ」

貴「ほい、兄貴」

光「もしもし兄さん？ 戦極ドライバーは持ってるよ？ 兄さんこそゲネシスドライ

バー持ってるの？」

貴虎「持っていない訳ないだろ」

光「つて事は、僕らも学校見張ってるって事だよな？」

貴虎「そういう事だ しっかり守れよ」

光「兄さんこそね」

そう言つて電話は切れた

光「学校見張ってるって事はまさか、貴斗、予告はブラフかもしれないから3、2で別れてガードしよう」

貴「分かった 俺、ハート、ブレンで学校、兄貴とメディックで家だな それでいいだろ 夕飯早めつかな だとしたら急いで準備するか 明久、雄二、お前らも手伝え話し聞いてただろ？」

明、雄「分かった 手伝うよ(ぞ)」
貴「じゃあ、みんな直接きた方がはやいだろうからこのメンバーで家まで行くか」

第4話

BBQとブラフとドライブ反撃

帰り道

貴「みんな、肉は豚、牛、鳥のどれがいい？」

光、明、雄、康、秀、優、美、達、深、エ、レ『牛がいい（な）（です）』

熱「俺も牛がいいな ブレンとメディックは？」

脳、養「ハート（様）に同じく」

貴「圧倒的に牛が多いな 牛でやるか！」

根「俺達も食いたいな〜」

貴「うおっ!?! 根本ねもと何時からいた?!?!」

根「肉の種類聞いてた辺りから」

貴「達つて事はまさか…小山こやまも?」

小「そうだけど、なんか都合悪い事でもある訳?」

貴「相変わらず性格悪いな 別にいいが」

買い物して呉島家前

貴、光「ただいま〜」

その他メンバー『お邪魔します』

貴「さて、調理開始といきますか 兄貴と秀吉はB B Qの台出して火おこしといってもらっていいか？ 明久、雄二、康太は俺と食材の準備、深雪は悪いが買った飲み物冷やしいてくれる？」

光、秀、明、雄、康、深「了解（です）」

貴「達也、悪いが他のメンバーに家の中を案内してもらっていいか？ 準備終わったら呼ぶから」

達「分かった でも優子さんは貴斗と準備したいらしいが」

貴「分かった 優子は俺の手伝い、他の手伝わないメンバーは達也中心で呉島家の見学ってことでもいいか」

貴斗以外全員「異議無し！」

貴「じゃあ、準備出来たら呼ぶから指示した奴以外は見学しててくれしばらくして

貴「B B Q始めるぞ〜！ 早くしないと肉無くなるぞ〜！」

明「貴斗も食べなよ 僕と雄二で交代しながら焼いてるから」

貴「じゃあ、俺も食うか」

全員『いただきま〜す！』

歓迎会を兼ねたBBQが終わり

貴「じゃあそろそろ学校の警備に行くか　ハート、ブレン」

熱、脳「「行きますか」」

文月学園正門前

貴「そろそろ9時だが何も無いようだな」

熱「ブラフだったようだな」

貴「じゃあ、家の方に戻るか」

呉島家前

貴「ただいま」

光「貴斗！　やっぱりブラフで家が狙われた！　ブレーカー落とされて暗くなった一瞬で優子さん、美波さん、小山さんの3人が居なくなつて、金庫に入れてたルパンガンナーが盗まれて、ドライブドライバーも壊された!!」

養「貴斗さん　これを!!？」

貴「え」と　木下　優子、島田　美波の命は預かった　10時までには霧島財閥への破壊行為を止められるものなら止めてみな　彼女達の命が惜しくないならだが　仮面
ライダールパンR　くそく!!？」

貴「兄貴、トライドロンの車庫開けてくれ！　俺が決着つけてくる！」

光「分かった 無茶はするなよ」

貴「当たり前だ 意地でも止めてやる！ みんなを頼む さて、もうひとつ走り行きますか」

そう言うのと貴斗はマツハドライダーとドライブドライバーを機械に繋ぎ、何かのプログラムを起動させた後、ドライブドライバーを腰につけ、右手首にシフトブレスをつけ、トライドロンに乗って優子達を助けに行った

霧島財閥付近

ルR「予告状通り消えるがいいですわ」

そう言うってルパンRが気球の台座からルパンガンナーを霧島財閥の人質が吊るしてある方に向けた瞬間、一台の車がルパンRの元へ飛んできた

貴（ドライブドライバー装着）「やめろ〜!!？」

ガシャンと貴斗がルパンRの気球の台座にしがみつき、貴斗が乗っていた車は近くの川に落ちた

ルR「まさか、美波達を見捨てたのですか!？」

貴「助けるさ！ だけど、お前に仮面ライダーを名乗らない様にするのが先だ!!？」

お前みたいな自分勝手なやつに仮面ライダーを名乗らせる訳にはいかない！ 俺に仮面ライダーを名乗る事の意味を教えてくださいましたのはあの優子だからだ!!!」

ルR「ごちやごちや五月蠅いですわ!!? あの世界で後悔しなさい 私を怒らせた貴方美春方が悪いですわ!」

そう言ってルパンRは貴斗を気球の台座から蹴り落とした

貴「うわっ!!?」

落ちながら貴斗はドライブドライブバーのキーをひたすら回した

貴「たとえ、動かなくても このベルトを付けてる限り俺は諦めない!」

その時、壊れていたはずのドライブドライブバーから車のエンジンがかかった様な音がし、貴斗の周りをたくさんミニカーが回り始めた

貴「シフトカーズみんな! 俺は 仮面ライダー ドライブだ!!? 変身

!!」

そう言って貴斗は自分の目の前の赤いシフトカー シフトスピードを掴み、シフトカーの後ろの部分回し、右手首のシフトプレスに装着し、レバーの様にシフトプレスに装着したシフトカーを動かした

その瞬間、壊れていたはずのドライブドライブバーが光りだし、ドライブドライブバーの中央に人の顔の様なマークが出現した

クリーム「OK 貴斗! START^{スタート} OUR^{アウ} ENGINE!!^{エンジン!!}」

ドライブ タイプ スピード!!?

そして軽快な音が流れたと同時に地面に着地しながら貴斗の姿が変わった
さらに、川に落ちたはずの車がドライブドライバーの声に合わせて変形し、川から出
てきた

クリム「GO！ トライドロム タイプ テクニック！」

変形した車が人質となっていた2人を救出して地面に着地した

優、美『た、助かった…』

そして、貴斗が変身したドライブはルパンRの方を向きながらベルトと話し始めた

クリム「貴斗、よく頑張った 君とずっと一緒に戦ってたからこそ君を信用出来た」

貴「今、再認識したよ あんたが俺を選んだ理由 俺が多少でも人より優れてる所

は何度壊れてもまた走り出せるエンジン、心を持つてるから だろ？」

クリム「その通りだ 君の心が私の憧れだ さあ、反撃といこう！」

第5話 何故秀吉が魔進チエイサーに変身出来る様になつたのか

ほんの少し時間を遡り呉島家

秀「光実よ、貴斗の言っておったトライドロンとは一体なんなのじゃ？（本当は知っておるがのう）」

光「（貴斗の奴言っておったのか）トライドロンって言うのは貴斗専用の変形する車だよ」

秀「じゃあ、まさか3人の先生と戦つたというのは、（やはり貴斗か）」

光「そう 他でもなく貴斗だよ」

熱、養、脳「正確には貴斗とクリーム・スタインベルトのコンビだが（ですが）」

熱「それより、木下 秀吉と言つたか お前に貴斗の持つてるバイラルコアが反応してるみたいだぞ」

そう言われて秀吉は自分の周りを見てみた

秀「その様じゃな うむ？ これは一体なんなのじゃ？」

そう言つて秀吉は3つの銀色のバイラルコアが乗せていた物に触れる

脳「それはブレイクガンナーです 秀吉君、それを使えば貴斗の助けになることが出来ますよ 貴斗は自分が仮面ライダードライブである真実を表に出そうとせず生活していたためか、一人で抱え込もうとしがちなようです 君なら、貴斗の親友の秀吉君なら魔進チエイサーを使えるようになれば貴斗は背中を任せてもいいと思うかもしれませんが」

秀「僕は貴斗に頼まれてドライブの事を知っておったが黙ってたのじゃがのう」決めたのじゃ、僕は貴斗に守られるだけの人生はお断りじゃ！ 僕は守られるだけじゃなく、守る存在になるのじゃ！ ブレン殿よ 僕はこの力で貴斗と共に戦うのじゃ！ 変身!!」

そう言つて秀吉はブレイクガンナーの銃口を強く押し込み、頭上に掲げた

BREAK UP!!

その音がブレイクガンナーから流れたと同時に秀吉の姿が魔進チエイサーに変わった

秀「してブレン殿よ 貴斗の元へ向かうにはどうすればよいのじゃ？」

脳「このチエイサーバットバイラルコアをブレイクガンナーにセットしてください 背中に武装されることで翼の役割を果たし貴斗の元へ向かえますよ」

秀「分かったのじゃ」

言われた通り秀吉はブレイクガンナーにチエイサーバットバイラルコアをセットした

チューン！ チエイサーバット！

その音がブレイクガンナーから流れ、魔進チエイサーの背中からサーキュラーダイナミクスにEーサーキュラーが装着され、Eーサーキュラーに合体するような形でウイングスナイパーが装着された

秀「これで貴斗の元へ向かえるのじゃ！ 行ってくるのじゃ！」

そう言って秀吉が変身した魔進チエイサーは霧島財閥の方向へ飛んで行った
しばらく飛んで

秀「あやつがルパンR 姉上に手を出してただで済むと思ったら大間違いじゃ！」
そう言って秀吉が変身した魔進チエイサーはルパンRに突っ込み、ルパンRを地面に落とし、自分も武装を解除して地面に着地した

秀「助っ人に来たぞい！」

貴「もしかして、秀吉か？ とにかくいくぜ！俺達であいつを倒すぞ！」

秀「分かったのじゃ！ 行くぞい貴斗!!」

ルパンR「美春たかが2人で私を倒す？ 笑わせませすわ！」

そう言ってルパンRはルパンガンナーに金色の小刀の付いたバイラルコアをセット

した

ルパンブレード!

そう音が鳴り、ルパンガンナーに剣が付いた

貴「来い! ハンドル剣!!? 後秀吉! チエイサースパイダーバイラルコアをブレイクガンナーにセットしろ!」

そう言つて貴斗は武器を呼び寄せつつ指示を出し、秀吉はすぐに頷きながらブレイクガンナーに貴斗に指示されたチエイサーバイラルコアをセットした

チューン! チエイサースパイダー!

その音が鳴ると同時に魔進チエイサーの背中の中サーキュラーダイナミクスにE―サーキュラーが装着され、サーキュラーから伸びるような形でブレイクガンナーを持つ手にフアングスパイダーが装着され、貴斗にはハンドルの付いた剣が飛んできた

貴斗と秀吉はルパンRと武器を交えながら近づいた

貴「勝負だルパンR! お前が奪おうとした仮面ライダーの名前は返してもらおう!」

だがルパンRは何も言わずに羽織っていたマントを貴斗と秀吉に向けて翻した

その瞬間、貴斗と秀吉は映画のフィルムの様なエネルギー体に囲まれて動けなくなつた

貴「ベルトさん もう一度俺に賭けてくれ!」

べ「最初に君と共に戦った時からそのつもりだ！貴斗！
マックスフレア！」

その声と同時に貴斗のシフトブレスにセットされているシフトカーがシフトスピードからシフトマックスフレアに変わり、秀吉のブレイクガンナーにマックスフレアより色の濃いシフトカーがセットされた

チューン！　メガマックスフレア！

その瞬間、貴斗と秀吉を囲っていたエネルギー体が消えた

ルR「何!?　そんなバカな！　うわっ!?？」

その時、変形していたトライドロロンが元に戻って光弾をルパンRに放ちながら貴斗と秀吉の近くに止まり、優子が運転席のドアを開けて顔を出した

優「貴斗！」

貴「優子！　よし！秀吉と美波さんもひとつ走り付き合えよ！」

優、秀、美『ええ（うむ）!!』

そう言って優子が運転席のドアを閉めたのを確認してから貴斗はドライブドライバーのキーを回してからシフトブレスのイグナイターを押し、シフトマックスフレアをレバーの様に動かしたと同時に貴斗は秀吉に指示を出した

貴「秀吉！　変身した時みたいに銃口を強く押し込め！」

秀「分かったのじゃ！」

貴斗に言われた通りに秀吉はブレイクガンナーの銃口を強く押し込んだ

ヒツサツ！ fullス throtル!! フレア！

エクスキューション！ fullル Blakク!! メガマックスフレア！

そう音が鳴り、貴斗と秀吉の体が炎に包まれ、同時に、ルパンRの周りに4つのタイヤが出現し、ルパンRの動きを封じた

そして、貴斗と秀吉は炎を纏ったまま、周りを走るトライドロンのフロントとルパンRを交互に蹴り、最後にルパンRにフルパワーの蹴りを放った

貴、秀『おりや〜〜!!』

ルパンRは貴斗と秀吉の蹴りを受けて少し後ろに倒れこんだ

ルR「今回はこのくらいで勘弁してあげますわ！」

と言って変身が解けてるのも忘れ、近くの路地に走り込んだ、特徴的な髪型を貴斗達に見られながらだが

貴斗はシフトブレスからシフトカーを抜き、シフトブレスのイグナイターを押しして変身を解いた

クリム「ナイス ドライブ！ 貴斗」

そう言っつてベルトが貴斗に話すが当の貴斗は、、、

貴「あの髪型、まさか、、、？」
と呟いていた

秀吉も変身を解除し、貴斗の元に寄った

優子もトライドロロンから降りて貴斗の元に寄った

貴「さて帰るか（明日絶対ルパンRの正体を掴んでやる！）」

秀、優「そうじゃな（だね）！」

秀吉が貴斗と優子と美波に魔進チェイサーに変身出来たきっかけを話しながら歩いて呉島家に帰った後、結局BBQをしたメンバー全員が呉島家に泊まったのは言うまでもない

第6話 ルパンRの正体とは誰か？

翌日、文月学園Aクラス

貴「康太、頼みがある BとFクラスの代表、可能なら副代表を調べてくれないか？

報酬は後日払うから」

康「了解」

貴「さて、あいつはどのクラスなのか、」

少し時間が経ち、代表挨拶のタイミングで

康「貴斗、情報を入手した」

そう言つて康太は貴斗に一枚の紙を渡した

光「貴斗、何それ？」

貴「俺と秀吉の予想が正しければ、ルパンRは文月学園内にいる その証拠を康太に集めてもらったんだ 後はルパンRを大勢の前で揺さぶるだけだ」

高「木下 秀吉君、呉島 貴斗君、呉島 光実君の3人は至急学園長室に行つてくだ

さい」

貴「康太、念のためアレ貸してくれ 後で返す」

康「分かった　コレだろ？」

貴「兄貴、秀吉、学園長室に行こうぜ」

学園長室にて

貴「失礼します　学園長お呼びでしょうか？」

学園長「失礼するなら、とっとと帰んな　って貴斗は何してるさね!？」

貴斗は学園長室の観葉植物の近くに寄った

貴「こいつが怪しいな　やっぱしあつたか：　学園長、ここで学園運営に関わる

様な話をしませんでしたか？」

そう聞きながら、貴斗は観葉植物の近くから盗聴機探知機で見つけた盗聴機を壊す

学園長「いや、特にはしてないさね　で、あんたらを呼んだのには訳があるさね

木下　秀吉、あんたの召喚獣が突然後一回しか出なくなってしまったさね　なんか

心当たりないさね？」

秀「実は、僕は魔進チエイサーに変身出来る様になったのじゃが　：まさか!？」

学園長「おそらくそれが原因とみて間違いないさね　呉島兄もその弟同様、召喚

獣が出なくなってるって事を伝える為に呼んださね」

光「そうですか」

学園長「その代わり、あんたら2人とも仮面ライダーで戦える様になってるさね

その分敵味方関係無く周りの召喚獣のサイズを変えちまうようさね」

貴、光、秀 『説明 ありがとうございます！』

再び、Aクラス

貴 「雄二、Dクラスに戦争仕掛けたいんだがいいか？」

雄 「構わねえが、なんでだ？」

貴 「Dの代表が清水^{しみず} 美春^{みはる}だと分かったからな 明久と美波さんに危害を及ぼしかね

んから 動きを封じたい」

雄 「理由は分かった 使者はお前が行く条件でなら起こしても構わん」

貴 「なら、今日午後1時半から開戦でいってくる」

Dクラス

貴 「失礼する 代表の清水に話がある」

美春 「何ですか？」

貴 「AクラスはDクラスに試召戦争を申し込む！ 開戦は午後1時半からだ」

美春 「受けてたちますわ！」

そして、開戦の直前

雄 「Dクラスとの試召戦争だが、本人達の希望で貴斗と秀吉に先陣を任せる 編入生は別室で試験を受けてきてくれ」

雄二以外全員『了解』

雄「それじゃあ、いくぞ!!？」

そしてDクラスとの試召戦争が始まった

第7話 何故貴斗はルパンRの正体を突き止められたのか

開戦直後Aクラス

貴「俺と秀吉の2人で行ってくる 行けるな秀吉?」

秀「当たり前じゃ! 姉上達は手出し無用じゃ! 儂と貴斗で代表の首は取ってくるから心配無用じゃ!」

貴「行くぜ 秀吉! ルパンRと今度こそ決着をつけるぞ!!?」

Cクラス廊下

Dモブ「いたぞ! たった2人とは舐めやがって! 西村先生、古典でお願いしま

す! サモン!!?」

モブ×20 『サモン!!?』

西「承認! フィールド展開!」

ここで点数の説明、文月学園のテストは上限800点のテストで、単教科で350点、総合で4000点で召喚獣に本人が内容と起動ワードを一度だけ決められる腕輪が付く

貴「作者、何故それをここで言う?」

メタ発言止めて!

秀「ここは儂の出番じゃな、サモン!!?」

Aクラス木下 秀吉 VS Dクラスモブ×21

458点

平均185点

Dモブ「げっ! 腕輪持ち!? 気をつけろ!!?」

秀「行くぞい! チエンジ(変身)!」

秀吉の召喚獣の姿が仮面ライダー斬月(アームズ無し)に変わった

そして、どこからか音声が流れた

ウォーターメロンアームズ! 乱れ玉ババババン!!

そうして秀吉の召喚獣にウォーターメロンアームズが装着され、

召喚獣の手にウォーターメロンガトリング(デフォルメ)が装備された

秀「行くぞい! ウォーターメロンスパークキング!!?」

ウォーターメロンスパークキング!!?

秀吉が叫んだと同時に何十発もの光弾がウォーターメロンガトリングから発射され

何人が倒したのだが、

Dモブ「援護にきたぞ! サモン!!?」

倒した敵の後ろから増援がきてしまった

秀「数が多くて倒しきれんのじゃ！」

と秀吉がぼやいた瞬間、

ブドウアームズ！ 龍・砲・ハツ・ハツ・ハツ!!？

と音声がなり、

光「貴斗、秀吉！ こいつらは任せろ！」

と龍玄に変身した光実が秀吉とDクラスモブの間に割込みながら貴斗と秀吉に叫ぶ

貴「兄貴！ でも！」

光「行くんだ！ 貴斗と秀吉にはやるべき事があるんだろ！」

秀「光実、分かったのじゃ！ こいつらは任せろい！ 貴斗、行くぞい！」

貴「兄貴、無茶すんなよ！」

そうやって貴斗と秀吉はDクラスの方へ走る

光「任せろ！ 木下 秀吉に代わり、Aクラス呉島 光実が相手になる！」

改めて双方の点数が表示され、召喚獣のサイズが変わる

Aクラス呉島 光実 VS Dクラスモブ×15

125点

平均160点

Dモブ「何だ？」

粹がった癖に編入生は点が低いな！」

光「お前ら相手ならこの点数で十分だ！ 貴斗と秀吉の邪魔はさせない！」

Dクラス

貴、秀『Dクラス代表清水 美春、Aクラス呉島 貴斗と木下 秀吉が勝負を挑む（のじゃ）！』

貴「その前に、観念するんだな ルパンR!!？」

美春「いきなりなんなんですか!?!? Aクラスの方には妄言癖を持つ人がいるみたいですよ！」

Dモブ×3『そうだ、そうだ!!』

貴「じゃあ聞くが、清水 美春、昨日の夜8時〜10時頃お前はどこで何してた？」

美春「実家のカフェ、ラ・ペティ・スの手伝いをしてましたわ」

貴「ほう？ ラ・ペティ・スは午後6時閉店のはずだが？ その時間までラ・ペティ・スが空いてるはずがない 本当は何してた？」

美春「その時間、テレビを見てましたわ 霧島財閥に怪盗ルパンRから予告状が届いてるなんて知りませんが？」

貴「ボロ出したな清水 美春！ そのニュースは俺が警視庁の知り合い経由で差し止めをして放送されないようにしてたんだよ！ これ以上ボロ出す前に認めたらどうだ、清水 美春!!」

美春「ちっ、見事ですわ！ 真実を知った以上誰一人として逃がしませんわ！」

そう言って、清水 美春はルパンガンナーを取り出し、ルパンガンナーの銃口を押し込んでルパンRに変身した

貴「秀吉は手を出すな！ 行くぜベルトさん！ 今度こそ決着をつける！」

クリム「OK！ 貴斗！ START YOUR ENGINE!!？」

そう言って貴斗はドライブドライバーを腰に巻き、ドライブドライバーのキーを回してから、シフトブレスにシフトスピードをレバーモードにしてセットし、シフトスピードをレバーの様に動かした

ドライブ！ タイプ スピード!!？

そう音が鳴ると同時に貴斗の姿が仮面ライダードライブ タイプスピードに変わり、ハンドル剣を装備した

貴「これで最後の勝負だルパンR！ 本当の意味で仮面ライダーの名は返してもらおう！」

美春「お黙りですわ！ まぐれでこの技を破ったくせに！」

そう言って、昨晚同様羽織っていたマントを貴斗に向けて翻した

た 昨晚より濃い色の映画のフィルムのようなエネルギー体が貴斗の動きを封じようとした

貴「ベルトさん！ 危険な賭けだがやるしかない！あいつを使う!!？」

クリム「分かった！10分以内に勝負を決める！」

ドライブ！ タイプ デッドヒート!!？

貴斗とベルトさんとの会話直後、シフトブレスにセットされたシフトカーがシフトス
ピードからサイドカーのようなシフトカー、シフトデッドヒートと入れ替わり、ドライ
ブがタイプスピードからタイプデッドヒートに変わり、赤白い電撃が貴斗の動きを封じ
ようとしていたエネルギー体を吹き飛ばした

美春「なっ!!? そんなバカな！」

貴「これで終わりだルパンR、いや、清水 美春!!？」 高橋先生、総合でフィール

ド展開お願いします！」

高「分かりました 承認します。 フィールド展開！」

その声を聞くが早いか、貴斗はドライブドライバーのキーを回し、シフトブレスのイ
グナイターを押しした

デッドヒート!!？

そう音が鳴り貴斗の周りを赤いタイヤ状のエネルギー体が纏った

その状態で貴斗はルパンRにDクラスの天井まで飛んでから蹴りを放った

同時に互いの点数が表示された

Aクラス 呉島 貴斗 VS Dクラス 代表 清水 美春

2650点

1480点

貴 「おりや〜〜!!?」

同じ頃 Cクラス 廊下

光 「これで終わりだ! ドラゴンショット!」

そう言つて、光実は戦極ドライバーのブレードを3回倒した

ハイ〜! ブドウスパークキング!!?

そう音が鳴つたと同時に光実はブドウ龍砲の引き金を引いた

紫の羽のない龍の様なエネルギー体がDクラスモブの召喚獣全てを貫く様に飛んだ

点数が更新され、光実の勝利が表示された

Aクラス 呉島 光実 VS Dクラス モブ×15

105点

0点

光 「後は頑張れよ 貴斗」

Dクラス 教室

貴 「おりや〜〜!!?」

貴斗の蹴りがルパンRに決まり、ルパンRの変身が解け、ルパンガンナーは貴斗がルパンブレードバイラルコアと共に回収した

同時に点数が更新された

Aクラス 呉島 貴斗 VS Dクラス 代表 清水 美春

2650点

0点

貴斗はシフトブレスからシフトデッドヒートを抜き、シフトブレスのイグナイターを押した

ベ「ナイス ドライブ！ 貴斗！」

貴「この戦争、俺たちの勝ちだろ！！？」

戦後対談

その後、2つAクラスからの条件を呑む事でDクラスは設備ランクダウンを免れた
その内容は、

1 清水 美春は吉井 明久、島田 美波の2名に金輪際近づかない事

2 清水 美春を代表の座から降ろす事

どちらも清水 美春に取っては屈辱なのとは言うまでもない

加えて、小山から脅しの証拠が西村先生に提出された事で清水 美春は要監視処分者に決まったのは清水 美春の自業自得だ

第8話 何故優子と美波が倒れなければならなかったのか

Dクラス戦後のある日の昼放課Aクラス

貴「康太、この間の報酬で昼飯おごるから学食行こうぜ」

康「……分かった 行く」

明「僕も行こうかな 雄二は？」

雄「翔子の手作り弁当があるからパス あとお前ら2人の彼女が学食行くの見た

ぞ」

貴「じゃあ、優子達と食べるか 秀吉はどうする？」

秀「儂と光実も行こうかの」

貴「じゃあ、行きますか」

学食前

秀「なにやら騒がしいぞい 何かあったのこのう？」

康「……貴斗！不味い！今日は学食の調理師が居ない日、このチャンスをあいつが逃すはずない！」

明、貴『美波（優子）が危ない（ねえ）!!』

光「あいつつて？」

貴「兄貴！事情はあとからいくらでも説明する！ 急いで救急車呼んでくれ！ 明

久、霧島さんに貴斗は早退するつて連絡してくれ！ 康太は学食を使うなど放送してこ

い！ 秀吉！走るぞ！人命がかかってる！」

明、康、秀、光『了解！』

学食

貴「優子、美波さん大丈夫か!？」

優「貴斗、ごめん、大丈夫じゃ、な、い、、、」

美「ウチ、、、も、」

そう言つて優子と美波が倒れた

そこに、

西「呉島弟！ 何があつた！」

貴「俺も来たばつつかで何も分からないんです。着いた時にはすでにこの状態で、」

秀「貴斗！どうやら姉上達はこのゴマ団子を食べたとみて間違いないぞい！」

貴「秀吉、奥から包丁一本頼む」

秀「そう言うと思つて取つてきておるぞい」

貴斗は手のついてないゴマ団子を2つに切った。すると、

貴「明久が居なくて良かった、明久が居たら絶対にキレてるぞ」

ゴマ団子の中から、不気味な色の何か分からないものが出てきた

そこに、

FFF団員「リア充を殺せ〜!!?」

とFFF団員が飛び掛かって来たので切ったゴマ団子を飛び掛かって来たFFF団員の口に押し込むと、飛び掛かって来たFFF団員が泡を吹いて倒れた

貴「秀吉 どうやら本当にコレが凶器のようだ マッドドクター、解析頼む」

それと同時に光実と救急隊員が学食に入ってきて、明久も少し遅れて来て、放送もかかる

康「……全校生徒に連絡 食中毒発生のため、本日の学食は中止 ……繰り返す

本日、学食にて食中毒発生のため学食は中止とする」

その後、午後の授業は中止となり、貴斗と明久は優子、美波と共に救急車で病院へ向かった

病院から帰ってきて呉島家

光「で、あいつって誰の事? 今日を康太が不味いと言ってたのと関係あるんだよね

？」

貴虎「一体何があつた？」

貴「兄貴、兄さん、実はウチの学校、料理Ⅱ化学と考へてる女子がいるんだんに聞くけど、酸味を出すなら何を使う？」

貴虎「酢、レモン、梅だろう？ まさか!？」

貴「そう、彼女は酸味を出す為に硫酸を入れる常識外れの料理を作るんだ」

その時、ソフトマッドドクターとベルトさんが貴斗達の所へ来た

クリム「貴斗、マッドドクターの解析の結果が出た　あのゴマ団子から何故か甘みどころか酸味が検出された　詳しく調べた所、濃硫酸が僅かだが入っていたらしい」

貴虎「その常識外れの料理を作る女子は一体誰だ？」

貴「姫路ひめじ 瑞希みずき またの名を人殺し未遂料理人」

光「その子のクラスは？」

貴「Fクラスの代表だ　明日試召戦争を起こそうと考へてる相手だ　ここ最近、面倒な奴らの目撃情報が入ってるから動きを封じたいと考へてな」

光「面倒な奴らって？」

貴「F F F 団　またの名を恋愛撲滅死神軍団」

光「つて事は、そいつらも？」

貴「ああ、Fクラスだ　しかもF F F 団は一度俺と雄二、明久、康太、秀吉と　今は

もう居ないが、剛先輩とチエイイスで壊滅させたはずなんだが、復活しやがったらしい」

貴「ハーレーの親父 いる？」

ハーレー「どうした 貴斗？ なくんか用か？」

貴「マツハドライブバーのリミッターを解除してほしい」

ハーレー「分かった 明日の朝までに外しとくぞ」

クリム「貴斗、まさか…」

貴「覚悟しろよ姫路！ 絶対にお前を許さない!!？」

翌朝

ハーレー「貴斗、マツハドライブバーのリミッターの解除出来たぞ」

貴「サンキュー、ハーレーの親父 絶対に完全にあいつらをぶっ潰す！」

Aクラス

貴「雄二！ Fクラスに宣戦布告してくる!!？ 時間は10時からだ！」

雄「おい、貴斗!!？ お前昨日の今日で何があった!!？」

秀「儂も行くぞい！ あやつらに本当の地獄を思い知らせてやるのじゃ！」

熱「今の話聞かせてもらった 事情は大体分かった 貴斗、俺も手を貸そう

学園長にあの設定をFクラスにしてもらえるよう頼んでおこう 彼女の仇を取って

やれ」

Fクラス

貴、秀『Fクラス！ おまえらにAクラスが試召戦争を申し込む！ 時間は10

時からだ（じゃ）！ 絶対に叩き潰してやるから覚悟しろよ（しておるのじゃ）！』

姫「受けて立ちます！」

その頃学園長室

熱、脳「学園長、あの設定をFクラスに対して有効にして下さい」

学園長「分かったさね 本来30%の所、昨日の一件もあるから65%で設定して

おくさね 存分に戦うよう貴斗に伝えるさね あと昨日の一件もあるからあんな

ら2人とも生徒と共闘しても目を瞑ってやるさね」

熱、脳「ありがとうございます 学園長!!？」

開戦直前Aクラス

雄「さつき翔子から聞いたが昨日の食中毒事件の犯人であるFクラスが相手らしい！

Fクラスだからといって手加減は一切せず本気でいけ!! 前回同様、貴斗と秀吉が先陣で

行く！」

明「待った、雄二！ 僕と光実さんも行く！」

雄「明久はダメだ 最後の切り札であるお前を行かせる訳には行かん！ 光実、

あんたも行けるか？」

達、深、エ、レ『俺（私）達も行く！』

熱「貴斗、学園長から65%で設定したから存分に戦えだよ。後、俺とブレンも共闘しても昨日の一件の犯人が相手だから目を瞑ってもらえるらしいから俺達も久しぶりに暴れられるぞ！」

貴「分かった。雄二！俺、秀吉、兄貴、ハート、ブレン、達也、深雪、エリカ、レオで先陣を切ってくる！」

雄「分かった！行って来い!!？」

そして、優子と美波の仇打ちとも取れる試召戦争が始まった

第9話 何故FFF団は貴斗の怒りに触れたのか

Cクラス廊下

秀「貴斗よ、アレとはなんじゃ？」

貴「フィードバックだ。30%で軽い痛みだが、65%ぐらいは骨に影響が出る程度だ」

Dクラス廊下

FFF団会長「きたぞ！ Aクラスだ！ げっ!? 貴斗の殺気がマジでヤバイ!!」

FFF団員「数はこつちが上だぜ会長!!? 高橋先生！ 総合フィールドをお願いします！ サモン!!?」

FFF団員、会長「サモン!!?」

高「承認します！ フィールド展開！」

高「しかし熱血先生、脳考先生は何故生徒と共闘しようとする？」

熱「学園長から承認されたからな。昨日の一件の犯人らしいし」

貴「ここは全員で行くぞ！」

貴斗以外の先陣メンバー『ああ(うむ)(はい)(おう)!!』

貴「その前に動機を聞かせてもらおうか？」

FFF団団員「本当は 吉井と呉島弟を殺る予定だった!!？」

FFF団会長「バカ！ 貴斗の殺気に気付け!!？」

貴「そうか お前達は、お前達だけは、絶対に許さねえ!!？」

そう言つて、貴斗はマツハドライバ―炎を腰に付け、シグナルライティングパネルを上へ上げ、シグナルマツハをシグナルライティングパネルにセットし、叩く様にシグナルライティングパネルを下へ下げた

同時に秀吉もブレイクガンナーの銃口を押し込んで頭上に掲げ、光実も戦極ドライバ―を腰に付け、ブドウロックシードを解錠し、戦極ドライバ―にセットし、戦極ドライバ―のブレードでロックシードを切り、3人同時に叫ぶ

貴、秀、光『(Let's) 変身!!？』

シグナルバイク!!？ ライダー！ マツハ!!？

BREAK UP!!？

ハイ〜！ ブドウアームズ！ 龍・砲・ハツ・ハツ・ハツ!!？

と音が鳴り貴斗が仮面ライダーマツハ、光実が仮面ライダー龍玄、秀吉が魔進チェイス―に変身した

同時にハート、ブレンがロイミュード態に姿を変えた

達也達もキーワードを叫んだ

達、深、エ、レ『サモン!!?』

召喚された召喚獣のサイズが変わった

貴「追跡! 撲滅! いずれもマッツハ〜!

仮面ライダー〜マッハ!!

?」

と言いながらFFF団を右手で指差し、一回回ってから右手の拳を左手の平に当て、右手をFFF団全員を指す様に横に回し、両手を拍手する様に組み、両手を大きく開き、右腕を2〜3回回し、深く伸脚する様に屈み、右手の薬指と小指を曲げて人差し指と中指を伸ばして状態で右手を顔の横でチャライ感じに動かした

Aクラス+@の先陣メンバー『お前ら(お主ら)、骨も残らず砕け散れ!!?』

そう言いながら、貴斗、秀吉、ハート、ブレン、レオは拳で、光実、達也、深雪、エリカはそれぞれの武器でFFF団の召喚獣を攻撃した

FFF団団員「なんだ!? 召喚獣が攻撃を受けたのに俺らに痛みが!?!」

貴「どうやらフィードバックはちゃんと機能してるみたいだな、ハート」

熱「その様だな、貴斗 ここは俺達に任せて代表に彼女の仇の分もかまして来い!!

?」

貴「分かった 行ってくる！ 兄貴と秀吉は連れてくが大丈夫か？」

熱「俺とブレンも仮面ライダーと同様扱いの様でサイズはこのままらしいからな
行つて来い!!？」

貴「秀吉、兄貴！ 行くぞ！」

Fクラス

貴「Aクラス呉島 貴斗、呉島 光実、木下 秀吉がFクラス代表姫路 瑞希に勝負
を挑む！ 西村先生、総合でフィールド展開お願いします！」

西「承認する！ フィールド展開！」

姫「サモン!!？」

召喚獣のサイズが変わつたのを見ながら、貴斗はマツハドライバー炎のシグナルライ
ディングパネルを上へ上げ、シグナルマツハを抜き、シフトデッドヒートをセットし、シ
グナルライディングパネルを下へ下げた

シグナルバイク&mp;シフトカー!!？ ライダー！ デッドヒート!!？

その音が鳴ると同時に貴斗が変身していた仮面ライダーマツハは仮面ライダーデッ
ドヒートマツハに変わった

さらに貴斗はシグナルライディングパネルを上へ上げ、シフトデッドヒートを抜き、
シフトランブルダンプをセットし、シグナルライディングパネルを下へ下げた

シフトカー!!?　　タイヤコウカン!　　アラブール!!?

その音が鳴り貴斗が変身していた仮面ライダーデッドヒートマツハは仮面ライダーデッドヒートマツハアラブールに変わった

さらに、シグナルライティングパネルを上へ上げ、ブーストイグナイターを押し、シグナルライティングパネルを下へ下げた

同時に秀吉はブレイクガンナーにチェイサースパイダーバイラルコアをセットし、ブレイクガンナーの銃口を押し込み、光実が戦極ドライバのブレードを3回切り、ブドウ龍砲の緑宝撃鉄を引いた

ヒツサツ!　　フルスロットル!!?　　アラブール!!?

エクスキューション!　　フルブレイク!　　チェイサースパイダー!!?

ハイ〜!　　ブドウスパークキング!!?

その音が鳴り、ブドウ龍砲を紫の羽の無い龍のエネルギー体が纏い、ブレイクガンナーとファンクスパイダーを紫のエネルギー体が纏い、デッドヒートマツハアラブールは足に黄色い渦を巻いたエネルギー体が纏った

貴、秀、光『おりや〜!!?』

とデッドヒートマツハアラブールは蹴りを、龍玄はブドウ龍砲の最大の一発を放ち、武装チェイサーはファンクスパイダーごとブレイクガンナーで姫路の召喚獣に殴り

掛かった

そのタイミングで点数が表示された

Aクラス呉島 貴斗& a m p ; 呉島 光実& a m p ; 木下 秀吉 VS Fクラ

ス代表姫路 瑞希

2654点 3546点 2543点

4451点

貴斗、光実、秀吉のそれぞれの必殺技が決まると同時に点数が更新された

Aクラス呉島 貴斗& a m p ; 呉島 光実& a m p ; 木下 秀吉 VS Fクラ

ス代表姫路 瑞希

2554点 3246点 2323点

0点

貴、光、秀 『勝った〜!!?』

オツカ〜レ!

ロツクオフ!

そう音が鳴りながら貴斗達は変身を解いた

少し時間を遡りDクラス廊下

熱「とつとと片付けないと貴斗にチンタラしてたと思われるしな デッドゾーン

!!「?」

深「行きます ニブル Heim・アロー!」

エ「大蛇丸!!?」

熱「右半分は任せろ 左を頼む」

深雪達の点数が表示される

Aクラス司波 深雪& amp ;千葉 エリカ& amp ;教師 熱血 魂介

VS

Fクラス

2130点 2457点

5

478点 平均28点

深、エ、熱『くたばれ(りなさい)、Fクラス!!?』

そうやって深雪、エリカ、ハートは同時に攻撃した

Aクラス司波 深雪& amp ;千葉 エリカ& amp ;教師 熱血 魂介

VS

Fクラス

2130点 2457点

5

478点 0点

点数が更新され、深雪達の勝ちが確定した

熱「そろそろ終わるか」

貴、秀、光『勝った〜!!?』

熱「丁度終わったようだ」

戦後対談

自分達の負けを認めない姫路の逆ギレがきっかけで明久はゴマ団子のことを知り、貴斗の殺気が可愛いレベルに思える程の殺気と目の一切笑ってない笑顔で、姫路達に説教をし、Fクラスの設備を座布団と卓袱台からビニールシートと画板にランクダウンさせた上で2つの事を約束させた

その内容は、

1 FFF団を解散し、今後絶対にFFF団を復活しない

2 FクラスはAクラスの生徒及びAクラスに近寄らない

それに加えて、西村先生から鉄拳付き道徳、常識の補習がFクラスに対して行われたのは言うまでもない

番外編その1

番外編1話

俺とシャルモンとライダートーナメン

ト

Fクラス戦後、優子と美波さんが退院してから二週間程経ったある日曜日

貴斗の携帯が朝からなつた

相手は優子と表示されていた

貴斗は電話に出た

優「貴斗、今日暇？」

貴「暇だけど？」

優「エリカちゃんが隣の沢芽市のスイーツ食べに行こうって誘ってくれたんだけど、行く？」

貴「メンバーは？」

優「光実さん、達也君、深雪さん、秀吉、明久君、美波ちゃん、雄二君、翔子ちゃん、愛子、康太君、レオ君、エリカちゃん、貴斗と私の14人で場所はシャルモンってケー

キ屋さんだって」

貴「シャルモンだど!? それを早く言えよ! 100%の確率で割引きして貰える方法あるのに!」

優「どういうこと?」

貴「シャルモンの隠し割引き法が適用出来るかも知れない 貴虎兄さんにも話しくし、ついででシャルモンに15人分の座席あるか聞いとくから先に向かつて!」

優「分かった じゃあ後で」

そう言つて貴斗は優子との電話を切つた

貴斗はそのままシャルモンに電話をかけた

貴「もしもし、城之内^{じょうのうち}さん? 呉島ですけど、15人分座席ありますか?」

城之内「その声、貴斗君? 久しぶりだね! 今15人分座席空いてるよ 後、店長いるけど代わる?」

貴「いや、座席空いてるなら、後で行つた時に話しますんで、呉島で予約して貰えます?」

城之内「分かった また後で」

そう言つてシャルモンとの電話が切れる

貴斗は貴虎と光実のいる場所に行き、シャルモンに呼ばれたから行こうと話し、貴斗

はトライドロン、光実はローズアタッカー、貴虎はサクラハリケーンでシャルモンに向かった

沢芽市内 シャルモン

貴「お待たせ、みんな」

光「お待たせしてすいません、皆さん」

主任「待たせて悪かったな、弟達が世話になつてる様だな」

呉島兄弟以外のメンバー『そんなに待つて無いし』

明、秀、優、翔、達、深『久しぶりです 貴虎さん！』

美「アキ、この人は？」

明「美波達は会うのは初めてだったね 貴斗と光実さんのお兄さんの貴虎さんだ

よ」

城之内「久しぶり、貴斗、ミッチ、貴虎さん」

呉島兄弟『久しぶり(だな)、城之内(さん)』

城之内「注文は？」

貴「店長オススメセット7つ、恋人パフェ3つ、新作2つ」

貴虎「飲み物はコーヒー2つ、ミルクティー1つ」

雄「コーヒー7つ、ミルクティー1つ、レモンティー4つ」

貴「飲み物はアイスで」

城之内「注文確認します 店長オススメセットが7つ、恋人パフェが3つ、今月の新作が2つ、アイスコーヒーが9つ、アイスマルクティーが2つ、アイスレモンティーが4つ 以上でいいですか？」

貴「いいです メロンの君割引き適用で」

城之内「分かりました 店長に報告して参ります しばらくお待ちください」

10分して

凰蓮「お待たせしました オススメセットが7つ、恋人パフェが3つ、今月の新作のメロンミルクフィューユ2つになります」

城之内「飲み物のアイスコーヒーが9つ、アイスマルクティーが2つ、アイスレモンティーが4つになります」

凰蓮「それにしても久しぶりね 貴斗君、光実君、メロンの君」

呉島兄弟『久しぶり(です)(だな) 凰蓮わうれん(さん)』

凰蓮「今日、アーマードライダートーナメントの日よ? どうする? 貴斗君達は出る?」

秀「うむ? アーマードライダートーナメントとはなんじや?」

凰蓮「アーマードライダートーナメントと言っても仮面ライダー、またはそれに近い

のに変身出来る人が出るトーナメントよ」

城之内「ちなみに今のところ2人だけだからまだ参加の申し込み書けるよ」

貴「今年のルールは？」

城之内「タッグバトルだよ」

優「私、出てみたいけどライダーになれないし」

貴「出るならベルト貸すよ？　俺は出るつもりだし」

城之内「本当!?　トーナメントはザックとペコのコンビだけが出るよ」

優「私も出たい！　貴斗、ベルト貸して！」

貴「ザックとペコならあれで行こうかな」

城之内「登録しといたよ　2時間後にアーマードライダートーナメントだから準備

しておいてね」

貴「よし！　あれで行くか！　優子、時間あるから少し特訓するよ」

優「貴斗！　私、特訓頑張るわ!!？」

2時間後、トーナメント会場

貴「ザック、ペコ、久しぶり！」

ザ、ペ『久しぶりだな（つす！）　貴斗（君）!!？』

ザ「そつちの子は？」

貴「彼女で今日のタッグのパートナーの木下 優子だ」

優「ザックさん、ペコさん、初めまして 木下 優子です」

城之内「貴斗、ザック、トーナメント始めるよ！ 準備いい？」

貴、ザ『おう！』

貴「ライダーとして俺だけ後輩の力で勝たせてもらいます！」

ザ「胸を借りるつもりで来い！」

貴「行くぜ！ 優子、ベルトさん!!？」

ベ「OK！ 貴斗、優子！ SスTタAアRラTト YユOオUウRア Sス EエNンGンIイNンEエ!!？」

そう言つて貴斗はドライブドライブバーを腰に巻き、ドライブドライブバーのキーを回して、シフトワイルドをレバーモードにしてシフトブレスにセットした

同時に優子はデンオウベルトを腰に巻き、赤いボタンを押した

貴、優『変身!!？』

と言いながら、貴斗はシフトブレスにセットしたシフトワイルドをレバーの様に動かし、優子は電車で使うパスをデンオウベルトにかざした

ドライブ！ タイプ ワイルド!!？

ソードフォーム！

そう音が鳴り、貴斗は仮面ライダードライブタイプワイルドに、優子は仮面ライダー

電王ソードフォームに変身した

対して、ザックは戦極ドライバー、ペコはゲネシスドライバーを腰に付け、ザックはクルミロックシードを、ペコはマツボックリエナジーロックシードを解錠し、それぞれのドライバーにセットした

ザ、ペ『変身!!?』

そう言つて、ザックは戦極ドライバーのブレードを切り、ペコはゲネシスドライバーのシーボルコンプレッサーを横に押し込んだ

クルミアームズ! ミスターナツクルマン!!?

リキッド! マツボックリエナジーアームズ!!?

そう音が鳴り、ザックは仮面ライダーナツクルクルミアームズにペコは仮面ライダー黒影・真マツボックリエナジーアームズに変身した

貴「行くぜ! ザック!!?」

そう言つて貴斗はザックに突っ込んで行った

優子は貴斗を追わずに、右手で自分を指し、少し屈みこんで左手を前に突き出し、こう言つた

優《モモタロス憑依》「私^俺、参上!」

モモタロス「ちつ、なんだよ、女かよ 久しぶりに暴れられると思つたのに!!?」

優 「貴斗じゃなくて悪かったわね!!？」

モモタロス 「ああ、最悪だよ！ 何が悲しくて男女と組まなきゃいけないんだよ!!？」

優子 「言ってくれるじゃない！ 赤鬼もどき!!？」

モモタロス 「あんだと ゴラ！ 言ってくれるじゃねえか！男女!!？」

貴 「モモタロス、優子と喧嘩してる暇あるんなら前見ろ！前！」

モモタロス 「あんだよ？」

ペ 「隙あり！」

そう言いながら、ペコは影松・真で優子に攻撃したが、間一髪で優子は避けた

モモタロス 「のうわ！ あつぶね〜！ 仕方ねえな！手エ貸せ！男女!!？」

優 「貸してやるわよ!!？ 赤鬼もどき!!？」

そう言つて、優子はデンガツシャーをソードモードに組み立ててから自分に憑依して

いるモモタロスと共にペコと戦い始めた

ザ 「余所見とは随分余裕だな 貴斗！」

そう言つて、ザツクは貴斗にアツパーをお見舞いした

貴斗は少しだけ後ろに飛ばされた

貴 「くっ…パワーにはパワーだ！ 来い！ランブルダンプ！」

そう言いながら、貴斗はドライブドライブのキーを回してから、シフトプレスから

シフトワールドを抜き、シフトランブルダンプをレバーモードにしてセットし、シフトランブルダンプをレバーの様に動かした

「タイヤコウカ〜ン！　ランブルダンプ!!？」

そう音が鳴り、貴斗が変身した仮面ライダードライブタイプワールドは仮面ライダードライブタイプワールドダンプに変わり、ランブルスマッシュをシフトブレスとは反対側の手に装備した

貴「おりゃ〜！」

貴斗はさっきのお返しとばかりにランブルスマッシュでアツパーをお見舞いした

ザ「ぐはっ！」

しかし、ザックは少し後ろに飛んだだけで済んだ

貴「お互いの必殺技で勝負といきますか!!？」

ザ「いいぜ!!？」

そう言って、貴斗はドライブドライバのキーを回してからシフトブレスのボタンを押してシフトランブルダンプを動かし、ザックは戦極ドライバのブレードを3回切った

「ヒツサ〜ツ！　フルスロットル!!？　ダンプ!!？」

「クルミスパーキング!!？」

そう音が鳴ると同時に、貴斗はランブルスマツシャーに、ザックはクルミボンバーの右手の方にパワーを溜めて、互いに相手にぶつけた

貴、ザ『ぐわっ!』

ほぼ同時に貴斗とザックが倒れて互いの変身が解除された

優「貴斗!」

ペ「ザック!」

モモタロス「さつき言つてた相手と違うがテメエこそ余所見してる場合かよ! 行く

ぞ、男女!」

優「分かったわよ!」

そう言つて、優子はデンオウベルトにパスをかざしたと同時にデンガツシャーソードモードを構えた

モモタロス「必殺、俺と男女の必殺技! Part1:」

そう言つて、優子はモモタロスと共にペコに対してデンガツシャーを構えながら走り出した

が、デンガツシャーではなく足にエネルギーを貯めつつデンガツシャーを投げ捨てた

ペ「えっ☒」

モモタロス「…と見せかけて、俺達の超必殺技!」

そう言いながら、影松・真を蹴って弾き飛ばし、ペコの胸部に回し蹴りを当て、回った勢いのままジャンプして身体を捻りながら蹴りをペコに食らわせた

ペ「うわっ!?」

まともに食らったペコの変身が解除された

城之内「勝負あり! 勝者! 呉島 貴斗& a m p ; 木下 優子タッグ!」

城之内から勝利のコールを受けて貴斗は変身を解除した優子に支えて貰いながら立ち上がり、ペコとザックと握手した

貴「ありがとな また一つ強くなれた気がするぜ」

ザ「それはお互い様だ またやろうぜ!!」

貴「ああ! 兄さん達も交えてな!」

ペ「いいっすね それ!」

その後、ザックやペコ、城之内達と沢芽市内を回ってから貴斗達は文月市に帰った

その翌日、貴斗と優子にトーナメントの優勝商品が届いた

その内容がシャルモンの会計30%割引きの回数券だったのは言うまでもなく、約半年分もあつたため、週2のペースで沢芽市 シャルモンで2人が目撃されたのは言うまでもない

清涼祭編

第10話

貴斗と優子とコスプレ喫茶

シャルモンに出かけた翌日Aクラス

高「本日から編入生が2人入ります 吉田よしだ 幹比古君みきひこと柴田しばた 美月さんみづきです 本日中

に清涼祭の出し物を決めて下さい 決まりましたら坂本君は職員室まで報告して下さい」

優「私が聞くから、貴斗はディスプレイにだして」

貴「了解」

優「清涼祭の出し物として何かやりたい物がある人は手を上げて下さい」

その頃Fクラスメンバー

元FFF団団員「会長のへっぽこ球なんかホームランにしてやりますよ！」

元FFF団会長「言ってくれるじゃないか 絶対打たせるかよ！」

と元FFF団は野球をしていた

Aクラス

康「……コスプレ喫茶がやりたい」

翔「・・・メイド喫茶」

雄「中華喫茶はどうだ？」

明「普通の喫茶がいいな」

優「喫茶店が圧倒的に多いわね」

貴「多数決で決めるか」

そうして多数決を取った結果、コスプレ喫茶で決まった

雄二が高橋先生に報告に行ってる間に熱血先生が来て、コスプレの内容を決めた

その頃Fクラス

西「貴様らなにをやつとるか！ 清涼祭の出し物を考えとらんのは貴様らだけだぞ！！

？」

元F F F 団は西村先生に怒られていた

Aクラス

雄二が高橋先生に報告して戻ってきたので、メニューを決め始めた

貴「喫茶店のメニュー、どうする？」

秀「スイーツは康太以外は貴斗を含めて正直微妙な所じやのう」

貴「スイーツばかりにこだわらずにそれ以外も考えるか 明久と雄二の得意分野は

？」

雄「俺は分野は中華だがローストチキンとかの豪快なやつも出来るぞ」

明「僕は得意分野なんか無いし、苦手分野も無いよ」

貴「秀吉と優子は？」

秀「儂も姉上もお世辞にも上手いとは言い切れるレベルじゃないのう」

貴「メニューは後日にして、担当を決めるか 俺、康太、明久、雄二は確定だな 他に料理の出来るやつはいるか？」

深、エ『私達は少しだけなら、』

貴「じゃあ決まりだな 俺、康太、明久、雄二、秀吉、深雪、エリカは厨房、達也や優子達でホール担当だ 明久、雄二、秀吉、深雪、エリカは俺と一緒に放課後にシヤルモンで特訓させて貰って少しでも美味しいスイーツを提供できるように頑張るぞ」

貴斗以外全員『了解!!?』

貴「スイーツ以外は明久と雄二にメニューの内容は任すから、スイーツメニューは俺と康太で考えるか」

その後、メニューは決まらずに今日は解散となった

衣装は康太が、内装は翔子さんが受け持つと言うことなので任せた

貴斗と優子、秀吉の3人で帰ろうとした所、落ち込んでる先輩2人を見かけ、貴斗は声をかけた

貴「夏川先輩と常村先輩、どうしたんですか？」

夏先輩「呉島弟か 聞いてくれよ、うちのクラスの頭固い教頭がよ、勝手にお化け屋敷に決めやがってな、お化け屋敷をやりたくないやつ意見を聞こうともせず勝手に勝手に話を進めやがったわけよ」

常先輩「俺と夏川の喫茶店の意見を切り捨てやがり、挙句の果てに退学をちらつかせて反論不可にしやがったもんでな」

貴「先輩方の話をまとめると、竹原教頭が退学をちらつかせて反論不可にしてお化け屋敷を無理矢理通して、生徒の意見を切り捨てたもんでやる気がないので困ったって訳ですよ？ 先輩方、お化け屋敷が嫌でかつ先輩方さえ良ければうちのクラスの喫茶店を手伝いませんか？」

夏先輩「いいのか!? 俺らで良ければ手伝わせてもらおうぜ!!?」

常先輩「よろしくな! 呉島弟!」

貴「貴斗でいいですよ 兄がいるので呼びにくいでしょうし」

第11話 貴斗と先輩と召喚大会

翌日、Aクラス

貴「清涼祭の期間だけ夏川先輩と常村先輩に手伝ってもらえる事になった 今日はずは内装から準備しようぜ」

夏先輩「しゃあ！ さっさと準備しようぜ!!？」

常先輩「いっちょ頑張りますか！」

夏川先輩と常村先輩が手伝ってくれたのでメニューをゆっくり考えられた

そこに、康太が発注したコスプレ衣装が届き、夏川先輩と常村先輩のコスプレを注文した所で、学園長室に貴斗と光実と秀吉、優子が呼ばれたので、貴斗は康太から盗聴機探知機を借りて学園長室に向かった

学園長室

貴「失礼します 学園長お呼びですか？」

そう言いながら、貴斗は盗聴機探知機を片手に学園長室内を歩き回った

学園長「また貴斗は何してるさね？」

貴「今度はここかよ 懲りねえ奴だこと 学園長、本当に今回は運営に関わる話な

んてしてないですよね？」

そう呆れた様に言いながら、貴斗は1冊の本を手に取り、その本のカバーを外し、隠れてた盗聴機を壊す

学園長「少ししちまったださね　丁度その事で呼んださね」

貴「つて事は召喚獣絡みですか」

学園長「そうさね　召喚大会の優勝商品を回収したいのさね　実はここだけの

話、吉井の点ですら暴走しかねん危険な状況の腕輪が召喚大会の優勝商品にされちまったださね　少しでも改善しようとしてるんだが、当の腕輪が教師では使えないさね」

貴斗「要するに、腕輪を調整したいからとつと手伝えと」

学園長「分かったら調整を手伝ってくれさね　後、木下姉の召喚獣が出なくなったださね　呉島兄弟や木下弟同様に仮面ライダーで戦えるし、召喚大会も出れるさね」

貴「手伝う条件として、夏川先輩と常村先輩が2ーAで仕事してもお咎めなしかつ、清涼祭期間だけ夏川先輩と常村先輩を2ーA登録にする条件で手伝いますよ」

学園長「まさか、あいつが裏で動いてるつてのかい？　具体的に何をしてるさね？」

貴「先輩方いわく、退学をちらつかせて3ーAの出し物を無理矢理決めたそうですよ」

学園長「そうかい　当分、あんたらも気をつけるさね」

その後、学園長の指示に従い、貴斗は腕輪の調整を手伝い、2ーAに戻る時に竹原教

頭とすれ違った

竹原「これ以上俺の計画の邪魔してみる お前の兄さんの過去の計画をバラすぞ」

貴「やれるもんならやってみろ 性根の腐った竹原教頭」

竹原「ふん せいぜい息巻いてろ お荷物の役立たずコンビを拾ったおバカな仮面ライダーさん」

貴「あんたに取っっちゃお荷物かもしれんが、俺には最後の清涼祭の楽しみ方を考える様にしか見えないぜ あの日、人殺し未遂料理人に優子と美波さんに毒を盛りさせたのはテメエの仕業だろ テメエの企みなんか止めてやるよ 性根腐りの竹原さん」

竹原「ふん せいぜい息巻いてるんだな クソガキが」

その声を聞き流しながら貴斗は2ーAに戻った

第12話

貴斗と優子とライダーズ

清涼祭当日

コスプレ喫茶「ライダーズ」開店20分前

貴斗達はそれぞれのコスプレに着替えていた

翔子さんに任せた内装は鎧武のドルーパーズによく似た内装になっていた

開店5分前

貴「今日から2日間、精一杯お客様に楽しんでもらえるようにがんばろうぜ！　今

から責任者を務めるメンバーを発表する！」

明「責任者が複数いるのはなんで？」

貴「俺、優子、兄貴、秀吉の4人が召喚大会に出る間を狙ってトラブルを起こそうな

んて考える輩が出てくるだろうから、複数の人に責任者を務めてもらう　メンバー

は、雄二、康太、夏川先輩、常村先輩、翔子さんと俺、優子、兄貴、秀吉の9人だ！

なるべくクレームの出ない様にならうぜ！」

貴斗以外全員『了解！』

貴「それじゃあ、コスプレ喫茶「ライダーズ」開店だ！」

コスプレ喫茶「ライダーズ」開店から2時間

達「いらつしやいませ　コスプレ喫茶「ライダーズ」へようこそいらつしやいまして　席へご案内します」

そう言つて席へ案内し、メニューを聞いた達也は厨房に報告した

達「貴斗、大人なスイーツセット2つだ」

貴「もう出来てるから持つてつて」

優「貴斗、一回戦の時間よ！」

貴「優子、そのまま宣伝を兼ねていくぞ！」

召喚大会一回戦会場

大島「呉島弟、木下姉、その格好はなんだ？」

貴「大島先生、少しマイクを貸して貰つてよろしいでしょうか？」

大島「構わんが」

貴「大島先生、ありがとうございます！　この召喚大会を見てくださつてる方々に

お知らせです！　僕らは2ーA　コスプレ喫茶「ライダーズ」と言う所で働いているので

ですが、この召喚大会を見てくださった方でこの後「召喚大会で仮面ライダーを見た」と

コスプレ喫茶「ライダーズ」の店員に言つてくだされば、コーヒー及び、コーヒーの付

くセットを3割引きにさせていただきます！　よろしければこの後「ライダーズ」へお

越してください」

大島「だそうですので、皆さん是非お立ち寄りください　それでは、召喚大会一回

戦　2年Aクラス　呉島　貴斗　木下優子ペア　対　2年Eクラス

なかばやし 中林　宏美　2Eモブ　科目　保健体育　始め！」

中林、2Eモブ『サモン』

その声を聞き、召喚獣のサイズが変わるのを見ながら貴斗はWドライバーを腰に付けた

それと同時に優子の腰にもWドライバーが現れた

貴斗はJと書かれた黒のガイアメモリを、優子はCと書かれた黄緑のガイアメモリをそれぞれ持ち、ガイアメモリのボタンを押した

サイクロン！　ジョーカー！

優子は自分の腰に付いたWドライバーの左側にサイクロンメモリを差し込んだ

すると、優子の腰のWドライバーからサイクロンメモリが消え、貴斗のWドライバーの左側にサイクロンメモリが出現した

貴斗は出現したサイクロンメモリをそのまま押し込み、ジョーカーメモリを右側に差し込んでからWドライバーを左右に展開しながら叫んだ

貴「変身！」

サイクロン！ ジョーカー！

再びその音がなると同時に貴斗の姿が仮面ライダーWサイクロンジョーカーに変わり、優子が床に倒れた

貴、優『さあ、あんたら（あなた達）の罪を数えろ（なさい）！』

と言いながら、Wサイクロンジョーカーは左手を軽くスナップし、左手の人差し指を伸ばした状態で相手の召喚獣に向けた

そこで点数が表示された

2年Aクラス 呉島 貴斗 & 木下 優子 VS 中林 宏美、2年Eクラスモブ

139点

235点+249点

115点

Wサイクロンジョーカーは左腰のマキシマムスロットにジョーカーメモリを差し込んだ

ジョーカー！ マキシマムドライブ!!？

その音が鳴り、Wの体が会場の天井まで浮かび、Wはマキシマムスロットのボタンを叩き、叫んだ

貴、優『ジョーカーエクストリーム！』

そう言ったと同時に中林とモブの召喚獣に時間差キックを浴びせた

大島「そこまで！ 勝者 2年Aクラス呉島 貴斗& a m p ; 木下 優子ペア！」

と勝ち名乗りを受けながらWは変身を解除したと同時に倒れていた優子が何事も無かった様に立ち上がった

貴「じゃあ、喫茶に戻るか」

優「そうしようか」

と2人仲良く教室に戻った

第13話 怒りのHT／危険なツインマキシマム

召喚大会一回戦を終えてコスプレ喫茶「ライダーズ」へ戻っている途中、貴斗と優子は貴斗達を呼びに来た達也から営業妨害の報告を受けた

貴「で、相手は誰だよ？」

達「2ーFと3ーAのモブコンビだ 店内に監視カメラが無いのをいい事に、堂々とやってくれた挙句、シラを切り続けてくれたよ 責任者全員が追加の買い出しに行ってるスキを狙ってやってくれたよ」

貴「やってくれるじゃねえか！クソ！ っておい達也？監視カメラが無いってどう言う事だ？」

達「翔子さんが誤って壊したらしい 康太ですら修理不可なんだと」

しばらくして、問題のコンビがBクラス内で「ライダーズ」の悪口を言ってるのが聴こえたので根本に頼んでスタッフルームから聞かせてもらった

2 Fモブ「それにしても、ここの飯は美味いよな！ 監視カメラすら置いてないし、責任者がいないアホな2ーAとは大違いだよな、先輩？」

3 Aモブ「全くだ！ おまけに竹原先生の指示に従わんバカな夏川と常村を拾って

何になるってんだよ！　仮面ライダーってのはバカしか居ないみたいだな！　そんなバカなんか俺でも倒せるっつーの！」

貴「根本、今のつて録音、録画してあるか？　あれば両方のコピーをくれ」

優「全く好き勝手言ってくれるじゃない！　しかもあいつら次の相手よね？　あい

つらの目の前で言つてやりましょ！　バカはどっちだつてね！」

根「うちのクラスので良ければいくらでも証拠として使つてくれ　友香の借りがあるからな」

召喚大会二回戦会場

2Fモブ「よお、バカな仮面ライダーさん」

貴「バカはどっちだ　本人達に聴かれてるとも知らずに名誉棄損とはいいい度胸じゃんか　その度胸は褒めてやるよ」

3Aモブ「全くバカだよ　証拠も無えのにごちやごちやとほぎきやがつて」

優「証拠ならあるわよ！　バカコンビ！　西村先生、これを大音量でかつ、大画面で流してやってください！」

西「分かった　すぐに流そう」

先ほど、Bクラスで話していた悪口が会場内に流れた

偶然見に来ていた学園長も流石に我慢出来ず、モブコンビの召喚獣のフィードバック

を80%に設定してくれた

フィールドは英語が設定された

貴、優『変身!』

今度はTと書かれた青色のガイアメモリを貴斗が、Hと書かれた赤色のガイアメモリを優子が持ち、ガイアメモリのボタンを押した

ヒート! トリガー!

貴斗がWドライバーを腰に付けたと同時に優子の腰にもWドライバーが現れた

優子は自分の腰に付いたWドライバーの右側にヒートメモリを差し込んだ

すると、優子の腰のWドライバーからヒートメモリが消え、貴斗のWドライバーの右側にヒートメモリが出現した

貴斗は出現したヒートメモリをそのまま押し込み、トリガーメモリを左側に差し込んでからWドライバーを左右に展開した

ヒート! トリガー!

そう音が鳴り、貴斗は仮面ライダーWヒートトリガーに変身した

貴「優子! あいつらには通常のマキシマムドライブじゃ生温い! 身体に負担がかかるがとっておきを使う!」

優「分かったわ! 思いっきり全力でいきましょ!」

それと同時にWの変身が解け、優子が立ち上がったのと同じタイミングで貴斗がふらつくように倒れかけた

西「そこまで！ 勝者呉島 貴斗 木下 優子ペア！」

勝ち名乗りを聞きながら優子はふらつくように倒れかけた貴斗をメディックの元へ連れていった

第14話 貴斗とマツハと準決勝

召喚大会二回戦終了後、優子は貴斗をメディックの元へ連れていった

優「今回はしょうがないけど、次から自分への反動を考えずに動くのは禁止よ いい？」

貴「約束する」

養「貴斗さん、私の治療はまあまあ痛いけれど治りがゆっくりなコース、かなり痛い代わりに即効で回復するコースのどちらがお好みですか？」

貴「かなり痛い代わりに即効で回復するコースで治してください お願いします」
5分して

養「貴斗さん、終わりましたよ」

貴「ありがとうございます、メディック 仕事に戻るか」

2-Aクラス コスプレ喫茶「ライダーズ」

貴「雄二！ 現状は？」

雄「売上は全く伸びねえ 面目無い、俺が残らなかつたばつかりに」

貴「気にすんな 過ぎたことは悔やんでも仕方ない 康太、明久と美波さんにとつ

ておきのコスプレを着させて、宣伝して来いって言ってくれ」

康「…もう行かせた こっちは任せろ 召喚大会勝って来い」

貴「じゃそろそろ時間だし、行くか」

召喚大会準決勝会場

西「呉島弟、木下姉、頑張れよ 俺も後で食べに行く」

貴「分かりました 精一杯おもてなしさせていただきます」

優「貴斗、頑張ろう！」

根「お前らが相手か 友香の事は感謝してるが、勝負となれば話は別だ 本気で

行かせてもらう」

貴「こつちこそ動画提供感謝してるが、俺も本気で行かせてもらう」

西「科目は数学！ フィールド展開！」

根、小『サモン！』

その声を聞きながら貴斗はマツハドライバー炎を、優子はデンオウベルトを腰に付けた

貴斗はマツハドライバー炎のシグナルライティングパネルを上へ上げ、シグナルマツハをシグナルライティングパネルにセットし、優子はデンオウベルトの赤いボタンを押した

貴、優『(Let's) 変身!』

そう言いながら、貴斗は叩く様にマツハドライバー炎のシグナルライティングパネルを下に下げ、優子はデンオウベルトにライダーパスをかざした

シグナルバイク!

ライダー! マツハ!!?

ソードフォーム!

その音が鳴り、貴斗は仮面ライダーマツハに、優子は仮面ライダー電王ソードフォームに変身した

貴「追跡!

撲滅!

いずれもマツハ〜!

仮面ライダー〜マツハ!!

？」

と言いながら根本達を右手で指差し、一回回つてから右手の拳を左手の平に当て、右手を根本達を指す様に横に回し、両手を拍手する様に組み、両手を大きく開き、右腕を2〜3回回し、深く伸脚する様に屈み、右手の薬指と小指を曲げて人差し指と中指を伸ばして状態で右手を顔の横でチャライ感じに動かした

優子は右手で自分を指し、少し屈みこんで左手を前に突き出し、こう言った

優「私、参上!」

モモタロス「行くぜ、男女!

必殺 俺と男女の超必殺技!」

そうモモタロスが言ってるのを聞きながら、優子はデンオウベルトにパスをかざし、

貴斗はマツハドライバー炎のシグナルライティングパネルを上へ上げ、ブーストイグナイターを押し、シグナルライティングパネルを下へ下げた

ヒツサツ！ フルスロットル！ マツハ!!？

フルチャージ!!？

そう音が鳴るのと同時に貴斗と優子は会場の天井まで届くぐらいジャンプしてから召喚獣にキックを放った

同時に点数が表示され、更新された

2年Aクラス 呉島 貴斗 木下 優子 VS 2年Bクラス 根本 恭二 小山 友香

358点

465点

253点

249点

358点

465点

0点

0

点

西「そこまで！ 勝者 呉島 貴斗 木下 優子ペア！」

勝ち名乗りを聞きながら貴斗と優子は変身を解除した

次が光実と秀吉の試合だったので見てから戻る事にした

その試合で意外な事が起こるとは知らずに、

第15話 光実と姫路とチート

貴斗と優子ペアの試合が終わって5分程経った

西「これより準決勝第二試合 呉島 光実 木下 秀吉 対 清水 美春 姫路

瑞希 の試合を行う！ 科目 総合 始め！」

その声を聞きながら光実は戦極ドライバーを腰に付け、ブドウロックシードを解錠し、戦極ドライバーにブドウロックシードを装着した

同時に秀吉はブレイクガンナーの銃口を押し込んだ

光、『変身！』

そう言いながら光実は戦極ドライバーのブレードでブドウロックシードを切り、秀吉はブレイクガンナーを頭上に掲げて、光実は仮面ライダー龍玄、秀吉は魔進チェイサーに変身した

姫路と清水は召喚獣を呼び出した

そこで互いの点数が表示された

2年Aクラス 呉島 光実 木下 秀吉 VS 2年Dクラス清水 美春

2年Fクラス 姫路 瑞希

4750点
3580点
11111点
11111点

光「何だその点数は!？」
チートじゃないか! 学園長! どう言う事なんですか!!
?」

学園長「私にも分からんさね システムの限界の点数を越える筈はないさね! あの2人にシステムを弄れるとは思えないさね 竹原辺りが弄つたと見て間違いないさね!」

美春「試合中に余所見とは余裕ですわね!」

光実「召喚獣の攻撃をもろに食らって、変身が解除され、戦極ドライバーが倒れかけた光実の腰から外れ、光実の前に落ちた

そこに姫路の召喚獣が攻撃を仕掛けようとしていた

それをみた貴斗は光実にロックシードを解錠しながら投げた

貴「兄貴! これを!!?」

ドライブ!

光実はすぐに戦極ドライバーでドライブロックシードを受け取り、そのまま戦極ドライバーを腰に付けた

すると、頭以外が仮面ライダー龍玄(アームズなし)に変わった

そのまま、姫路の召喚獣の攻撃を受け止め、叫んだ

光「お前らみたいな外道に屈しない！ お前らみたいな外道と戦うためにここにいる

!!? 変身!!?»

そう言いながら光実は戦極ドライバーのブレードを切った

ハイー！ドライブアームズ！ひとつ走り いぎ トウギヤザー!!?»

その音が鳴り、光実は仮面ライダー龍玄ドライブアームズに変身し、ハンドル剣を構えた

同時に秀吉もブレイクガンナーにチエイサースパイダーバイラルコアをセットした

チューン！ チエイサースパイダー!!?»

ブレイクガンナーを持つ手にフアングスパイデーが装着するのを見ながら、秀吉と光実は召喚獣に攻撃を仕掛けた

しかし、秀吉はもろに姫路の召喚獣の熱線を食らい、吹き飛ばされながら変身が解除され、点数が0点と表示され、壁にぶつかり、そのまま動かなくなつた

光実も何とか攻撃を当て、点数を減らしたが、清水の召喚獣の攻撃を食らい、会場のステージから落ちかけ、点数が0点と表示された

西「そこまで！（くそっ！）勝者 清水 美春 姫路 瑞希ペア！」

その声を聞きながら貴斗と優子は光実と秀吉の元へ向かった

貴、優『秀吉！ 兄貴（光実さん）！大丈夫か？』

秀「姉上、儂は…姉上に…託し…た…ぞい…」

光「点数を減らしたが…貴斗はともかく、優子さんとモモタロスでは勝てるか分からない
だけど貴斗、これではつきりした 竹原の下にいる奴が 絶対お前が勝つ

て、この学校を守れ!!？」

優子はそのまま貴斗のトライドロンを借り、秀吉を病院へ連れて行った

貴斗は後のことを雄二と翔子さんに任せ、光実と共に帰った

貴斗は光実には聞こえないぐらいの声でつぶやいた

貴「あれしかもう手が無い 1〜2年ぶりだが使えるかな？」

第16話 何故貴斗と優子は爆発に巻き込まれた筈なのに死んでいないのか？

貴斗は光実を連れて呉島家へ帰ってきた

貴虎「光実!?! 貴斗、一体何があつた!?!」

西「それは私が説明します 光実君と貴斗君のお兄さん」

貴虎「あなたは？」

西「貴斗君と光実君の通う文月学園の生徒指導担当で先程、光実君の試合の審判をしていた西村 宗一と申します」

貴「西村先生! 話は後にしてとりあえず兄貴をリビングの方へ!」

西「分かった」

光実をリビングに運び、横に寝転がした後

貴虎「それで、貴斗 西村先生 一体光実に何があつたんですか？」

貴「実は、〈第15話参照〉って事があつたんだ」

西「申しわけありません! 私がもう少し早く止めていれば光実君と木下弟は大怪

我を負わなくて済んだのに!」

貴虎「木下弟？ 貴斗、秀吉も大怪我を？」

貴「そうなんだ 今優子が俺のトライドロンを使って病院へ連れて行つてる筈なんだ」

ベ「貴斗！ 光実君は無事か!？」

貴「ベルトさん 秀吉よりは怪我は軽いけど無事とは言い切れない」

ベ「分かった マッドドクター、光実君の怪我の治療を頼む」

西「ベルトが喋った!？ 貴斗、お前は一体、」

ベ「これは失礼 西村先生 私はクリーム・スタインベルト 訳あつてこの姿なんだ」

貴「ベルトさん 明日の決勝、あいつを久しぶりに使う！ 兄貴の仇は俺が取る！」

その後西村先生が帰り、2ーAのコスプレ喫茶「ライダーズ」の責任者メンバーが優子、秀吉と共に呉島家に来た

秀吉は奇跡的に骨折等の大事には至らなかったが3日は物を持つのは禁止らしいので決勝の会場で貴斗を見守る気らしい

貴斗はすぐに明日に向けた特訓を呉島家地下で行い始めた

翌日 呉島家

優「貴斗、いよいよだね 絶対に秀吉と光実さんの仇は私達で取ろう！」

光「貴斗、観客席で兄さんと秀吉と応援してるから絶対に負けるなよ！ 負けたら学

園が無くなるかも知れないんだから」

貴「分かっている　もう少し特訓していくから兄貴は先に行つてて」

召喚大会決勝会場

西「呉島弟と木下姉の奴大丈夫か？　そろそろ始まるのに」

光「来た！　貴斗のトライドロンド！　優子ちゃんも一緒にいる！」

その時、学園長の隣に座る竹原の口が歪んだのを光実は見逃さなかった

光「貴斗！　危ない!!？」

と光実が叫んだその瞬間、貴斗と優子の乗っているトライドロンのタイヤが学園内に入ったタイミングでトライドロンの近くで爆発が起こった

トライドロンは貴斗達を乗せたまま、爆風で吹き飛ばされて会場付近まで横転したが、一瞬光つて、何事もなかったかの様に止まり、トライドロンの中から怪我一つ無く貴斗と優子が出てきた

優「えっ!?　今横転したはずじゃ!？」

優子は状況が飲み込めずにうろたえていた

貴（ベルトさん装着）「兄貴！　待たせたな！」

貴「優子、お前を守れて良かったよ」

そう言った後、貴斗の目が赤く光り、貴斗の声がベルトさんの声に変わった

貴（声ベルトさん）「後は 私達に任せたまえ！ 優子」

貴「ハート、優子を頼む」

熱「任せとけ 行ってこい 貴斗！」

竹原「バカな！ 今爆風で吹き飛ばされて横転したはずだ！ 何故生きている!? 今何が起こった!？」

貴「横転する直前に変身した だから優子を救う事が出来た もう一度ゆっくりよ〜く見せてやる！」

そう言うのと、貴斗はドライブドライブのキーを回し、他のシフトカーより少しだけ長いシフトカー シフトトライドロンのRと書かれた赤いボタンを押した

ファイヤ！ オールエンジン!!？

そう音が鳴るのを聞きながら貴斗はシフトブレスにシフトトライドロンをセットした

貴、ベ『変身!』

そう言うって、貴斗はシフトトライドロンをレバーの様に動かした

ドライブ！ タイプ トライドロン!!？

そう音が鳴り、貴斗はバラバラに分かれたトライドロンを纏うように仮面ライダードライブタイプトライドロンに変身した

優「ドライブとトライドロンが一つになった!？」

西「科目 総合 始め！（呉島弟が無事で良かった!）」

清水と姫路は召喚獣を呼び出した

貴斗はすぐに清水と姫路の召喚獣に攻撃を仕掛けた

同時に互いの点数が表示された

2年Aクラス呉島 貴斗 VS 2年Dクラス清水 美春 2年Fクラス姫路

瑞希

879点

2405点

2304点

貴斗が仕掛けた攻撃はあまり当たらず、逆に清水のカウンターを食らった

そのまま、姫路の召喚獣が熱線を放とうとする

秀「貴斗、逃げるのじゃ!」

貴「確かに、俺は、食らいたくないなああの熱線」

その瞬間、ドライブタイプトライドロンの目が赤くなり、ベルトさんの声に変わった
 べ「OK! 貴斗、運転を代わろう!」

そう言うのと、姫路の召喚獣の熱線を弾き、猛スピードで清水と姫路の召喚獣にタックルをかました

同時に点数が更新された

2年Aクラス 呉島 貴斗 VS 2年Dクラス 清水 美春 2年Fクラス

姫路 瑞希

839点

1905点

1404点

西「今戦っているのはまさか、クリムなのか？」

ベ「Exactly 西村先生 私はかつて貴斗と共に戦った時に貴斗が一度死にかけた事があった その時に貴斗を絶対に死なせないために貴斗の心に私のデータそのものを融合させた その状態で貴斗が生き返った事がこの計算外でAmazingなドライブを生んだのだ！」

竹原「バカな！ 信じられん！」

ベ「私もだよ 初めてのこの姿に変身してから何度も変身したのにAmazingな体験としか思えないんだ」

貴「ベルトさん このドライブの運転の仕方 一通り思い出したぜ！」

ベ「OK！ 再び運転を代わろう！」

そう言つてドライブの目が黄色に戻り、声も貴斗に戻った

ドライブタイプトライドロンは素早く清水と姫路の召喚獣を攻撃した

さつきとは違い、ほぼ全ての攻撃が当たった

再び点数が更新された

2年Aクラス 呉島 貴斗 VS 2年Dクラス 清水 美春 2年Fクラス

姫路 瑞希

839点

505点

504点

貴「今の俺はベルトさんと心身一体！ 体はトライドロンのものだ！ シフトカーズのみんなの力、まとめてくらいやがれ！」

そう言って、貴斗はドライブドライバのキーを回してから、シフトトライドロンのタイヤマークの書かれた黒いボタンを押した

カモン!!？ フレア！ スパイク！ シャドー！

そう音が鳴るのを聞きながら、貴斗はシフトトライドロンをレバーの様に動かした
タイヤカキマゼール！ アタック1・2・3!!？

そう音が鳴り、ドライブタイプトライドロンのシフトプレスをつけている方の腕にマックスフレアタイヤ、ファンキースパイクタイヤ、ミッドナイトシャドータイヤの順でタイヤがはまり、3つのタイヤが一つのタイヤに変わってドライブタイプトライドロに装着された

秀「タイヤが3つくつついたぞい!!（話には聞いておったがやはり近くで見るとすごい能力じゃのう）」

素早く清水の召喚獣が剣をドライブタイプトライドロンに対して振った

貴斗はドライブドライバーのキーを回し、シフトトライドロンをレバーの様に一回動かした

アタック1・2・3!!?

そう音が鳴り、清水の召喚獣の攻撃を避けながらドライブタイプトライドロンは4人に分身し、清水と姫路の召喚獣を囲み、ファンキースパイクタイヤとマックスフレアタイヤそれぞれのタイヤ単体の十倍の威力でニードルと炎と手裏剣型のオーラを清水と姫路の召喚獣に放った

そのタイミングで点数が更新された

2年Aクラス 呉島 貴斗 VS 2年Dクラス 清水 美春 2年Fクラス
 姫路 瑞希

839点

255点

254点

ベ「トレーラー砲でフィニッシュを決めろ!」

そうベルトさんに言われた貴斗はいつの間にか貴斗の近くに來たトレーラー砲を大

砲モードにしてからトレーラー砲のシフトランディングスロットにシフトスピードをセツトした

スピード砲！

その音が鳴るのを聞きながら、シャッターゲートパネルをずらして、シフトトライドロンを变身する時に押した赤いボタンを押してからトレーラー砲のシャッターゲートに入れた

フアイヤ！ オールエンジン!!？

ヒツサツ！ フルスロットル！

フルフル！ スピード！ ビック！ 大砲!!？

そう音が鳴るのを聞きながらトレーラー砲のフルスロットルトリガーを引いたドライブタイプトライドロンアタック1・2・3がタイプスピードに姿を変えたとほぼ同時にトレーラー砲のハッチゲートマズルから姫路の召喚獣の熱線とは比べ物にならないぐらい強力なエネルギー砲が発射され、清水と姫路の召喚獣を貫いた

そのタイミングで点数が更新された

2年Aクラス 呉島 貴斗 V S 2年Dクラス 清水 美春 2年Fクラス

姫路 瑞希

839点

0点

0点

西「そこまで！　優勝は2年Aクラス　呉島　貴斗　木下優子ペア！」

西村先生の勝ち名乗りを聞きながら、ドライブは変身を解除した

ベ「ナイス　ドライブ！　よく頑張った貴斗!!？」

その後、学園長から表彰を受け、腕輪のデモンストラーションは大成功に終わり、成
功を喜ぶ先生達だった

、、、
たった一人を除いては

第17話 竹原と逮捕と複雑心情事件捜査課

腕輪のデモンストレーション終了後、教頭室

竹原「ちつ、あいつら失敗しやがって！ 拳句どいつもこいつも失敗しやがって役

立たずが!!? たかがまともプログラミングも出来んババアを追い出すのを邪魔しても何一つ良いことなんかねえのに邪魔しやがってあのクソ餓鬼共！ 社会からいらない塵ババアを追い出そうとして何が悪い!!?」

この時、二つの事を竹原は知らない

自分の言葉が自分が塵ババアと呼んでいた学園長を含めた学園全体に丸聞こえだった事

もう一つは、貴斗のかつての上司である刑事が2人、私服でいた事

召喚大会決勝戦会場

竹原『ちつ、あいつら失敗しやがって！ 拳句どいつもこいつも失敗しやがって役

立たずが!!? たかがまともプログラミングも出来んババアを追い出すのを邪魔しても何一つ良いことなんかねえのに邪魔しやがってあのクソ餓鬼共！ 社会からいらない塵ババアを追い出そうとして何が悪い!!?』

と大画面でかつ大音量で竹原が学園長や貴斗達の悪口を誰も聞いてないと思いがながら喋っているのが会場で流れていた

貴「アホだな あの人、康太によって部屋が改造されてるの知らずに」

優「貴斗、どう言う事？」

貴「散々営業の邪魔してくれやがったお返しに、康太に頼んで竹原の居ないタイミングで教頭室を改造してもらったんだよ」

その時、2人の大人が貴斗に声をかけた

本願寺「久しぶりですね〜貴斗ちゃん！ 元気ですか？」

追田「久しぶりだな、貴斗！ 元気にしてたか？」

貴「追田おった警部補、本願寺ほんがんじ課長 お久しぶりです！」

追田「貴斗、その隣の子は？」

優「初めまして 追田さん、本願寺さん 貴斗の彼女の木下 優子です」

そのタイミングで追田警部補の携帯が鳴った

追田「はい、複雑心情事件捜査課の追田ですが」

仁良「捜査一課の仁良にらだ 匿名情報を頼りに聞いてみた所、神無月高校の教頭が賄

賂行為を自白したから逮捕しといたぞ」

追田「そつちの後処理は仁良さんに任せますんで、こつちの方の教頭は任せてくださ

い—」

仁良「任せるぞ それと匿名情報提供者、いや、貴斗君に伝えといてくれ 情報提供ありがたいな と」

そう言つて仁良からの電話は切れた

貴「仁良さん何て言つてました？」

追田「貴斗のおかげで神無月高校の教頭逮捕出来たつてよ」

貴「礼なら俺じゃなくて康太に言つてください あいつの馴染みのカメラ店の隣の居酒屋で賄賂行為してたのを本人が録音、撮影したんですから」

追田「そうか じゃアホの竹原を逮捕してくるか 久しぶりに一緒に行くか？」

貴「優子も一緒に良いですか？」

追田「いいぜ！ カップルの仲を割く程俺もアホじゃないしな」

教頭室

貴「失礼します 竹原教頭先生」

竹原「用件は一体何なんだ!？」

貴「俺じゃなくて、この人達が用があるみたいですよ」

追田「失礼する 複雑心情事件捜査課の追田 現八郎げんぱちろうつて者だ

竹原！ あんたを収賄容疑及び侮辱罪の疑いで逮捕する！」

文月学園教頭

竹原「証拠は？ 私がやったと言う証拠はあるのか？」

貴「証拠ならあるぜ？ あんたが他校の教頭と店に入ったのを目撃してた生徒がいたんだよ！」

竹原「バカバカしい 私が神無月高校の教頭と文月カメラの隣の居酒屋に入つて何が悪い？」

優、追田『竹原（先生） 貴斗は今、何て言いましたっけ（言つた）？』

竹原「他校の教頭、店、しまつた!!？」

貴「ボロ出したな竹原！ 俺は他校の教頭と店に入ったのを目撃してた生徒がいたつて言つただけだ！ なんで神無月高校の教頭と文月カメラと居酒屋が話に上がる？」

写真も撮られてたんだよ！ あんたが神無月高校の教頭に賄賂行為働いてた現場が偶然文月カメラで買ひ物してた康太にな!!？ もう一つ良い事教えてやるよ この

部屋でのさつきの一人事も今の会話も全部学園長に筒抜けだぜ？」

学園長「呉島弟、そこまででいいさね 学園長として通知する 竹原！ あんたは職員会議にかけるまでもなく解雇確定さね！ よくも私を塵ババア呼ばわりしてくれたさね！ 今すぐ出て行きな！」

学園長から解雇通達を受けた竹原は懐からサバイバルナイフを出して構えた

竹原「ちつ、おい！ 刑事さんよ、一歩でも動いてみる 深い傷を、」

貴、康『負うのはテメエだ（お前）！』

そう言うが早いか貴斗といつの間にかいた康太の2人が竹原の顔面にドロップキックをかまし、康太は自分用に改造したスタンガンを竹原に押し付け、同時に貴斗は竹原の手からサバイバルナイフを奪い、サバイバルナイフの峰側を竹原の首の後ろに押し付けて、スタンガンを避けられないようにした

竹原「ギャアアアアアアアアアアアアアアアアアアアアアアアアアアアアアア！」

そう叫んでまともにスタンガンの電撃を浴びた竹原は気絶した

追田「午後4時40分 収賄容疑、侮辱罪の疑い及び傷害未遂の現行犯で文月学園

教頭 竹原を緊急逮捕！」

そう言うって追田警部補は竹原に手錠をかけた

この日 教頭室から悲鳴が聞こえた後、竹原が逮捕され、警察に連行されたのを見た31Aの夏川と常村を除いたメンバーと21Fメンバーと21Dの清水 美春が絶望し、真つ白になったのは言うまでもなかった

貴、優『あの真つ白になってる人達、竹原の駒で、しかも、コスプレ喫茶『ライダーズ』の営業妨害をしてきて、おまけに、大会に召喚獣のデータを改ざんして出場した奴らです！』

本願寺「さて、その君達 何で営業妨害にデータ改ざんを働いたか聞かせてもら

いますよ?」

清涼祭翌日、代休で生徒のいない文月学園の会議室にて

学園長「これより、元教頭の竹原の駒となっていた2ーFと3ーAのメンバー、2ーD 清水 美春の処分を決める会議を開始するさね」

西「学園長、竹原元教頭とはどう言う事で? それと竹原の駒とは?」

学園長「竹原の奴は決勝後に収賄容疑及び侮辱罪の疑い、傷害未遂の現行犯で逮捕されたさね 竹原の駒については、これは呉島弟に聞いた話だが、営業妨害を責任者が不在のタイミングで起こしたり、他のクラスで騒いだり、挙句の果てには召喚大会でデータ改ざん行為を働いたりしたそうさね

3 Aのメンバーがやった理由については竹原に推薦状を書いてもらうためにやったと話したそうさね

2ーFと清水については、個人的な恨みで妨害をしたと話したらしいさね

よつて、私は2ーFと3ーAのメンバーと2ーDの清水を、夏川と常村以外の3年と2年を2週間停学、夏川と常村については本人達には悪いが、2ーAに編入させようと思っているさね 反対はないならこれで決定するさね」

清涼祭後の登校日、2ーAにて

夏先輩「よう、貴斗! ありがとな! お前のおかげでスッキリしたぜ!」

常先輩「ありがとな！ 貴斗！」

貴「別にお礼はいいんですが、何で先輩方はここに？」

学園長「それは私から話すさね 昨日、職員会議で2年の清水、Fクラス、3年A

クラスの処分が決まったさね 夏川と常村は2年Aクラスに編入、清水と2-Fと夏

川と常村以外の3-Aのメンバーは2週間の停学処分に決まったさね」

夏川「てな訳だからよ、夏川って気安く呼んでくれよ、貴斗！」

常村「俺も常村でいいからな！ 呼びにくいならさん付けでもいいからよ！」

貴「これからよろしくな！ 夏川、常村!!？」

夏川、常村『おう！』

番外編その2

番外編2話

貴斗と焦る秀吉と決闘

清涼祭から三日経ったある日

2年Aクラス

貴「明久、いつものメンバーで模擬試召戦争やらないか？」

明「OK！ メンバー分けはどうする？」

貴「俺、優子、夏川、常村、康太、愛子、エリカ、レオ、幹比古で俺のチーム、明久、美波さん、雄二、翔子さん、秀吉、兄貴、達也、深雪、美月で明久チームでいいだろ

西村先生 科目総合固定で模擬試召戦争を行います！」

西「分かった！ フィールド展開！ 呉島弟チームはゼツケンを付けてから召喚等を行うように！ 模擬試召戦争開始!!？」

貴、優、秀、光以外『サモン！』

貴斗と光実 は戦極ドライバーを、秀吉はマツハドライバー炎を、優子はデンオウベルトを持ち、それぞれ腰に付け、貴斗はカチドキロックシードと極ロックシードを、光実はブドウロックシードを解錠して、戦極ドライバーにセットした

カチドキ!!?

フルーツバスケット!!?

ロックオン!

ブドウ!!? ロックオン!

秀吉はマツハドライダー炎のシグナルライティングパネルを上へ上げ、シグナルチェイサーをセットした

シグナルバイク!

優子はデンオウベルトの黄色のボタンを押しした

それぞれのベルトやドライバーの待機音が鳴り出したと同時に、貴斗はカチドキロックシードを戦極ドライバーのブレードで切り、極ロックシードを前に倒すように回し、光実はブドウロックシードを戦極ドライバーのブレードで切り、秀吉はマツハドライダー炎のシグナルライティングパネルを下へ下げ、優子はデンオウベルトにライダーパスをかざした

貴、優、秀、光 『変身!』

ロックオープン! 極アームズ! 大・大・大・大・大・大 大將軍!!?

ブドウアームズ! 龍・砲・ハッ・ハッ・ハッ

ライダー! チェイサー!!?

アックスフォーム!!?

そう音が鳴り、貴斗は仮面ライダー鎧武極アームズに、光実は仮面ライダー龍玄ブド

ウアームズに、秀吉は仮面ライダーチェイサーに、優子は仮面ライダー電王アックスフォームに変身した

同時に周りの召喚獣のサイズが変わった

光「貴斗、ハーレー博士に改造して貰ったこれで勝負だ！」

そう言つて光実はブドウロックシードより茶色いロックシードを取り出して解錠し、ドライバーのロックシードをはめ替えて、再びブレードを切った

ヨモツヘグリ！

ヨモツヘグリアームズ！ 冥・界・黄泉・黄泉・黄泉・黄泉!!?

そう音が鳴り、仮面ライダー龍玄ブドウアームズは、仮面ライダー龍玄・黄泉ヨモツヘグリアームズに変身し、どこからか白い大剣を取り出して貴斗に向かって来た

それを見ながら貴斗は極ロックシードを前に倒すように二回回した

火縄大橙DJ銃！ 無双セイバー！

そう音が鳴り、火縄大橙DJ銃と無双セイバーがどこからか出て来て、貴斗によって火縄大橙DJ銃と無双セイバーが一つの大剣になり、光実を迎え撃った

両者の大剣が激しくぶつかり合い、火花を散らした

それを見ながら、秀吉は信号機と斧が一つになったような見た目の武器、シンゴウアックスを構え、優子に迫った

対する優子も慌てずにデングガツシャーをアックスモードに組み立てて秀吉を迎え撃った

こちらも、互いの斧がぶつかり合い激しく火花を散らしたがどちらも直ぐに決着がついた

貴斗と光実の方は光実の変身が解けていた

一方、優子と秀吉はほぼ同時に変身が解けていた

召喚獣の方も決着がついていた

西「そこまで！ 勝者！ 呉島弟チーム！」

そのタイミングで優子と秀吉にベルトさんからダメだしが入った

ベ「優子はモモタロス以外のイマジンに慣れてなさ過ぎる！ しばらく、モモタロ

ス以外のイマジンを憑依させた状態で生活する事をお勧めする 秀吉君にはどこか

焦りが見えた それが原因で仮面ライダーチェイサーの力が魔進チェイサーの時より

弱くなってしまっている もしかしてだが、秀吉君はこの間の召喚大会で相手のチー

トとはいえ、光実の足を引っ張ってしまった事を引きずり、自分が弱かったと自覚して

しまい、焦っているのではないか？」

秀「何故分かったのじゃ？」

ベ「分かるとも 貴斗も以前マツハを使っている時に同じ状況に陥ってしまったていた

からな」

貴「秀吉、俺と決闘しよう　自分が何で魔進チェイサーの力を手に入れたのかそのきつかけを思い出すために！」

そう言うのが早いか、貴斗はマツハドライバー炎を腰に付け、マツハドライバー炎のシグナルライティングパネルを上へ上げ、シフトデッドヒートをセットしていた

シグナルバイク&シフトカー!!?

貴「Let's　変身！」

秀「分かったぞい！　変身！」

そう言つて、秀吉は腰からマツハドライバーを外してから、ブレイクガンナーの銃口を押し込み、貴斗はマツハドライバー炎のシグナルライティングパネルを下に下げた

BREAK　UP!!?

ライダー！　デッドヒート!!?

そう音が鳴り、貴斗は仮面ライダーデッドヒートマツハに、秀吉は魔進チェイサーに変身した

秀吉は直ぐにブレイクガンナーにチェイサーズパイダーバイラルコアをセットした

チューン！　チェイサーズパイダー!!?

ブレイクガンナーの横にファンクスパイダーが装着されるのを見ながら、秀吉は貴

斗に向かっていった

が、貴斗は冷静に秀吉の攻撃を避け、ゼンリンシユーターの前輪で秀吉を攻撃した

秀「何故じゃ！ 何故当たらんのか!?」

べ「それは秀吉君、君自身が焦って力を手に入れようとしているからだぞ！ 思い出すんだ！ 君が何を守る為に魔進チエイサーの力を手に入れたのか！」

貴「それを思い出さない限り、お前に仮面ライダーチエイサーの力は使いこなせない！ お前は優子を守る為に魔進チエイサーの力を手に入れたんじゃないのか!」

思い出せよ！ 秀吉!!？」

そう言いながら、貴斗はマツハドライバー炎のシグナルライティングパネルを上に向けて、ブーストイグナイターを押し、シグナルライティングパネルを下に下げた

ヒツサツ！ バースト！ フルスロットル!!？ デッドヒート!!？」

その音が鳴り、貴斗の周りを赤いタイヤの様なオーラが纏った

その状態で貴斗はAクラスの天井まで飛び上がり、魔進チエイサーに向かって蹴りを放った

蹴りを受けた秀吉の変身が解除された

秀「そうじゃった！ 儂は姉上を守る為に魔進チエイサーに変身したのじゃった！

儂はもう一度姉上を守る為にやり直すのじゃ！」

そう言いながら、秀吉はマツハドライバー炎を腰に付け、シグナルライティングパネルを上上げた

秀「変身！」

そう言いながら、秀吉はマツハドライバー炎のシグナルライティングパネルにシグナルチェイサーをセットし、シグナルライティングパネルを下に下げた

シグナルバイク!!? ライダー! チェイサー!!?

その音が鳴り、秀吉は仮面ライダーチェイサーに変身した

そのまま秀吉はマツハドライバー炎のシグナルライティングパネルを上へ上げ、ブーストイグナイターを押し、シグナルライティングパネルを下に下げた

それと同時に貴斗はブーストイグナイターを連打した

ヒツサツ! フルスロットル!!? チェイサー!!?

バースト! キュウニテッドヒート!!?

その音が鳴り、秀吉は貴斗に蹴りを放ったが貴斗は直前で避け、ゼンリンシューターで秀吉を攻撃した

秀「のわ!」

しかし、直ぐに秀吉は立て直し、シンゴウアックスを構え、シグナルランディングパネルにシグナルチェイサーをセットした

ヒツサツ！ マツテローヨ！ マツテローヨ！ マツテローヨ！

そう音が鳴り響いた

秀「なん、じゃと!？」

そう言いながら、秀吉はシンゴウアックスを地面に立てた

マツテローヨ！ マツテローヨ！ マツテローヨ！ マツテローヨ！

そう音が鳴ってる間、貴斗と秀吉は互いの銃系の武器で撃ち合った

マツテローヨ！ マツテローヨ！ マツテローヨ！ イッテイーヨ！

そう音が鳴ったと同時に秀吉はシンゴウアックスを構え直し、フルスロットルトリガーを押して、シンゴウアックスを上には振りかぶった

フルスロットル!!？ チェイサー!!？

そう音が鳴り、貴斗が横断歩道の様なオーラに纏われ、秀吉はそのオーラ通りにシンゴウアックスを振り抜いた

貴「ぐわっ！」

まともに食らった貴斗の変身が解除された

それと同時に秀吉はマツハドライバー炎のシグナルライティングパネルを上へ上げ、シグナルチェイサーを抜いて、ブーストイグナイターを押して、シグナルライティングパネルを下に下げた

オツカーレ!

そう音が鳴り、秀吉の変身が解除された

貴「その目、どうやら思い出したみたいだな　これならばらくは後ろを任せても安心だな!」

秀「うむ、儂が魔進チエイサーに変身した理由、どうして忘れてしもうたんじやろうか!　今なら、姫路も清水でも誰でも来いって感じじゃ!」

ベ「君が思い出してくれて本当に良かったよ　2人共　ナイスドライブ!」

番外編3話

貴斗と優子とガオウ討伐

清涼祭から四日経った日

貴斗は、光実、貴虎、優子、秀吉と朝からの特訓をし終えて休んでいた

貴「疲れた〜」

秀「相変わらずハードメニューでの特訓じゃったのう」

優「貴斗、今日泊まってもいい？ 丁度明日も休みだし」

貴「いいぜ！ 秀吉も泊まってくれよ！」

秀「貴斗がそういうのであればお言葉に甘えるところかろう」

その日の夜、貴斗と優子と秀吉は、呉島家のリビングで3人で寝ていたのだが、謎の

足音が2人分していた

優斗「父さん、起きてよ！ 母さんと叔父さんも！」

貴「あんだ？ 父さんって誰の事だよ？」

優「うるさいわね 寝れないじゃな、あんだ誰よ!？」

秀「うるさいのう 一体なんなのじゃ、ってお主何者じゃ!？」

優斗「(そーいや、こっちの時間で会うのは初めてだったっけ) 初めまして 貴斗

さん、優子さん、貴方達の未来の子供の呉島くれしま 優斗ゆうとです こっちは相棒のデネブです」

貴「で、俺達の未来の子供とその相棒が俺達に何の用事だよ？」

優斗「実は、牙王が復活して、父さんと母さんの出会った時間を壊す為に父さん達の過去に飛んだんだ！ 僕達だけじゃ手が足りないんだ！ 力を貸して！」

貴「分かった ただし、一つ条件がある 今の時間からぴつたり二日前の俺も連れて行く事が条件だ」

優斗「分かった それなら急ごう！ 父さん、母さん！ 叔父さんも！」

二日前の貴斗も連れ、貴斗、優子、秀吉、優斗、デネブ、モモタロスはゼロライナーに乗り、ゼロライナーでトライドロンを引っ張った状態で貴斗と優子の初めて出会った時間に向かった

貴斗と優子の初めて出会った時間、貴斗達（幼少）のいる場所から離れたところにあるシヨツピングモール

賑やかな場所が突然、謎の列車が突っ込んできた為、瓦礫の山になり、そこにいた人々はパニックに陥った

人々『きや（うわあ） ああああああああ？！？』

そこにゼロライナーがトライドロンを引っ張った状態で到着し、ゼロライナーから貴斗、優子、秀吉、清涼祭後二日目の貴斗、優斗が降りてきた

丁度向かい側に止まっていたシヨツピングモールを瓦礫の山に変えた列車、ガオウライナーから一人の男とモモタロス達とは違うタイプのイマジン複数体が降りてきた

牙王「どうやらお前らは楽しんで消えるよりも、苦しんで死ぬ方が超が付くほど好ましいいな いいだろう まとめて面倒見てやるよ」

そう言つて牙王はデンオウベルトと似たようなベルトを腰に付け、金色のライダーパスを頭上に投げた

すると、金色のライダーパスが謎のエネルギーで覆われ、牙王の腰のベルト前に落ちてきた

牙王「変身！」

ガオウフォーム！

その音が鳴り、牙王は仮面ライダーガオウに変身した

それを見た貴斗と清涼祭後二日の貴斗は顔を見合わせ、互いに頷き、

貴斗はドライブドライバーに話しかけた

貴「ベルトさん！ ひとっ走り付き合えよ!!？」

ベ「OK! START WEXER ENGINE!!？」

その声を聞きながら、貴斗はドライブドライバーを、清涼祭後二日の貴斗はマツハドライバーを腰に付けた

それを見た秀吉もマツハドライバー炎を腰に付け、優子も腰にデンオウベルトを付け、優斗もゼロノスベルトを腰に付けた

ドライブドライバーを付けた方の貴斗はドライブドライバーのキーを回してからシフトトライドロンの赤いボタンを押してシフトブレスにセットし、マツハドライバー炎を付けた方の貴斗と秀吉は、ドライバーのシグナルランディングパネルを上に向けて、貴斗はシフトデッドヒートを、秀吉はシグナルチェイサーをセットし、優子はデンオウベルトの赤いボタンを押し、優斗はゼロノスベルトのアプセットレバーを自分の右手側に引いた

貴×2、優、秀、優斗『(Let's) 変身!』

そう言いながら、ドライブドライバーを付けた方の貴斗はシフトブレスにセットしたシフトトライドロンをレバーの様に動かし、マツハドライバー炎を付けた方の貴斗と秀吉はシグナルランディングパネルを下に下げ、優子はデンオウベルトにライダーパスをかざし、優斗はゼロノスベルトに緑色のゼロノスカードをアプセットした

フアイヤ! オールエンジン!!?

ドライブ! タイプトライドロン!!?

シグナルバイク&シフトカー!!?

ライダー! デッドヒート!!?

シグナルバイク!!?

ライダー! チェイサー!!?

ソードフォーム!

アルタイルフォーム!

そう音が鳴り、貴斗は仮面ライダードライブタイプブライドロンに、清涼祭後二日の貴斗は仮面ライダーデッドヒートマツハに、秀吉は仮面ライダーチェイサーに、優子は仮面ライダー電王ソードフォームに、優斗は仮面ライダーゼロノスアルタイルフォームにそれぞれ変身した

過貴「追跡! 撲滅! いずれもマツハ!!? 仮面ライダーマツハ!!?」

と過去の貴斗は言いながらガオウ達を指差し、一回回つてから右手の拳を左手の平に当て、右手をガオウ達を指す様に横に回し、両手を拍手する様に組み、両手を大きく開き、右腕を2〜3回回し、深く伸脚する様に屈み、右手の薬指と小指を曲げて人差し指と中指を伸ばして状態で右手を顔の横でチャライ感じに動かした

モモタロス「俺、参上!!? 今日ドライブもマツハもチェイサーも全員まとめてクライマックスだぜ!!? 行くぜ! 行くぜ! 行くぜ!!?」

電王ソードフォームが相手に向かって駆け出したのを皮切りにそれぞれがそれぞれの武器を構えて敵に走りこんで攻撃を仕掛けた

貴「過去の俺！ ガオウは俺と優子に任せろ！ 雑魚頼む!!？」

過貴「分かった！ 絶対倒せよ！」

ガオウ「たかが2人で俺を倒すだけ？ 楽しませろよ teme 俺ら」

貴、優子『上等だ（よ）！ ぶっ飛ばしてやるから覚悟しろ（しなさい）!!？』

そう言つて、貴斗と優子はガオウと互いの武器や拳をぶつけ合った

秀「儂等も行くだい！ 貴斗、優斗！」

過貴、優斗『おう！』

そう言つて秀吉達も敵イメージンに向かつて攻撃を仕掛けた

しばらくして

モモタロス「ようやく楽しくなってきたぜ！」

ガオウ「そうか？ 全然俺は楽しくねえよ もっと楽しませろよこの野郎」

モモタロス「見た目通りのデカイ口だな！」

貴「俺を忘れてもらっちゃ困るぜ！」

貴斗達3人は牽制し合いながら剣系武器をぶつけ合った

秀吉達側

秀「そろそろトドメと行こうかのう」

過貴「行くぜ 優斗、秀吉」

優斗、秀『おう（うむ）!!?』

そう言って過去の貴斗はマツハドライバー炎のシグナルライティングパネルを上
上げ、ブーストイグナイターを押し、シグナルライティングパネルを下に下げた

同時に、優斗はゼロノスベルトのフルチャージスイッチを押し、秀吉はシンゴウアツ
クスのシグナルランディングパネルにシグナルチェイサーをセットした

ヒツサツ！ バースト！ フルスロットル!!? デッドヒート!!?

フルチャージ！

ヒツサツ！ マツテローヨ！ マツテローヨ！ マツテローヨ！

その音を聞きながら、秀吉はブレイクガンナーで敵イマジンを撃ち続けた

マツテローヨ！ マツテローヨ！ マツテローヨ！ イツティーヨ！

その音が鳴ったのを聞いた秀吉はシンゴウアツクスを構え、フルスロットルトリガー
を引いた

同時に、過去の貴斗はタイヤ型の紅いエネルギーを身に纏った状態で飛び上がり、優
斗はゼロガツシャーサーベルモードにゼロノスカードをセットした

フルスロットル!!? チェイサー!!?

その音を合図に、過去の貴斗は蹴りを放ち、秀吉と優斗はそれぞれの武器を降り放つ
た

その攻撃が効いたらしく敵イマジンは全滅した

それとほぼ同時に、貴斗と優子が秀吉達の近くに吹き飛ばされてきた

貴、優『うおあつ?!? (きやあ?!?)』

秀「貴斗、姉上大丈夫かのう?!?」

ガオウ「全然楽しくねえ これで終わりだ あばよ」

そう言いながら、ガオウは金色のライダーパスを頭上に投げた

金色のライダーパスが再び謎のエネルギーで覆われ、ガオウベルトの前に落ちてきた

フルチャージ!

その音を聞きながら、ガオウは貴斗達にガオウガツシヤーを降り放った

優子達『のうわ(きやあ) ああああああ?!?、つてあれ?!?』

しかし、ガオウの攻撃は当たっていなかった 否、当てさせてもらえなかったと言っ

た方が正しかった

攻撃は当たる直前でベルトさんに運転が変わったドライブの方の貴斗に止められていた

ガオウ「ちつ、テメエら往生際が悪いって言葉を知らねえのか?」

モモタロス「ああ、知ってるよ 最後までクライマックスって意味だろう?」

そう言いながら、電王はドライブの隣に立った

貴「ベルトさん、運転俺に戻せ！ 行くぞ モモタロス、優子！」

モ、優『おう！（ええ！）』

そう言いながら、貴斗はドライブドライバーのキーを回し、シフトブレスのイグナイターを押した

同時に、優子はデンオウベルトにライダーパスをかざした

ヒツサ〜ツ！ フルスロットル!!？ トライドロン!!??!!？

フルチャージ！

モモタロス「行くぜ！ 俺と男女の超必殺技簡略版！」

そうモモタロスが言うのと同時に、貴斗と優子は飛び上がり、渾身の力を込めて蹴りを放った

まともに食らったガオウの変身が解除され、ガオウライナーまで飛ばされ、ガオウライナーが壊れるのと同時に消えた

牙王「時間に喰われるのは俺の方か、」

そう言う牙王のつぶやきは誰にも聞こえていなかったが、

その後、貴斗達はそれぞれの時間に帰り、貴斗達は再び眠りにつき、翌朝、光実と貴虎に飽きられる程貴斗達3人がくっついて寝ていたのが明久達にばれたのは別の話だ

合宿編

第18話 貴斗と元暗殺者と合宿案内

清涼祭から14日、停学メンバーが復学する日

Aクラス

貴「(またしばらくはあいっらの所為で煩くなりそうだ) おはよう雄二、康太」

雄「聞いたか貴斗? 転校生が来るらしい! しかも10人だ!」

康「おまけに教師も赴任して来るらしい! うちのクラスの副担になるらしい」

高「皆さんおはようございます 坂本君が言っていた通り、新しいメンバーが10

人と副担任の先生が入ります それでは自己紹介をお願いいたします」

磯貝「磯貝 悠馬です 母子家庭なので時給いいバイトを見つけたら教えてください

よろしくお願いします」

片岡「片岡 メグです 磯貝君の彼女です 前の学校ではイケメグと呼ばれてたので

イケメグって呼んでください よろしくお願いします」

神崎「神崎 有希子です 趣味はゲーセン荒らしです よろしくお願いします」

杉野「杉野 友人です 神崎さんの彼氏です よろしくお願いします」

少し省略して

速水「速水^{はやみ} 凛香^{りんか}です よろしくお願いします」

速水の自己紹介が終わったタイミングで白髪天パの教師がジャンプを読みながら入ってきた

高「坂田先生、生徒の前で堂々とジャンプを読まないでください 丁度自己紹介中だったので、坂田先生もお願います」

坂田「どうも、坂田^{さかた} 銀八^{ぎんぱち}です よろしく願います」

坂田先生の自己紹介が終わったタイミングで放送が入った

学園長「あんたらよく聞きな！ Fクラスの生徒の生活態度や勉強への意欲がないもんだから明日から合宿をやるさね！ Fクラス！ あんたらは現地集合だから遅刻すんじゃないよ！」

高「皆さんは明日は学校集合でリズムジンで行きますが、個人で合宿所に向かうという人はいますか？」

貴「高橋先生、俺と優子、秀吉、光実兄貴は個人で向かいます」

翌日

明久サイド

明「うわー 結構豪華なリズムジン！」

美波「ホントよね　貴斗達は何でリムジンに乗らないんだろう？」

速水「あ　それ私も気になる　何でなの？　後、何人か自己紹介飛ばされてる気がするんだけど」

速水、メタ発言止めて！

康「貴斗達は自分用のバイクで合宿所に来るそうだ」

貴斗サイド

貴「ベルトさん、留守番よろしくな」

ベ「分かった　留守の間は任せたまえ！　気をつけてな！」

貴「じゃ、行きますか」

優「あれ？　光実さんのバイクは何処に？」

光「ここだよ」

そう言う光実は薔薇の絵の描かれたロックシードを優子に見せ、ロックシードを解錠した

すると、ロックシードが瞬く間にローズアタッカーに変わった

貴「秀吉は？　一体何処に？」

秀「ここなのじゃが、、」

と、言う秀吉はライドチェイサーに乗りながら貴斗の質問に答えた

秀「そう言うお主も今回はバイクなのじゃな」

貴「おう！ 行くぜ皆！ 早く行かねえと西村先生に怒られるからよ」

秀「そうじゃのう」

貴斗はライドマツハーに、優子はマシンデンバードに、光実はローズアタッカーに、秀はライドチェイサーに乗って、合宿所へ向かった

合宿編からの登場メンバーのキャラ設定

坂田 銀八さかたぎんぱち

天パ、原作と違ってエロ過ぎない

ジャンプを仕事中に堂々と読むクセがある

召喚獣の武器は木刀×2十刀

磯貝 悠馬いそがいゆうま

家が貧乏なのでバイトを掛け持ちしている

イケメンで気遣いの出来る奴

召喚獣の武器はトンファー十ハンドガン

仮面ライダーブレイドに変身出来る

片岡 メグかたおかめぐ

イケメグで磯貝の暴走止め役兼恋人

岡野と機動力がほぼ一緒

召喚獣の武器は刀×2十ハンドガン

仮面ライダーギヤレンに変身出来る

杉野 すぎのともひと
友人

野球バカで萌えが大の苦手

召喚獣の武器は野球ボール＋バット

神崎 かんだき
有希子 ゆきこ

超の付くゲーマーで、あまりの凄さにゲーセン荒らしのあだ名が付く程

霧島 翔子に負けない和風美人で杉野と付き合っている

召喚獣の武器は薙刀＋ハンドガン＋GGGの光剣

前原 まえはら
陽斗 ひると

イケメンなんだがクソ野郎なモテ男

磯貝とはよくコンビを組んで行動している

召喚獣の武器は長槍（影松・真に近い形状）＋ハンドガン＋サバイバルナイフ

仮面ライダーレンゲルに変身出来る

岡野 おかの
ひなた ひなた

土屋 康太に匹敵するレベルの身軽さ、トリツキーさ、俊敏さ、機動力を持っている

前原の事をクソ野郎と呼びつつも、なんだかんだで前原と付き合っている

片岡、磯貝、前原と切り込み隊長的なポジション

召喚獣の武器はハンドガン×2＋トンファー×2

仮面ライダーカリスに変身出来る

赤羽業あかばね かるま

天才だが、挑発とイタズラが大得意な中2病もどき(?)

召喚獣の武器はハンドガン＋サバイバルナイフ＋刀＋煙幕弾

矢田桃花やだ とうか

血生臭いのが大の苦手だったが、その苦手を克服した

イケメグこと片岡に惚れたことがある

召喚獣の武器はハンドガン＋サバイバルナイフ

速水凛香はやみ りんか

後方援護の仕事人

召喚獣の武器は手榴弾＋GGOのヘカート＋ハンドガン

腕輪を持っており、その能力はインビジブル(絶対不可視)

堀部糸成ほりべ いとせな

電子工作、プログラミングが超得意で点数は教師を余裕で超えるし、プログラミン

グはハッキングなんか朝飯前(本人談)

召喚獣の武器はラジコンヘリ(オートコントロール＋ガトリング2つ装備)×2＋口

ケットランチャー＋刀＋剣＋メリケンサック

仮面ライダーデイケイドに変身出来る

呉島くれしま 優斗ゆうと

貴斗と優子の未来の子供で、ゼロノスに変身出来る

嫌いな食べ物はずいずいとコーヒー

特にコーヒ―は砂糖たっぷりでも飲めないぐらい嫌い

イマジンのデネブを相棒として連れている

初対面の人は敬語を使うが、相手によつてはタメ口になる

キャライメージは桜井 侑斗（CV：中村 優一）

デネブ

優斗が未来で契約したイマジン

優斗の好き嫌いを直そうとしては優斗にバレて怒られている

電王TV本編と違い、優斗の財布の紐は握っていない

吉井よしい 明美あみ

明久と美波の未来の子供で、ダークドライブ、ドライブタイプスペシャルに変身出来る

る

未来では優斗と付き合っているが、過去を含めた互いの両親には内緒にしている（ただし、呉島 貴斗だけはとある事情があつて知っているが本人達がいだすまで黙つて

いる)

料理は全くと言っていいレベルで出来なくて、一度デネブと未来の明久に叱られた事がある

料理以外は全て出来る為、未来ではデネブと協力して優斗の身の周りの世話をしていく

業「ちなみに、速水さん、俺をライダーに変身させようと考えているんだけど、作者自身嫌いなライダーも歴代ライダーに入るため誰をどのライダーにしようか全く決まらない上に、明久君、美波さんに変身させるライダーも決まってる為、YouTubeでライダー系動画を見まくる作者は残りのメンバーで誰をどのライダーにするかはこの小説を書きながら考えるつもりらしいよ」

第19話 貴斗と優子と言いがかり

貴虎サイド

貴斗達が合宿所に向かった頃、霧島財閥では

霧島父「この間の怪盗ルパンRの一件がある為、翔子の護衛を貴虎君にまかせたいのだが、構わないかね？」

貴虎「分かりました 翔子さんの護衛はお任せ下さい」

霧島父「頼んだよ 貴虎君」

呉島家に貴虎が戻ってきた

べ「貴虎、何処かに出かけるのかね？」

貴虎「ああ、貴斗達のいる合宿所にな」

べ「貴虎、私も連れてつてくれないか？ 何か嫌な予感がするんだ」

貴虎「分かった ベルトを連れてくからトライドロンで行くか」

べ「呼び捨てとは失礼だね 貴虎」

貴虎「とにかく急ごう 貴斗に対して嫌な予感がするのだろうか？」

そう言つて、貴虎はベルトさんをトライドロンの運転席前にセットして、トライドロ

ンを運転して、貴斗達のいる合宿所に向かった
貴斗サイド

貴「合宿所に着いた！」

優「結構時間かかったけどね」

秀「貴斗や光実が山道を通って先回りしようとした時は慌てたぞい！」

貴、光『その件は本当にすいませんでした！』

そのタイミングで明久達の乗ったリムジンが合宿所に到着した

明「着いた〜！　　って貴斗達速っ！」

磯貝「貴斗達のバイク、どれもかっこいいな！」

高「部屋割りを連絡します」

高橋先生から部屋割りを聞いた貴斗達はそれぞれの部屋に移動したのだが、

男子「なんじゃこりや〜〜！」と叫んだ

その訳は、

301号室　　呉島弟、木下姉

302号室　　呉島兄、木下弟

303号室　　吉井、島田

304号室　　坂本、霧島

305号室 磯貝、片岡

306号室 前原、岡野

307号室 杉野、神崎

308号室 赤羽、堀部

309号室 速水、矢田

310号室 エリカ、レオ

311号室 司波兄妹

312号室 夏川、常村

という組み合わせだったからだ

ちなみに313号室から324号室が個人風呂になっていた（康太談）

325号室と326号室は部屋と部屋の間壁が無く、代わりに取り外し可能な障子が付いており、自習用で学園が改造してたらしかった

学園長の話を聞いて、夕飯を食べた後、貴斗達男子組は308号室に集まって、トラップの大富豪をやっていた

しかし、突然姫路と清水を筆頭に女子達が308号室に押しかけてきた

清水「男子共！ 手を頭の後ろで組んで正座しなさいですわ！」

貴「なんなんだいきなり！」

姫路「惚けるのも大概にして下さい！　　貴方達が仕掛けたのは分かっているんです

！」

糸成「話が見えん　　分かりやすく簡潔に話せ」

清水「女子の大浴場から、これが見つかつたんですわ！」

そう言つて、清水は小型カメラを貴斗達に見せた

康「CCDカメラか　だが、その手の行為から手を引いた　貴斗の依頼以外では俺はやらんし、そもそも貴斗はそんな物ここで仕掛けるなんて頼まん！」

姫路「嘘つく人達にはお仕置きです!!」

そう言つて、姫路と清水は貴斗達の膝に石のブロックを3個ずつ乗せた

男子組『おわあっ!?　　痛え！　　誤解なのになんで!?!』

その叫びが聞こえたのか、優子を筆頭に彼女軍団が駆けつけた

優「貴斗!?!?　　一体どうしたの!?!　　秀吉や光実さんまで!?!?」

清水「その男子共が女子の大浴場にこのカメラを仕掛けたのですわ！　　証拠映像があるから言い逃れは出来ませんわ！」

優「貴斗がそんな事するはずない！　　私は信じてるわよ貴斗！」

愛「ボクもだよ康太！　　君が足を洗つてるのは誰よりも分かつてるからネ！」

美波「アキがそんな事をするはずない！　　アキの事はウチが一番分かつてるもん！」

清水「ちっ、ここは撤退ですわ！ 皆さん帰りますわよ！」

そう言つて清水達は引き上げた

優「キンタロス！ 力貸して！」

キンタロス「分かつたで優子ちゃん！ ほな、行こか！ せいっ！」

そう言つて、優子に取り憑いたキンタロスは貴斗達に乗せられてた石のブロックを砕いていった

キンタロス「おおきに！ またなんかあつたら呼んでや！」

そう言つて、優子からキンタロスが離れた

優「貴斗、大丈夫？」

そう言つて優子が貴斗に手を差し伸べた

貴斗はその手を握りながら立ち上がった

貴「優子のおかげで助かった 信じてくれてありがとな」

美波「それにしても、姫路さんと清水さんも酷い言いがかりよね！ アキがそんな事

するはずないのに！」

その頃清水陣営

H（姫路） S（清水） MK（マジ神） 団員「指令通りに動画は撮りました！ これで奴らの愛情は壊れますね！」

姫路「良くやってくれました　これで仮面ライダーに復讐してやれますね、美春ちゃん！」

清水「これでお姉様は私に振り向いてくれるはず　美春はお姉様の事をあんなやつ
の100倍愛しているのにどうして振り向いてくれないのですかオネエサマ！」

姫路「美春ちゃん、人の言語を失いかけてますよ」

そんな場の空気ですら一人だけ、H S M K 団のメンバーでこれでいいのか自問していた奴がいた

元F F F 団会長、現H S M K 団の下っ端となっていた須川^{すがわ}である

須川へ俺は一体、どうすれば、確かに仮面ライダーは憎い！　しかし、自分の行動が引き起こした罰だ　康太は足を洗って、普通にカメラマンをやっている　だが

俺は？　2週間の停学で反省したのか？　反省したんだったら、自分の罪を認めて

貴斗達に謝りに行こう！

須川「団長！　話がある　外に来てくれないか？」

H S M K 団団長「分かった」

団長と須川は外に出た

H S M K 団団長「話とはなんだ須川？」

須川「団長！　俺はこの計画から降りる

H S M K 団を辞める！　止めないでくれ

もう決めた事だ」

H S M K 団団長「分かった 奴らに謝る気だな 良かろう 本日をもって須川亮の退団を認める！」

須川「団長！ 団の制服は返す！ だけどあの二人には黙っててくれないか？」

H S M K 団団長「あの二人とは？」

須川「姫路と清水だ あいつらはもつと痛いお灸を据えないと分からんらしいからな」

第20話

何故合宿所内で立てこもりが起こつたのか

翌日、合宿2日目 朝8時

立てこもり事件発生まであと3時間

貴斗達は前日の夜、自分の罪を謝りに来た須川から清水達の計画と幼い頃の清水が犯した殺人について聞き、本願寺課長と追田警部補を合宿所に呼んでおり、本願寺課長から事件の証拠の拳銃が持ち出された事が貴斗に伝えられた

そこに、貴虎とベルトさんが合流し、308号室で話し合いをしていた

貴「姫路と清水の罠にはまるぐらいなら逃げた方がマシだ！」

本願寺「貴斗ちゃん 落ち着いて下さい それ以外の方法を考える為の話し合いですよ！」

その時、308号室のドアが開き、ハーレー先生が入ってきた

ハーレー「貴斗、剣システムが完成したぞ！」

貴「誰か使いたい奴いるか？」

磯貝「どれもカッコいいな！」

その後、磯貝達の話し合いの結果、磯貝、片岡、前原、岡野がそれぞれ◆?、◆?、◆

?、??のカードとカードに対応したバツクルを持つ事になった

ハーレー先生が帰った数十分後、308号室のドアが開き、西村先生、高橋先生、大島先生の3人が入ってきた

西「呉島弟、木下弟、吉井、坂本！ 貴様らを覗きの主犯格として補習室に来てもらう！」

追田「証拠はあんのか？ 貴斗達が主犯格だつて言える証拠は！」

西「監視カメラに四人が写っていたから間違い無い！ 清水が映像を提供してくれたからな！ さあ、四人には補習室まで来てもらおうぞ！」

本願寺「(そうなつては仕方ないですね) あつ！ あそこの木にツチノコ！」

西「何!?? 何処だ!??」

貴「今のうちだ！ 行くぞ！ 優子、秀吉！」

そう言つて、貴斗、優子、秀吉の3人は先生達の間をすり抜け、ダツシユで逃げた

大島「あつ!?? お前から待て！」

そう言つた大島先生を本願寺課長が抑え込んだ

本願寺「貴斗ちゃん！ 奴らの思い通りにさせちゃダメですよ！ 絶対にさせちゃ

いけませんよ！」

追田「貴斗！ 行け！ 俺達が抑えてやる！ だから絶対に思い通りにさせるな！

行け！ 仮面ライダー！」

そう言いながら、追田警部補は貴斗に拳銃と手錠を投げ渡した

貴「現さん、課長！ 俺は絶対に奴らを止めてみせます！」

そう言つて、貴斗は追田警部補から拳銃と手錠を受け取り、優子達と共にダッシュで外に逃げた

午前10時50分

立てこもり事件発生まであと1時間10分

西村先生達から逃げてた貴斗の前に清水が現れた

清水「鬼さんこちら！手のなる方へ ですわ！」

貴「頭きた！ベルトさん、ひとつ走り付き合えよ!!？」

べ「OK！ START YOUR ENGINE！」

貴斗はすぐに仮面ライダードライバードライブタイプスピードに変身し、清水を追いかけた

そのまま清水はタイプフォーミュラに姿を変えながら追つてくる貴斗を挑発に乗せながら、合宿所内のモニターが一個だけ置いてある部屋に入った

貴「もう逃がさねえ！」

清水 美春！

お前を詐欺及び5年前の呉島くれしま天樹殺人容あまぎ

疑で逮捕する！」

と言いながら追田警部補から託された手錠を取り出した

清水「やれるものならやってみなさい！　ただし、出来ないと思いますが」
そう言つて、清水は懐から貴斗の父、呉島　天樹を撃つた拳銃を出しながらモニターをつけた

そのモニターに驚愕の文字が写つた

【元特状課刑事が合宿所に立てこもりか】

午前12時　合宿所立てこもり事件

発生！

貴「清水！　貴様!!？」

清水「さらに、もう一つ」

と言つて、モニターを切り替えた

そこに写つたのは、

貴「兄さん!!？」　清水、貴様一体何しやがった!!？」

兄、貴虎が合宿所の入り口で腕を押さえ、もがき苦しむ姿だつた

清水「貴方は後15分後に　美春の正当防衛で死ぬのですわ！　瑞希ちゃんの手製の

毒を受けた兄貴共々！　ハッハッハ！　アッハッハ!!？」

べ「清水　美春！　貴様は正真正銘の外道な悪魔だ！　貴様のやり口はあまりにも

醜い!!？」

清水「お黙りですわ！　五月蠅いベルト！」

そう言つて、何処に持つていたのか、ロープでベルトさんを絡め取り、貴斗から引き離し、シフトカーズ共々、何処からか出した大きい巾着袋に投げ入れた

同時に、貴斗の変身が解除された

清水「これで、貴方は変身が出来ず、味方はいませんわ！ さあ、貴方も拳銃を抜いたらどうです？ どうせ死ぬから無意味ですが！」

その時、貴斗が突然笑い出した

貴「クツ、ハッハッハ！」

清水「何が可笑しいのですか？」

貴「仮面ライダーのくせに何も出来ない自分が可笑しくてさ　ああ、もしも、空間を越えられたら優子達を助けられるのに」

清水「それが遺言ですか？」

貴「ああ、最後のメッセージだ！」

そう言つて、貴斗は持つていた手錠を床に投げ捨て、懐から追田警部補から託された拳銃を取り出した

清水「さうて　もう時間ですわ！　これで貴方のお兄さんは死にましたわ！」

貴「黙れ!!？」

清水「貴方方呉島親子の負けですわ！」

貴「黙れ!!? 黙れ!!?」

そう言うが早いのか、貴斗は清水の後ろの壁を狙って拳銃を撃った

銃弾は狙い通り、清水の後ろの壁に当たった

清水「そりゃ外しますわよね? さらば、仮面ライダー」

そう言つて、貴斗が銃弾を外したと思ひ込んでいる清水は貴斗を拳銃で撃った

貴斗は胸を抑え、そのまま壁にもたれるように倒れた

清水「美春の正当防衛成立 ですわ」

清水は床に貴斗を撃った拳銃を投げ捨て、勝ち誇つたようにその場をクルクルと回つ

た

第21話 何故撃たれたはずの貴斗が生きているのか

貴斗が撃たれた後、合宿所内特別会場では記者会見が行われていた

清水「立てこもり事件の終末について話します 容疑者 呉島 貴斗は私の説得に

逆上 私が護身用で持っていた拳銃を奪い発砲 その後もみ合いとなり、呉島 貴

斗を射殺しました」

記者「じゃあ、正当防衛だという事で間違い無いと 後、もう一人人質が居たとの話ですが」

姫路「人質となっていた呉島 貴虎さんは残念ながら、奴ら側の先生、養護 医子氏によつて殺されました 私達はこの場に誓います！ 残りの覗きのメンバーを必ず

西村先生の元に叩き込むと！」

その瞬間、会場内に聞き覚えのある声が響いた

??? 「それは無理だな」

声の主が会場に入ってきた

熱「何故なら、お前らの言葉には嘘しか無いからな」

姫路「証拠はあるんですか？ 私達が嘘をついていると決定付ける証拠は！」

熱「証拠なら、こいつだ！」

その言葉と同時に、呉島 貴虎が入ってきた

貴虎「私は養護 医子に殺されてはいない！ むしろ、命を助けられたんだ！」

姫路「そんなバカな！ 貴方は私が仕込んだ毒で死んだはず！ …… あっ！」

清水「瑞希ちゃんのバカ！」

???「ようやくボロをだしたな 姫路 そして清水!!？」

そう言いながら、死んだはずの呉島 貴斗が入ってきた

清水「呉島 貴斗…!!？」

姫路「何故生きていますか!!？」

貴「撃たれる直前、俺だけが見えていたモニターにこんな映像が写ったんだ」

そう貴斗が言うと同時に清水達の後ろのモニターに映像が映し出された

その映像には「貴虎の解毒成功！ もうイッテイヨ！」との文字が写っていた

清水「だからあの時笑い出したのですか!!？」

姫路「しかし、どうやったのですか!!？ そう簡単には解毒不可能なはずなのに！」

熱「いいや、可能だったさ メディックならな」

清水「呉島 貴斗！ 美春は確かにあんたの心臓を撃ち抜いたはずですわ！」

貴「ところが、俺には銃弾が当たらなかった 俺の頼れる仲間が寸前で止めてくれ

たからな」

そう貴斗が言うのと同時に、シフトデイメンジョンキャブとシフトデイメンジョンキャブに連れられたドライブドライバーが貴斗の前に現れた

貴「もしも、空間を越えられたら優子達を助けられるのに」

彼「あの時私は貴斗のメッセージ、考えに気づいた。だから貴斗の元へキャブを送った」

【清水「さらば、仮面ライダー」】

そう言つて、清水は貴斗を拳銃で撃つた

その時に、貴斗はシフトデイメンジョンキャブを手に隠し持つていて、シフトデイメンジョンキャブの能力で弾丸を別の場所に飛ばした

その弾丸を明久と美波が回収した」

貴「これが清水が俺に放つた弾丸だ。5年前の事件と同じ拳銃から放たれた弾丸

既に銃弾の線状痕が5年前のものと同じ一致している！」

そう言いながら、貴斗は銃弾の入った袋を照合結果と共に記者に見せた

貴「わざわざ、俺達の父さんを撃つた証拠品の拳銃を使った事が仇になつちまつたな

！ 清水 美春！ 5年前の呉島 天樹氏殺人事件の犯人としてお前を逮捕する

!!?」

清水「ちっ　　H S M K 団員！　　やっちやいなさいですわ！」

貴「西村先生！　科目総合でフィールド展開して下さい！」

西「疑ってすまなかった、貴斗　科目総合承認！　フィールド展開!!？」

H S M K 団員「サモン！」

そう言うが早いか貴斗はドライブドライバーを腰につけ、貴虎もゲネシスドライバーを腰につけ、H S M K 団員の召喚獣と格闘し始めた

そこに、優子、秀吉、磯貝、片岡、前原、岡野、光実が到着し、貴斗や貴虎同様格闘し始めた

H S M K 団員「何!?!?　　召喚獣がダメージを受けてる!?!？」

そうぼやいたH S M K 団員に答えるかのように、康太、愛子、糸成が会場に入ってきた

康、愛子、糸成『当たり前だ(ヨ)　　俺(ボク)達がシステム弄ってお前ら(君達)の召喚獣が物理干渉を行える様にしたんだからな(だもん)』

H S M K 団員の召喚獣が貴斗達によって全滅するまでほとんど時間はかからなかった

清水「ちっ　　直接武器で攻撃するのですわ！」

そう清水達が立て直しを図ってるタイミニングで、貴斗は優子にマツハドライター炎を

渡し、貴斗達は背中合わせにH S M K団団員と清水と姫路を見る様に集まった

貴「今の優子ならきつと使えるはずだ」

優「分かったわ 使わせてもらおうよ！」

貴「行くぞみんな！」

そう言いながら、優子はマツハドライバー炎を腰につけ、秀吉もマツハドライバー炎を腰につけ、光実 は 戦極ドライバーを腰につけ、磯貝と片岡と前原はそれぞれAのカードをそれぞれのバックルにセットしてそれぞれの腰につけ、岡野はカリスラウザーを腰につけた

貴斗はドライブドライバーのキーを回し、シフトトライドロンのRと書かれたボタンを押し、シフトプレスにセットした

ファイヤー！ オールエンジン!!?

優子と秀吉はマツハドライバー炎のシグナルライティングパネルを上へ上げ、優子はシフトデッドヒートを、秀吉はシグナルチェイサーをセットした

シグナルバイク& a m p ;シフトカー!!?

シグナルバイク!!?

光実はブドウロックシードを、貴虎はメロンエナジーロックシードを解錠し、それぞれのベルトにセットした

ブドウ！ ロックオン！

メロンエナジー！ ロック オン！

それぞれのベルトやバックルの待機音を聞いてから、貴斗はシフトブレスにセットしたシフトトライドロンをレバーの様に動かし、優子と秀吉はマツハドライバー炎のシグナルライティングパネルを下に下げ、光実は戦極ドライバーのカツティングブレードでブドウロックシードを切り、貴虎はゲネシスドライバーのシーボルクプレッサーを押し込み、磯貝と片岡はそれぞれのバックルの右手側のターンアップハンドルを引き、前原はバックルを開き、岡野はAのカードをラウザーの前に構え、ラウザーにスキャンしながら叫んだ

貴、優、秀、光、貴虎、磯貝、片岡、前原、岡野『(Let's) 変身!!?』

ドライブ！ タイプ トライドロン!!?

ライダー！ デッドヒート!!?

ライダー！ チェイサー!!?

ブドウアームズ！ 龍・砲・ハッ・ハッ・ハ!!?

メロンエナジーアームズ!!?

ターンアップ!!?

ターンアップ!!?

オープンアツプ!!?

チェンジ!!?

そう音が鳴り、貴斗は仮面ライダードライブタイプトライドロンの、優子は仮面ライダーデッドヒートマツハに、秀吉は仮面ライダーチェイサーに、光実^{ミツノ}は仮面ライダー玄ブドウアームズに、貴虎は仮面ライダー斬月・真メロンエナジーアームズに、磯貝は仮面ライダーブレイドに、片岡は仮面ライダーギャレンに、前原は仮面ライダーレンゲルに、岡野は仮面ライダーカリスに変身した

貴「清水は俺がやる！ H S M K 団員は頼む！」

優「私が姫路さんを相手にするわ！」

そう言いながら、貴斗は清水に、優子は姫路に攻撃し始め、H S M K 団員には秀吉達が攻撃し始めた

貴「清水！ 貴様だけは許さない！」

そう言いながら、貴斗はドライブドライブのキーを回してからシフトトライドロンのタイヤマークの付いた黒いボタンを押し、レバーの様に動かした

カモン！ ダンプ！ ミキサー！ グラビティ！

タイヤカキマゼール!!? コウジゲンバー!!?

そう音が鳴り、ドライブタイプトライドロンのシフトプレスをつけている方の腕にラ

ンブルダンプタイヤ、スピンミキサータイヤ、ローリングラビティタイヤの順でタイヤがはまり、3つのタイヤが一つのタイヤに変わってドライブタイプトライドロンに装着され、左手に10tオモリ、右手にランブルスマツシャーが装備された

清水「大人しく捕まるつもりはありませんわ！」

そう言いながら、清水はドライブタイプトライドロンコウジゲンバーにロープを巻きつけたが貴斗はドライブドライバーのキーを回し、シフトトライドロンをレバーの様に動かした

コウジゲンバー!!?

その音が鳴り、ドライブタイプトライドロンの足のタイヤが回転し、清水の周りを回って、ドライブタイプトライドロンにロープを巻きつけた清水を逆にロープでグルグル巻きにした

貴「これでトドメだ！ 行くぞ皆!!？」

そう言いながら、辺りを見回つつ、コウジゲンバータイヤをトライドロンタイヤに戻した貴斗につられて辺りを見回した清水は、H S M K団団員全員と姫路が倒れているを見た

優「決めるわよ！」

秀、光、貴虎、磯貝、片岡、前原、岡野『おお（ああ）（うむ）（ええ）！』

そう言いながら、貴斗はドライブドライバのキーを回し、シフトブレスのイグナイターを押し、シフトトライドロンをレバーの様に動かした

同時に、優子と秀吉はシグナルライティングパネルを上へ上げ、ブーストイグナイターを押し、シグナルライティングパネルを下へ下げ、光実は戦極ドライバのカッティングブレードでブドウロックシードを一回切り、貴虎はゲネシスドライバのシールコンプレッサーを一回押し込み、磯貝はブレイラウザーに◆?の5、6、9をスキヤンし、片岡はギヤレンラウザーに◆?の5、6、9をスキヤンし、前原はレンゲルラウザーに◆?の4、6、8をスキヤンし、岡野はカリスラウザーに??の4、5、6をスキヤンした

ヒツサーツ！ フルスロットル!!? トライドロン!!?

ヒツサツ！ バースト!!? フルスロットル!!? デッドヒート!!?

ヒツサツ！ フルスロットル!!? チェイサー!!?

ブドウスカツシュ!!?

メロンエナジースカツシュ!!?

キック！ サンダー！ マッハ！ ライトニングソニック!!?

ドロップ！ ファイヤー！ ジェミニ！ パーニングデイバイド!!?

ラツシュ！ ブリザード！ ポイズン！ ブリザードベノム!!?

フロート！ ドリル！ トルネード！ スピニングダンス!!？

そう音が鳴り、貴斗達はそれぞれの武器や足にエネルギーが溜め込まれ、前原が清水をレンジラウザーのエネルギーを纏っていた部分で天井に放り上げた

それを合図に、貴斗達は、岡野、片岡、磯貝、貴虎、光実、優子、秀吉、貴斗の順で清水に蹴りを放った

清水は8人分のキックを受けて床に叩きつけられて気絶した

貴斗達はそれぞれの変身を解いた

追田「清水 美春 5年前の呉島 天樹 殺人容疑 及び殺人未遂 殺人教唆の疑いでお前を逮捕する」

そう言いながら、追田警部補は清水に手錠をかけた

その日のうちに、緊急会議が開かれ、清水は刑務所に連れてかない代わりにフィードバック率75%の観察処分者に、姫路はフィードバック率55%の準観察処分者にされた

貴斗達は西村先生に許可をもらい、個人風呂に入り、翌日、明久達はリムジンで、貴斗、優子、光実、秀吉はそれぞれのバイクに乗り、貴虎はトライドロンを運転して合宿所から帰った

合宿編裏話

第20話・第21話

康太、優子、秀吉

達視点ver

午前11時過ぎ

優子、秀吉サイド

貴斗との作戦通り、私と秀吉は貴斗から離れて合宿所入口付近に隠れていた

そこへ合宿所の朝ご飯に仕込まれた毒で足元がふらついた貴虎さんが出てきて倒れた

秀吉がすぐに貴虎さんの元に向かい、偽物のシフトマツドクターへシフトスピニングミキサーとシフトカラフルコマーシャルの能力で作った \sphericalangle をセットしたブレイクガンナーを持っていった

当然偽物で治せるわけなく、貴虎さんにフルブレイクを行って見事に弾かれた秀吉はダメな演技をして、貴虎さんを私の所へ連れてきた

私は貴斗に指示された通り、メディック、いや、養護 医子先生を呼んで貴虎さんの解毒してもらい、私達で貴斗のいる場所のモニターに流す映像を作った

もちろん、「貴虎の解毒成功! もうイッテイーヨ!!?」という言葉を忘れずに表示

させてから、貴斗のいる場所のモニターに流した

その映像が今現在清水さんに知られずに貴斗へ連絡する唯一の手段だからよ

数分後、銃声が聞こえた

貴斗からのメッセージを受け取ったの意味と愛子達への作戦開始の合図が送られたようだった

私と秀吉は貴虎さんと共に集合場所である、308号室に戻った

優子、秀吉サイド終了

康太サイド

俺は貴斗に頼まれ、堀部、工藤と共に合宿所の召喚獣のサーバールームに来ている

サーバールームの電子ロックを解除した瞬間、銃声がした

どうやら貴斗からの作戦開始の合図が出たようだ

康太 「堀部、作戦決行だ 素早くやるぞ」

糸成 「分かっている」

そう言っつて、俺と堀部はサーバーに侵入し、貴斗に頼まれた通りに召喚獣の設定をH
SMK団団員と姫路と清水のだけ書き換ええた

その間、工藤は入口を見張っていた

召喚獣の設定の書き換えが終わったタイミングで、携帯のバイブが鳴った

携帯を見たなら、明久 と表示されていた

明「康太、そっちはどう？」

康「俺と堀部の腕を舐めるな」

明「了解 貴斗が308に戻ってこいって」

康「分かった すぐ戻る」

そう言って明久との電話を切り、周りを警戒しながらサーバルームの電子ロックを元に戻してから、誰にも見つかからないように308号室に戻った

……戻っている途中で工藤に「康太はやっぱり機械弄りの達人だね！」と言われて頬にキスをされ、鼻血を吹きまくって堀部に迷惑をかけたが

康太サイド終了

時間は変わり、バトル中

優子サイド

優「私が姫路さんを相手にするわ！」

と言いながら、私は姫路さんに左手に持ったゼンリンシューターの前輪部分で攻撃した

姫路「どうして仮面ライダーが普通の人を躊躇いなく攻撃出来るんですか！」

優「よく言うわよ 私や美波さん、貴虎さんに毒を盛り、拳句に貴斗の実のお父さ

んを殺した張本人と手を組んでるくせに！」

そう言いながら、私は姫路さんに猛攻を仕掛けた

優 「これで最後よ！」

そう言つて、私はマツハドライバー炎のブーストイグナイターを連打した

バースト！ キュウニデッドヒート!!？

そう音が鳴つたのを聞きながら、私は姫路さんの足を右手に持ったゼンリンシューターで撃ち抜き、バランスを崩したタイミングでゼンリンシューターの前輪部分で姫路さんの顎を上にも殴りあげた

その勢いのまま、私は一回回つて、足をクロスさせて、右手の薬指と小指を曲げて人差し指と中指を伸ばして状態で右手を顔の横でチャライ感じに動かし、心の中で言った（いい絵だったわよね？）と

優子サイド終了

秀吉、磯貝達、光実、貴虎サイド

僕は磯貝達と共にH S M K団団員と戦い始めた

あやつらの持つ出刃包丁やら、鎌やらを弾き落とす事を最優先したのは良かったのじゃが、そこは元F F F団、意地と根性で弾き落とした出刃包丁や鎌を素早く拾って攻撃してきたのじゃ

そこに、姫路の訳の分からぬ言葉が聞こえてきたのじゃ

姫路「どうして仮面ライダーが普通の人を躊躇いなく攻撃出来るんですか！」

普通の人じゃと？　よく言うのじゃ！　姉上や島田、貴虎殿に毒を盛り、拳句に貴

斗の実際の父親を殺した張本人と手を組んでるくせにそれが自覚出来んとは最低なやつなのじゃ！

そう思った瞬間、儂の中で何か吹っ切れたのじゃ

秀「磯貝達よ！　このままでは拉致があかんのじゃ！　一気にかたをつけるぞい

！」

磯貝「分かった　みんな行くぞ！」

そう言いながら、儂はマツハドライバー炎のシグナルライティングパネルからシングウアックスにセットするためにシグナルチェイサーを抜いたのじゃ

磯貝達は磯貝の持つ◆？の9のカードを、片岡、前原、岡野と共有し、攻撃スピードを上げたようじゃった

キウイアームズ！　撃・輪・セイ・ヤツ・ハツ！

音のした方を見ると、光実がブドウアームズからキウイアームズに変えて、キウイ撃輪でブドウ龍砲よりも多くの人数相手に攻撃しておったのが見えた

その時、貴虎殿が儂の近くに来たのじゃ

貴虎「チャージに時間がかかるのだろうか？　少し時間を稼いでやるから、同時に攻

撃するぞ！」

秀「分かったのじゃ！　貴虎殿！　一発で決めるぞい！」

そう言いながら、儂はシンゴウアックスのシグナルライディングパネルにシグナル
チエイサーをセットしたのじゃ

ヒツサツ！　マッテローヨ！　マッテローヨ！　マッテローヨ！　マッテローヨ
！　マッテローヨ！

そう音が鳴ってる間、貴虎殿はソニックアローを振り回し、HSMK団団員を攻撃し
ておった

マッテローヨ！　マッテローヨ！　マッテローヨ！　マッテローヨ！　マッテローヨ！

そう音が鳴ったので儂はシンゴウアックスをフルスロットルトリガーを引いて構え
たのじゃ

フルスロットル!!？　チエイサー!!？

それに気づいた貴虎殿はゲネシスドライバーからメロンエナジーロックシードを外
し、ソニックアローにセットしておった

ロックオン！

儂と貴虎殿はそれぞれの武器をHSMK団団員に対して振り抜いたのじゃ

見事に急所に当たったようで、H S M K 団員は気絶したのじゃ

磯貝達や光実も H S M K 団員を気絶させたようじゃった

光実はいつの間にかブドウアームズに戻っておった

貴「これでトドメだ！　行くぞ皆!!？」

貴斗からの合図を受け、清水への攻撃の準備の為に、マツハドライバー炎のシグナル
ライティングパネルにシグナルチェイサーをセットしながら貴斗の元に向かったの
じゃ

秀吉、磯貝達、光実、貴虎サイド終了

番外編その3

番外編4話

貴斗と優子とカラオケ大会

合宿後のある土曜日

貴斗、秀吉、優子、磯貝、片岡、前原、岡野、光実、貴虎のメンバーは呉島家で特訓し終わり、休憩していた

貴斗達は休憩を終え、特訓再開しようとしたタイミングで、貴斗の携帯が鳴った
相手は 明久 と表示されていた

貴斗はすぐに電話に出た

明「貴斗、今からカラオケ大会しない？」

貴「今から？ ちょっと待って すぐ折り返す！」

貴斗は明久との電話を一回切り、優子達に 明久がカラオケ大会しないかと誘って来たかどうか と聞いた

もちろん、優子達は 行く！ と答えた

それを聞いた貴斗は明久にすぐに電話をかけ、10分程待て と連絡して集合場所を聞いた

貴斗達は急いで着替えて、集合場所である、文月カラオケで明久達と合流し、カラオケの部屋割を決めた

その結果は、

パーティールームA 貴斗、優子、秀吉、明久、美波、夏川、常村、速水、杉野、神崎、磯貝、片岡、前原、岡野

パーティールームB 雄二、翔子、光実、貴虎、業、糸成、矢田、達也、深雪、エリカ、レオ、美月、幹比古

の組み合わせになった

貴斗達はそれぞれのメンバーに別れてパーティールームに入り、歌い始めた

貴斗サイド

貴「誰が最初に歌う？」

杉野「貴斗、俺からでいいか？」

貴「構わねえよ　で、何歌うんだ？」

杉野「俺の十八番だ」

そう言つて、杉野は某野球アニメの曲を入れて歌い始めた

杉野「、過ぎゆく春を　惜しみながらも　僕らの幕開けた　あの夏　色ん

な事を　分かりはじめた　秋と　何か失った冬　（中略）　涙枯れるまで

完成の 見えない絵を 涙晴れるまで 我が行方 迷いながらも 描き

かけの今 刻む 証 この手で

神崎「杉野君つてやつぱり野球が絡む曲は上手いよね〜」

優「次は私と貴斗が歌うわよ！」

貴「じゃあ、あの曲だな」

そう言つて、貴斗はとある風車が目印のエコな街の探偵コンビの最終決戦の時の曲を入れて優子と2人で歌い始めた

貴、優『、君が心の全てを 受け入れたら もう怖い物はないさ Nob

ody 〇 s p e r f e c t 右と左 究極の バランスで魅せる Th a

t 〇 s s o E x t r e m e ! E x t r e m e D r e a m s 』

秀「次も貴斗と姉上であの曲じゃな」

そう言つて、秀吉は隣街での運命を賭けた最終決戦の時の曲を入れた

貴斗と優子は歌い始めた

貴、優『俺達が 最強の力 手に入れたとして その後に この目には どんな世

界 映るのか』

(中略)

貴「限界をまた 超えるたび 不安になる どこに近づき どんな物失う？」

(中略)

貴、優『この世界 最強の パワーの鍵を開けたら 俺達の運命は どこにつながって いるんだろう (中略) 力Escalation、、』

秀「次は儂じゃな」

そう言つて、秀吉は坂田先生に似た人が主役のアニメの曲を入れて歌い始めた

秀「鉛の空 重く垂れ込み 真白に淀んだ 太陽が砕けて 耳鳴りを 尖らせる

(中略) 曇天の道を ぶらりぶらぶら 歩く2人は足軽のごとく 危険好きの

誰かのふりをする 小心者共 曇天の道を 傘を忘れて 歩く彼女は 雨

に怯えてる ので僕も 弱虫ぶら下げて 空を仰ぐ」

貴「秀吉、本人の声真似は反則だ！」

優「全くよ！ あんた当分声真似禁止!!？」

秀「そ、そんな殺生な！ 冗談じゃと言うとくれ！」

貴、優『ただし、カラオケの時のみだが(よ)』

その後も皆仲良く歌い、時間的にあと3曲のタイミング

貴「誰か歌いたい人いる？」

片岡「私歌いたい！」

そう言つて、片岡は自分が変身している仮面ライダーのご本人が歌う曲を入れて歌い

始めた

片岡「、、、 新しい強さで 蘇る想い 弾き出されてく もっと出来る事 探した答えは 変わり続けてく 生まれ変わる程 強くなれる got to be strong got to be strong」

磯貝「貴斗、気のせいかな? メグとあの人が重なって見えるのは」

貴「気のせいじゃないな 俺も一瞬見えたからな」

秀「貴斗、締めめ2曲頼むぞい!」

貴「任せろ! 優子、もうひとつ走り付き合えよ」

優「ええ、行くわよ!」

そう言つて、貴斗は自分の変身する仮面ライダーに關係のある曲を2曲入れて、優子と2人で歌い始めた

貴、優『雨上がり Break Cloud 隙間から 青空が 手招きしてる

Airight そろそろ行こうか 誰かが言うLogic 信じない 直感

は信じていたい High Time 始まりを探して (中略) Surprise

ise 世界中がDrive!(It's faster than ever) Feelin'high 目醒めるような(Drivin' Show me) 始まる 運

命には (keep chasin' forever) バックギアはない・・・

SURPRISE | DRIVE X 2 シグナル変わるとき・・・ All we
 need is "DRIVE" 』

貴、優『He's coming: 「Who's that guy?」 (Bre
 k down) 歴史の闇にまた 埋もれてしまいそう:?: そんな 不安 Ma
 ke you run

存在証明 代わりのサクセス 見失う Your mind (中略) 勝者
 であることしか 許せない価値観 それじゃ いつか Lose yourself
 f 猜疑心に 完全黙秘? 操られ Your life (中略) The

ysay: They say "who's that guy?" そう呼ば
 れても 未来に遺せる何かを 過ぎ行く今 刻み込めたら It's forever
 | ever never 消えない』

と2曲続けて貴斗と優子が歌い切った所でカラオケ大会はお開きになった
 その後、貴斗達はそれぞれ家に帰り、夕飯を食べてから寝た

番外編5話 何故ベルトさんの機嫌がすこぶる悪くなったのか

カラオケ大会の翌日、

貴斗は優子と朝からトライドロンドライブデートをしていた

：秀吉、速水につけられながらだが

貴「優子は映画かゲーセン、どっちに行きたい？」

優「もちろんゲーセン!!？」

貴「即答か じゃあゲーセン行こうか！」

優「行こっか 貴斗！」

秀吉、速水サイド

秀「貴斗と姉上が動くぞい 儂等も行くぞ 速水よ、しっかり掴まっておるのじゃ」

速水「分かったわ」

貴斗達の後を秀吉達はライドチェイサーで追いかけた

貴斗、優子サイド

貴斗達は偶然会った杉野と神崎さんと4人でゲーセンでUFOキャッチャーや

シューティングゲームをやっていた

貴斗達はゲーセンで結構な時間遊んでお腹が空いたので、近くのファミレスに昼飯を食べに行った

それぞれが頼んだメニューを互いのカップル同士で食べさせ合いながら4人で和気あいあいと過ごしていた

そんな時に、須川から貴斗の携帯にメールが届いた

内容は、

《注意！

H S M K団がそっちに向かっている！

このメール見たらすぐに今いる場所から離れろ！》

優「貴斗？どうしたの？」

貴斗は優子、杉野、神崎さんに須川からのメールを見せた

神崎「あの人達がこっちに向かっている、ってことだよな？」

貴「面倒くさいやつらだ　軽く病院送りにしてやるか」

優「そうね　貴斗とのデートの邪魔した分ストレス発散の相手にしてやりましょ

！」

杉野「ってあれ？　あいつらってさ、俺と神崎さんの記憶が正しければ、一昨日あ

たりに貴斗達にボコ雑巾レベルまでボコボコにされてなかったつけ？」

優「あいつらを舐めない方がいいわよ　蚊並みの弱さだけどゴキブリとか雑草に匹敵するレベルの生命力を誇るから」

貴（声ベルトさん）「まったく、彼ら程迷惑な奴らを見た事がない」

優「あれ？いつの間に運転代わったの？」

貴「人間の食べ物が食いたくなつたんだと　すいません、チョコレートパフェ下さい」

頼んでから10分程でチョコレートパフェが貴斗達の元に来た

貴斗とベルトさんが運転を代わりながらパフェを食べ進め、ベルトさんが自分の分の最後の一口を貴斗から運転を代わって食べようとした瞬間、1番嫌な奴らの声が聞こえた

H S M K 団員『リア充をぶっ殺せく〜』

と貴斗達に飛び掛かってきたH S M K 団員の内の一人の蹴りがパフェを食べようとしていた貴斗（ベルトさんが貴斗の体を運転中）の持っていたパフェの器に当たってしまい、パフェが床にこぼれた

貴斗（ベルトさん運転中）は無言で席を立ち、いつの間にか腰についていたドライブドライバーのキーを回し、シフトトライドロンの赤いボタンを押し、シフトブレスに

セットし、ドスの効いた声で言った

貴、ベ『変身!!?』

ドライブ! タイプ トライドロン!!?

その音が鳴り、貴斗は仮面ライダードライブタイプトライドロンに変身した

貴「このまま運転していいから奴らに金輪際近寄れないようにトラウマを植え付けてやれ」

ベ「当たり前だよ さて、今日の私はすこぶる機嫌が悪いぞ! 骨一本も残らないのを覚悟したまえ!」

優「私もいいかしら? 私もすごく機嫌悪いから覚悟してよね!!?」

優子はマツハドライブバー炎を腰につけ、シグナルライティングパネルを上へ上げ、シフトデッドヒートをセットした

シグナルバイク&シフトカー!!?

そのタイミングで秀吉と速水が合流した

秀「お主らに最後通告じゃ 1ヶ月入院が嫌なら武器と団員衣装を置いて土下座をするのじゃ そうした者は見逃してやるのじゃ」

その通告をH S M K 団員は1人だけ聴き、言われた通りにした

H S M K 団長「今までデータの邪魔して済まなかった! 謝って許されるとは

思っていない　足を洗って金輪際デートの邪魔をしないと約束する！　だから俺だけは見逃してくれ!!？」

秀「口約束では信用出来ぬ　だからこの誓約書にサインするのじゃ」

H S M K 団団長は秀吉から渡された誓約書にサインし、秀吉に渡した

その内容は：

誓約書

私は金輪際呉島　貴斗、木下　優子を筆頭とする文月学園全カプルのデートの邪魔

を致しません

2—F　横溝よこみぞ 浩二こうじ

と書かれていた

秀「お主は約束通り見逃すのじゃ　早くここを離れるのじゃ」

そう言われた横溝は素早く武器等を持たずに退散した

横溝以外のH S M K 団団員は1人として横溝と同じ行動をしようとしなかった

優「あんた達は本当に馬鹿ね　今誓約書にサインしたら見逃してあげるって言って

るのに」

貴「どうやら、病院送りがご希望らしいな　100%どころか200%の力で殴っ

てしばらく白い天井しか見れなくしてやるよ」

秀「二度と儂や貴斗達のデートの邪魔が出来ぬようにしてやるかのう」

そう言つて秀吉はマツハドライバー炎を腰につけ、シグナルライティングパネルを上
に上げ、シグナルチェイサーをセットし、優子と同時にシグナルライティングパネルを
下に下げながら叫んだ

優、秀『(Let's) 変身!!?』

ライダー！ デッドヒート!!?

ライダー！ チェイサー!!?

そう音が鳴り、優子は仮面ライダーデッドヒートマツハに、秀吉は仮面ライダーチェ
イサーに変身した

貴、優、秀、ベ『さて、覚悟しろよ(しなさい)(するのじゃ)(したまえ)！ 西
村先生(鉄人)の何十倍もの痛さでボコボコにしてやるからな(あげるから)(やるから
のう)！』

そう言つて、貴斗、優子、秀吉は速水、杉野、神崎さんがドン引きするぐらいHSM
K団団員をボコボコにした、

貴斗達が家に帰つた後、秀吉はつけていたのがばれて、優子から折檻をいつもの4倍
の痛さで受けたらしい

翌日、Fクラス

西村先生が教室に入ると、須川と横溝が態度を改め、勉強していて、他の男子が1人もいなかった

西「須川、横溝、貴様ら合宿と休みの間に何があった？ 他の連中は休みか？」

須川、横溝『今までの罪を貴斗達に謝っただけです 後、他の奴らは貴斗達の怒り

をかって、病院に叩き込まれたそうです』

その2日後、何事もなかったかの様に通学するH S M K団団員を見た磯貝達はH S M K団団員のごキブリとか雑草に匹敵するレベルの生命力を思い知ったのは別の話

明久姉編

第22話

何故急にブラコン姉が帰つて来る事になつ

たのか？

合宿後、しばらく経つたある日

呉島 貴斗はハートこと熱血 魂介から依頼を受けて、沢芽市の外れにある建物の前にトライドロンで来ていた

：何故か秀吉がライドチエイサーで付いてきていたのだが

秀「貴斗、ここは一体何なのじゃ？」

貴「戦極^{せんごく}、りょうま凌馬の隠し研究所だ ハートが言うにはここ最近、妙な音がしているらしいから調査しろってさ」

秀「妙な音とはなんじゃ？」

貴「この研究所は2年前に電気が止められたはずなのに機械が動く音がして面白いんだが、人のいる気配すらないらしい 絶対何かヤバい物があると見てるが予想があつてるか見て来いってな訳で来たんだが：っか、何でいるんだよ？」

秀「儂は貴斗が何処かに行こうとする所を見かけて付いてきたのじゃ」

貴「ここに来てる以上、何時でも戦える様用意しとけよ 行くぞ！」

秀「うむ！」

そう言つて貴斗は研究所のドアを蹴り飛ばして開けた

貴「複雑心情捜査課の者だ！ 近隣住民から苦情が出ているため、家宅搜索させて

もらう…ぞ？」

そう言いながら貴斗の目は点になつた

何故なら、目の前には倒した筈のボルトロイミュードがいたからだ

貴「何でお前が！ コアまで壊した筈のお前がここにいる！」

ク「貴斗！ とにかく倒すぞ！」

ボルト「俺が復活した理由？ モテン餓鬼には分かんねえよ 一生な！」

貴「頭きた！ クリム！ もう一回あいつのコアをぶつ壊すからひとつ走り付き合

え!!??」

キレたような声でそう言つた貴斗はドライブドライバーを腰につけ、シフトテクニクを持って変身しようとした

ク「貴斗！ 落ち着け!!？」

貴「アアン!!？」

ク「奴は前回とは違う能力を備えている可能性がある！
テクニックよりフォーミュラーで行くべきだ！」

貴「よし！」

そう言った貴斗の元にシフトフォーミュラーがきた

貴「変身!!? ガア!!?»

キレた様子で叫びながら貴斗はドライブドライバーのキーを回して、シフトプレスにシフトフォーミュラーをセットし、レバーの様に動かした

ドライブ！ タイプフォーミュラー!!?»

そう音が鳴り、貴斗は仮面ライダータイプフォーミュラーに変身した

貴「秀吉!!? お前は手を出すな！」

秀「分かったのじゃ！ 儂とシグナルチェイサーでここを調べる！ だからそいつ

は貴斗に任せるのじゃ！」

そう言って秀吉はその場を離れて研究所内を調べ始めた

貴斗はドライブドライバーのキーを回して、シフトフォーミュラーをレバーの様に3

回動かした

フォ、フォ、フォーミュラー!!?»

そう音が鳴ると同時に貴斗は地面を蹴りつける様に構えた

ボルト「面白え 相手してやるよ」

そう言つてボルトロイミュードも構え、互いに睨み合つてから同時に相手に向かつていった

しばらく相手とぶつかり、互いに相手を殴つたり蹴つたりして離れた直後にクリムが言つた

ク「貴斗！ トレーラー砲で決めろ!!」

そう言われた貴斗は素早くトレーラー砲のシフトランディングスロットにシフトフォーミュラーをセットし、シャッターゲートパネルをずらして、シフトマンターNF—01とシフトスパ—ナF—03をシャッターゲートに入れ、素早くトレーラー砲をボルトロイミュードに向けて放つた

フルフル！ フォーミュラー！ 大砲!!？

そう音が鳴り、ボルトロイミュードをトレーラー砲から放たれたエネルギーが貫いたそのまゝ、ボルトロイミュードのコアが壊れたが、そのコアの数字は024では無く、172と出ていた

ク「172だと!!？ 024では無いのか!!？」

そうぼやくクリムを余所に貴斗は変身を解除した

それとほぼ同時に、秀吉が貴斗の元にきた

秀「貴斗！　この映像を見るのじゃ!!?」

そう言いながら秀吉が貴斗に見せた映像には死んだ筈の戦極　凌馬と蛮野　天十郎（ばんの　てんじゅうろう）がそれぞれ410、235のナンバーのロイミュードの姿で蘇る様子が写っていた

貴「秀吉！　その映像すぐに持ち帰るぞ！」

秀「うむ！　分かったのじゃ！」

貴斗は秀吉と共に研究所から呉島家に帰った

ほぼ同じタイミングで、明久にとつて最悪の電話が明久にかかってきた

明「もしもし、母さん？　なんか用？」

明久母「あんた、半年に一回は成績を報告しなさいって言つてあつたわよね？

報

告が一年近く無かつたから、玲をそっちに行かせたから」

そう言つて、明久母は一方的に電話を切った

明「どうしよう!!?　姉さんに美波との関係がバレたら殺される!!?」

そう焦つた明久はすぐに雄二に電話した

明「雄二　助けて!!?　姉さんに殺される!!?」

第23話

貴斗と明久とそれぞれの不幸

明「雄二助けて!!? 姉さんに殺される!!?」

雄「アアン? いきなりどうした明h、翔子!!? おいこら、ちよ待、、#@#&

amp;#@#/& ;& ;& ;/!!?」

明「雄二!!? どうしたの雄二!!?」

その直後、電話は強制的に切れた

明「こうなったら、光実さん頼みだ!」

そう言つて明久は呉島家に電話をかけた

明「光実さん! 助けて下さい! 姉さんに殺されそうなんです!!?」

光「明久君 落ち着いて! とりあえず荷物持つて家にきたら? 話は家で聞くか

ら」

明「ありがとうございます! すぐ行きます!!?」

そう言つて明久は電話を切り、荷物を持つて呉島家に行った

丁度貴斗が秀吉と共に何処かから帰つてきた所だった

貴「明久 玲さん絡みか?」

明「そうなんだよ　貴斗は秀吉と何処か行つてたの？」

秀「うむ！　その結果を報告するためなのじゃ!!？」

呉島家に3人が入つた後、貴斗はハート、ブレン、メディックとハーレーを呼び寄せた

熱「貴斗　頼んだ事の結果か？　何かあつたのか？」

貴「ハート　一つ聞くが、ロイミュードつて108までしかナンバーは無い筈だよな？」

熱「ああ、そうだが…？」

貴「ブレン、メディック　2人に聞くが、ロイミュードつて同じ能力の別個体を生み出すのは可能か？」

養「出来ない筈ですわ」

貴「ブレンは？」

脳「不可能な筈だ！　それ以前にそんな事すれば108以上ナンバーが増え…まさか…」

貴「そのまさかだし、2人の人の面した悪魔が蘇りやがった」

熱「蛮野と戦極　凌馬か　確かに厄介な悪魔だ」

そう言いながら、ハートは少し震えていた

貴虎「貴斗、何故ハートは震えてるんだ？」

秀「そこなのじゃ　何故あんなに強いハート殿が震えておるのじゃ？」

貴「蛮野は悪魔　その事實はクリムだけが現場で見ていたんだ」

ク「ああ、蛮野は8年前にハート、当時は002と言う名前だった彼に自分への出資を断つた青年の姿をコピーさせ、非道な拷問実験を繰り返していたんだ！」

熱「まだ俺が進化体になる前の話だが、あの拷問は一生忘れられないし、頭から離れない」

明「じゃあさ、戦極　凌馬って人が悪魔だつて言ってる理由は？」

光「それは僕から話すよ　あいつは仕事仲間ですら研究材料としか思わないし、自分の得の為なら秘書だろうが仕事仲間だろうが、平気で見捨てる奴さ　僕らとは正反対な奴だよ」

貴虎「挙句、光実に命を削るロックシードを言葉巧みに使わせたんだ　その後、どうなったかは私達は知らないが、日頃の行いに対する天罰が下ったのだろうな」

貴「しかし、このタイミングで玲さん帰ってくるのは最悪だぜ」

貴虎「何？？」　吉井　玲が帰ってくるのか？？」

秀「そうじゃなかったら、明久は呉島家に泊まる用意なんか持ち込まんぞい」

その時、明久の電話が鳴った

明「もしもし、母さん？ 今度は何？」

しかし、その答えは予想を外れたものだった

明久母「は？ 何言ってるの？ 私はこの電話が最初よ？ 玲を見てない？」

子がいなくなったのよ！」

明「え？ 何がどうなってるの？」

貴「明久！ 電話代われ！」

明「母さん 貴斗に電話代わるね」

貴「明久の母さん お久しぶりです 玲さんの部屋に行き先とか何か書いたメモは

無いですか？」

明久母「メモは無かったけど、何かを聞いた跡はあるし、国際通話料が本来よりも高くついてるぐらいだけど」

貴「明久の母さん その聞いてた奴を聞かせてもらってもいいですか？」

明久母「構わないわよ」

そう言つて、電話口から明久の母さんは流してくれた

それには、明久の部屋を盗聴していた記録が残っていた

最悪な事に美波さんが明久の部屋に行った時のまで盗聴されていた

光「貴斗、これは不味くない？？」

貴「不味いなんてもんじゃねえだろ！ 明久の母さん！ 玲さんの部屋に飛行機を予約した時間とかの記録はないですか？」

明久母「何故か2人分の予約があるけど、玲以外は聞いた事無い名前ね　ロイミュード004？　これ名前なのかしら？」

貴「飛行機の時間は？」

明久母「後25分後に到着だつて」

その言葉を聞き切らない内に明久の母さんとの電話を貴斗は切った

ク「004だつて!!?　あの時貴斗と私が奴のコアを壊した筈だ!!?」

貴「明久！　死にたく無かつたら急いで磯貝達と美波さんをマツハで連れて来い!!

？」

明「分かった！　急いで呼んでくる！」

貴「優子も連れて来るか　秀吉！　優子に電話しろ！　あのブラコン姉がヤバイ奴連

れて戻って来やがった！　つて！」

熱「蛮野や戦極　凌馬の対策に新たなナンバーのロイミュードの撲滅にやる事が多いな」

その時、ブレンは自分の服のポケットを弄っていた

脳「あれ!!?　無い!!?　無い!!?　何時も持つてる筈なのに!!?」

熱「ブレン 一体どうした？」

脳「ハート すいません！ 1番この状況で無くしたらヤバイのを無くしたらしいんです！」

貴「ネオバイラルコア□この状況でよく無くしたのに気づかないなブレン！」

養「そう言えば、例の女子2人組がこの間ブレンと補習監督してた際にちよつと目を離した隙に持ち出してたような……」

貴「メデイック！ 何で見たらすぐにブレンかハートか俺に言わん！」

この直後、貴斗にブレンとメデイックは拳骨を一発ずつかまされたのは別の話

第24話 貴斗と優子とブラコン襲来

明久が美波さん達を呼びに行ってから数分後

呉島家に優子が来ていた

優「貴斗 玲さん帰って来るって本当？」

貴「ああ、本当だ。しかも、明久と美波さんの関係までばれるわ、蛮野が蘇るわけで大変なんだよ」

ク「蛮野だけではない。戦極 凌馬まで蘇る始末だ。ってそんな事より貴斗、君は貴虎とハート以外に真実を隠して居るのでは無いのかね？」

貴「やっぱ、クリムにはお見通しか」

貴虎、ハート『私（俺）から言おうか？』

貴「これは俺の問題だ。俺から話す。クリム、あんた一体いつ気づいた？」

ク「何時も正しい報告する筈のマッドドクターが君を検査した時に限って嘘の報告をしていたのをデータ上で発見したんだ」

貴「そうだよ。マッドドクターも一枚噛んでたのさ。はつきり言う。俺のDN

A上の父親は蛮野。ハートにトラウマを植え付けた張本人だ。生まれてすぐにあ

いつに捨てられ、天樹父さんに拾われた。その際に名前を付けてくれたのが貴虎兄さんだ。最初、ハートから聞いて知った時はシヨックだった。そこから立ち直らせてくれたのも貴虎兄さんだ。光実兄貴、優子、秀吉。黙ってて悪かった。悪魔の血を引いちまったって事実を知られたく無かったんだ。貴虎兄さん、ハート。今まで苦しい思いさせて悪かった。」

その後しばらくの間無言の状態が続き、沈黙状態を破つたのは戻ってきた明久だった。明「貴斗！ 言われた通り全員呼んできたよ、って何か暗い？」

その後、明久達に今の現状と隠していた真実を話した

達「貴斗、お前。そんな苦しみを抱えてたのか」

その直後、鍵を5重でかけたドアをゴンゴンと殴る音がした

玲「アキ君、貴斗君、光実君、中にいるのは分かっていますから開けて下さい」

姫路「明久君。今なら脳震盪で勘弁してあげますから出てきて下さい」

清水「豚野郎！ いるのは分かっているんです！ 大人しく美春に全ての骨をへし折られなさい！」

夏川「おい。何か女の嫉妬と執念を感じるんだが？」

常村「凄え怖いんだが？？」 貴斗、明久！ お前ら2人で何とかしろ！！？」

明「無茶言わないですよ！ 今の言葉聞く限り卒業まで入院確定なだけ！」

夏、常『じゃあ、お前の姉貴だけでも何とかしろ!!?』

明「それが出来る相手なら苦労してないよ!」

その次の瞬間、一番最悪な声が聞こえた

??? 「オーブン!」

貴「優子! マツハドライバー返せ! 全員戦闘用意!」

ク「最悪だ! あいつが向こうにいるとは!」

熱「オーブンロイミュードか 今最も敵に回したくない能力を持ったロイミュード

だな」

秀「ハートよ お主そんな悠長な事言ってる場合じゃ無かろうに!!?」

第25話 因・縁・決・戦

秀「ハートよ お主そんな悠長な事言ってる場合じゃなからうに!?」

貴「とにかく、急いで準備しろ！ 外に追い出して迎え撃つ！」

オーブン? 「オーブン！」

2回目のオーブンロイミュードの声が聞こえたと同時にドアが開き、玲、清水、姫路、蛮野、凌馬が中に入ろうとした

が、貴斗と優子と秀吉と速水とハートが蛮野を呉島家の近くのビーチに、光実と貴虎と康太と愛子とブレンが凌馬を文月大橋に、磯貝、片岡、前原、岡野、杉野、神崎さん、業、糸成、根本、小山、雄二、翔子さん、達也、レオ、エリカが姫路と清水を文月学園に、明久、美波さん、深雪、メディックが玲を明久のマンション前に追い出した

貴斗サイド

ビーチに蛮野を追い出した貴斗達と蛮野は互いを睨みつけていた

均衡を破るかの様に貴斗と優子が蛮野に聞いた

貴、優『蛮野! あんたにとって俺(貴斗)は一体何なんだよ(何なのよ)!』

蛮野「役立たずのいらぬゴミであり、存在する価値の無い物だ」

貴「蛮野 あんたはあんたがゴミと呼んだ俺が2度と復活出来ねえように叩きのめしてやる!!?」

蛮野「やれるもんならやってみろ 変身」

そう言いながら、蛮野はドライブドライバーを模倣したバンノドライダーを腰につけてバンノドライダーのキーを回した

その瞬間、蛮野はゴールドドライブに変身した

貴「優子、ハートは手を出すな 秀吉、行くぞ」

秀「うむ 行くぞい！」

そう言いながら、貴斗と秀吉はマツハドライダー炎を腰につけてマツハドライダー炎のシグナルライティングパネルを上へ上げ、貴斗はシフトデッドヒート、秀吉はシグナルチェイサーをセットし、シグナルライティングパネルを下へ下げながら叫んだ

貴、秀『(Let's) 変身!!?』

シグナルバイク&amp;シフトカー! ライダー! デッドヒート!!?

シグナルバイク! ライダー! チェイサー!!?

そう音が鳴り、貴斗は仮面ライダーデッドヒートマツハに、秀吉は仮面ライダーチェイサーに変身した

貴虎サイド

文月大橋に凌馬を追い出した光実達は凌馬を見据えていた

貴虎が沈黙を破るように凌馬に聞いた

貴虎「一体何が目的だ？　ロイミュードの体を利用してまで何がしたいんだ？」

凌馬「役立たずの君達兄弟を消すためだ　研究者として価値の無い物は消す　それだけだ」

凌馬「望むところだ　変身」

貴虎「今度こそ決着を着けよう　凌馬　光実は手を出すな　変身」

凌馬「望むところだ　変身」

そう言いながら、貴虎と凌馬は互いにゲネシスドライバーを腰につけ、貴虎はメロン

エナジーロックシールドを、凌馬はドラゴンフルーツエナジーロックシールドを解錠した

メロンエナジー！

ドラゴンフルーツエナジー！

貴虎と凌馬は同時にそれぞれのエナジーロックシールドをゲネシスドライバーにセッ

トし、シーボルコンプレッサーを押し込んだ

ロック　オン！　ソーダ！　メロンエナジーアームズ!!？

ロック　オン！　ソーダ！　ドラゴンエナジーアームズ!!？

その音が鳴り、貴虎は仮面ライダー斬月・真メロンエナジーアームズに、凌馬は仮面

ライダーデュークドラゴンエナジーアームズに変身した

雄二サイド

姫路と清水を文月学園に追い出した雄二達は姫路と清水を睨みつけていた

沈黙を破るかのように雄二が姫路と清水に聞いた

雄「お前らは一体何がしたいんだ！

何で何回も明久と島田の関係を壊そうとしや

がんだよ!!？」

清水「あんな豚野郎より美春の方が100倍いいに決まっています！ 豚野郎とお姉様を引き離そうとして何が悪いのですか!!？」

姫路「あんな泥棒猫より私の方がいいに決まっています！ 明久君と泥棒猫を引き離そうとして何が悪いんですか!!？」

???「黙って聞いてりや言ってくれるじゃねえか」

その声が聞こえたと同時にゼロライナーが雄二達の近くに出現して停まり、ゼロライナーの中から呉島 優斗とデネブが降りてきた

清水「貴方は一体何者なんですか!!？」

優斗「未来から来た お前らが豚野郎だの泥棒猫呼ばわりした相手の知り合いだ」

姫路「なら私達の敵と見て良いですね」

そう言いながら、姫路と清水は懐から赤いバイラルコア ネオバイラルコアを取り出し、額に近づけた

その瞬間、清水はオープンロイミュードに、姫路はシーカーロイミュードに変身した
優斗「父さんから聞いた通り、厄介なのが相手か　デネブ　行くぜ　変身」

デネブ「了解!!？」

そう言いながら、優斗はゼロノスベルトを腰につけ、アプセットレバーを右手側に引き、赤いゼロノスカードをゼロノスベルトにセットした

チャージ&アッブ!!？

その音が鳴り、優斗は仮面ライダーゼロノスゼロフォームに変身し、同時にデネブもデネビツクバスターに姿を変えた

ゼロノス「未来の時間の父さんから坂本さん、霧島さん、あんたら2人に贈り物だよ」

そう言いながら、ゼロノスは雄二にミルクタンクとカプセルのついたバックル　バーストライバーを、翔子にはトランススイッチが2つしかついてないドライバー　なでしこドライバー（アストロスイッチセット済）を渡した

雄「何だこれ？　どうやって使うんだ？」

翔「これはどう使えばいいの？」

糸成「使い方なら見ただけで大体分かった

後、ちやつかり俺もバックルと武器を

拝借してる」

そうやって雄二と翔子に使い方を教える糸成の手には電王やブレイドを含む9人のライダーのマークがついた白いバックル。デイクイドライダーがライドブツカーと共にあつた

磯貝「よし！ 戦える全員で迎え撃つぞ！」

そう言いながら、磯貝はブレイドバックルに◆？のAをセットし、バックルを腰につけた

同時に、片岡はギャレンバックルに◆？のAをセットし、バックルを腰につけ、前原はレンゲルバックルに◆？のAをセットし、バックルを腰につけ、岡野はカリスラウザーを腰につけ、??のAを構え、糸成はデイクイドライダーを腰につけ、サイドハンドルを引き、ライドブツカーからデイクイドのライダーカードを出して構え、雄二はバーストライバーを腰につけ、ミルクタンクから一枚銀色のコインの様な見た目のセルメダルを出し、左手の親指で弾いて右手でキャッチし、翔子はなでしこドライバーを腰につけ、トランススイッチを2つとも押した

同時に、なでしこドライバーからカウントダウンの様な音が鳴り出した

3・2・1！

雄、磯、片、前、岡、翔、糸『変身！』

そう言いながら、磯貝と片岡はバックルのハンドルを引き、前原はバックルを開き、岡

野はカリスラウザーに??のAをスキャンし、糸成はデイケイドライダーバーにデイケイドのライダーカードをセットし、サイドハンドルを押し込み、雄二はバースドライダーのバースロットにセルメダルをセットし、グラップアクセラレーターを2回転させ、翔子は手を空に突き上げた

ターンアツプ!!?

ターンアツプ!!?

オープンアツプ!!?

チェンジ!!?

カメンライド! デイケイド!!?

バース!!?

そう音が鳴り、磯貝は仮面ライダーブレイドに、片岡は仮面ライダーギヤレンに、原は仮面ライダーレンゲルに、岡野は仮面ライダーカリスに、糸成は仮面ライダーデイケイドに、雄二は仮面ライダーバースに、翔子は仮面ライダーなでこに変身した

明久サイド

明久のマンション前に玲を追い出した明久達は玲を睨みつけていた

睨みつけられていた玲が明久に聞いた

玲「アキ君 どうして姉さんをそんな目で睨みつけてるんです? どうして姉さん

よりそんな泥棒猫を選ぶんです？ アキ君は姉さんの物なのに」

明「僕が姉さんの物？ 冗談じゃない！ 僕はバスタープで天下の往来を歩いた

り、実の弟にイケないキスしようとする人の物じゃない！ 僕は誰の物でもないし、も

し誰かの物ならば、それは美波の物だ!!？」

??? 「よく言ったよ お父さん」

そう声が聞こえたと同時に、何処からか出てきたネクストトライドロンが明久達の近くに停まり、ネクストトライドロンの運転席から女の子が出てきた

明「君は一体誰？ それにお父さんってどう言う事？」

明美「私は吉井よしい 明美あみ お父さんって言ったのは明久父さんと美波母さんの未来の

子どもだからよ」

玲「よくく分かりました アキ君、姉さんがきっちりお仕置きしてあげます 変

身！」

明美「そうはさせせない！ 変身!!？」

そう言いながら、玲はゲネシスドライバーを腰につけ、ドラゴンフルーツエナジーロックシードを解錠した

ドラゴンフルーツエナジー！

玲はゲネシスドライバーにドラゴンフルーツエナジーロックシードをセットし、シー

ボルコンプレッサーを押し込んだ

同時に、明美はネクストトライドロンの運転席の近くからドライブドライバー（ドライバードライビングカラー黄色ver）を引き出して腰につけドライブドライバーのキーを回した

START OUR MISSION!

そう音が鳴るのを聞きながら、明美はシフトネクストスペシャルを黒い方を上にしてシフトブレスにセットした

ロック オン！ ソーダ！ ドラゴンエナジーアームズ!!?

ドライブ！ タイプ ネクスト!!?

そう音が鳴り、玲は仮面ライダータイラントドラゴンエナジーアームズに、明美は仮面ライダーダークドライブタイプネクストに変身した

第26話 貴斗と秀吉と蛮野撲滅

貴斗サイド

貴「優子、ハートは手を出すな 秀吉、行くぞ」

秀「うむ 行くぞい！」

そう言いながら、貴斗と秀吉はマツハドライバー炎を腰につけてマツハドライバー炎のシグナルライティングパネルを上へ上げ、貴斗はソフトデッドヒート、秀吉はシグナルチェイサーをセットし、シグナルライティングパネルを下へ下げながら叫んだ

貴、秀『(Let's) 変身!!?』

シグナルバイク&amp;ソフトカー! ライダー! デッドヒート!!?

シグナルバイク! ライダー! チェイサー!!?

そう音が鳴り、貴斗は仮面ライダーデッドヒートマツハに、秀吉は仮面ライダーチェイサーに変身した

そのまま、貴斗と秀吉はゴールドドライブに殴りかかったが、避けられ、逆にゴールドドライブから猛攻を受けた

秀「これでも食らうのじゃ！」

そう言いながら、秀吉はブレイクガンナーにシフトメガマックスフレアをセットし、ブレイクガンナーの銃口を押し込んだ

エクスキューション！ フルブレイク！ メガマックスフレア!!？

その音を聞きながら秀吉はブレイクガンナーでゴールドドライブに殴りかかった

その時にゴールドドライブがバンノドライブのキーに手を掛けようとしていたのを見逃さなかった貴斗はすぐに秀吉に叫んだ

貴「秀吉！ その攻撃はよせ！」

秀「なんじやと!？」

ゴールド「もう遅い!!」

ゴールドドライブがそう言いながらバンノドライブのキーを回したと同時に、ゴールドドライブのタイヤ部分の機械が光り、秀吉の手からブレイクガンナーがシフトメガマックスフレアごと消え、ゴールドドライブの手に移った

そのまま、ゴールドドライブはブレイクガンナーからシフトメガマックスフレアを抜き、ゴールドドライブのシフトブレスにセットしてイグナイターを押した

ヒツサーツ！ フルスロットル！ メガマックスフレア!!？

その音が鳴ると同時に、ゴールドドライブはブレイクガンナーを横薙ぎに振りながら、ブレイクガンナーのトリガーを引いた

その瞬間、マックスフレアより大きな火炎弾が貴斗と秀吉を襲った

貴、秀『ぐわっ！（のわっ！）』

まともに食らった貴斗と秀吉の変身が解除されてしまい、貴斗と秀吉はビーチの砂浜に倒れこんだ

ゴルド「もうお終いか　やはりゴミはゴミだな　消えろ　と言いたい所だが、そ

この女共から死ね！」

そう言いながら、ゴルドドライブはブレイクガンナーを優子と速水のいる方向に向け、ブレイクガンナーのトリガーを引いた

貴「やめろー!!?」

貴「嘘だろ!!?　俺はまた、仲間を、大切な人を目の前であいつに殺されるのか!!
?　俺はまた何も出来ないのか!!?」

しかし、ブレイクガンナーの火炎弾は優子と速水には当たらなかつた

熱「ふんっ!!?」

いつの間にか超進化態になっていたハートが体を張って優子と速水を守っていた

貴「ハート！　お前！」

熱「貴斗！　過去を悔むより今、何をするべきか考えろ！　お前が本当にするべ

き事は何だ！　お前はもう二度と目の前で大切な人を失いたくないんだろ!!?　今

こそ、この力を使うべきだ！ やれ！貴斗！ いや、仮面ライダーマツハ!!？」

そうハートに言われた瞬間、貴斗の体の中から力が湧き上がってきた

同時に、ハートは貴斗にシフトデッドヒートにもう一つサイドバイクの付いたシフトカーを投げ渡した

貴斗はハートから受け取ったシフトカー シフトデュアルデッドヒートをシフトデッドヒートの様にマツハドライブ炎にセット出来るようにシフトデッドヒートのサイドバイクより厚みの薄いサイドバイクを二つ共外側から内側に倒し込み、秀吉にトライドロンのキーを投げ渡した

秀「貴斗 何故儂にトライドロンのキーを投げ渡したのじゃ？」

貴「そいつを使えば、マツハドライブでもドライブに変身出来る！ 秀吉！行

くぞぞ！」〔剛先輩、チェイス、一緒に戦ってください!!？〕

秀「うむ！ もう一度行くぞい！」

そう言いながら、貴斗と秀吉はマツハドライブ炎のシグナルライティングパネルを上へ上げ、貴斗はシフトデュアルデッドヒートを、秀吉はトライドロンキーをシグナルライティングパネルにセットし、シグナルライティングパネルを下に下げながら叫んだ

貴、秀『(Let's) 変身!!？』

デュアルシグナルバイク&シフトカー！ ライダー！ 絶デッドヒート!!

?

シグナルバイク& amp ;シフトカー！ ライダー！ 超デッドヒート!!？

その音が鳴り、貴斗は仮面ライダーデッドヒートマツハと仮面ライダーチェイサー、プロトドライブが融合した姿 仮面ライダー絶デッドヒートマツハに、秀吉は仮面ライダー超デッドヒートドライブに変身した

ゴルド「何だその姿は!!？ そんな形状のマツハとドライブは存在する筈がない！
認めん！ 認めんぞ！」

貴斗はシンゴウアックスを呼び寄せ、秀吉はハンドル剣を呼び寄せ、ゴルドドライブを途中で刃先同士を擦らせたりしながら攻撃した

ゴルド「あり得ん！ マツハとドライブの性能がこのゴルドドライブを上回るはずが無い！ 認めんぞ！ こんな事認めんぞ!!？」

そう叫んだゴルドドライブに武器を蹴り落とされ、貴斗と秀吉は少し後ろに殴り飛ばされた

そのままゴルドドライブはバンノドライブのキーを回した

同時に、貴斗と秀吉は動きを封じられ、地面に落ちていたシンゴウアックスとハンドル剣がゴルドドライブの手に渡った

そのままゴルドドライブにハンドル剣で貴斗と秀吉は斬られ、シンゴウアックスの横

薙ぎを食らうかと思つた瞬間、バット、スパイダー、コブラの三台のチェイサーバイラルコアがゴルドドライブに攻撃し、貴斗と三台のチェイサーバイラルコアが融合した

融合したことがきつかけとなり、貴斗は再び動けるようになった

貴斗は素早くマツハドライブバー炎のブーストイグナイターを連打した

バースト！ キユウニ！ 絶デッドヒート!!？

そう音が鳴ると同時に、貴斗はゴルドドライブを殴りながらゴルドドライブに言った
貴「返せ！ それは俺と秀吉、チェイスの武器だ！」

そのまま貴斗は素早く武器を取り返すと、シンゴウアックスでゴルドドライブのタイヤ部分の機械を壊し、ハンドル剣でゴルドドライブを斬りつけた

貴斗はハンドル剣を秀吉に持たせ、秀吉のマツハドライブバー炎のブーストイグナイターを連打した

バースト！ 超デッドヒート!!？

そう音が鳴り、秀吉も貴斗同様動けるようになった

ゴルド「許さん！ 許さんぞ！ ガキ風情が大人の計画を邪魔するなど！」

貴「五月蠅えよ！ 剛先輩の心を利用したり、霧子さんを侮辱したり、クリムの発

明を悪用し続けたり、挙句、チェイスの命を奪って、その上、俺の彼女の命を奪おうとした分の報いを受けやがれ!!？」

そう言いながら、貴斗はマツハドライバー炎のシグナルライティングパネルを上上げ、ブーストイグナイターを押し、シグナルライティングパネルを下に下げた

秀吉もマツハドライバー炎のシグナルライティングパネルを上上げ、ブーストイグナイターを押し、シグナルライティングパネルを下に下げた

ヒツサツ！ バースト！ フルスロットル!!？ 絶デッドヒート!!？

ヒツサツ！ バースト！ フルスロットル!!？ 超デッドヒート!!？

貴斗と秀吉は同時に飛び上がり、ゴルドドライブにフルパワーの蹴りを放った

まともに食らったゴルドドライブは変身が解除され、蛮野の姿をしていたロイミュード235のコアがロイミュードごと破壊され、バンノドライバーだけが残った

貴斗は変身を解除し、シンゴウアックスとシグナルチェイサーを秀吉から無言で借り、バンノドライバーの前に立ち、シンゴウアックスのシグナルライティングパネルにシグナルチェイサーをセットし、シンゴウプッシュボタンを押しした

ヒツサツ！ マツテローヨ！ マツテローヨ！ マツテローヨ！

バンノ「貴斗！ 待て！ 落ち着け！ 考え直せ！ 私という偉大な頭脳をこの世から消していい訳が無い！ 貴斗！ 考え直せ！」

マツテローヨ！ マツテローヨ！ マツテローヨ！ イッテイーヨ！

貴「逝っていいよ だつてさ 二度と蘇るな 最低外道悪魔」

そう言いながら、貴斗はシンゴウアックスのフルスロットトリガーを引いた
フルスロットル！ チエイサー!!？

そう音が鳴るのを聞きながら貴斗はシンゴウアックスをバンノドライバーに振り下
ろした

バンノ「ウワアー……!!？」

そう言いながら、バンノドライバーは砕け散った

貴「剛先輩、未練は潰しましたよ」

貴斗は満足そうな笑顔をしながら倒れ、ハートと速水に呉島家まで連れられた

同時に優子と秀吉が貴斗とハートの代わりに雄二達と貴虎達の手助けに行ったのは

別の話

明久姉編裏話 第26話 姫路 瑞希が島田 美波を
憎んでいるのは何故か？

雄二サイド

磯貝「よし！ 戦える全員で迎え撃つぞ！」

そう言いながら、磯貝はブレイドバックルに♣？のAをセットし、バックルを腰につけた

同時に、片岡はギャレンバックルに♦？のAをセットし、バックルを腰につけ、前原はレンゲルバックルに♠？のAをセットし、バックルを腰につけ、岡野はカリスラウザーを腰につけ、??のAを構え、糸成はデイクイドライバーを腰につけ、サイドハンドルを引き、ライドブツカーからデイクイドのライダーカードを出して構え、雄二はバーストライバーを腰につけ、ミルクタンクから一枚銀色のコインの様な見た目のセルメダルを出し、左手の親指で弾いて右手でキャッチし、翔子はなでしこドライバーを腰につけ、トランススイッチを2つとも押した

同時に、なでしこドライバーからカウントダウンの様な音が鳴り出した

3・2・1！

雄、磯、片、前、岡、翔、糸『変身!』

そう言いながら、磯貝と片岡はバックルのハンドルを引き、前原はバックルを開き、岡野はカリスラウザーに??のAをスキキャンし、糸成はディケイドライダーバーにディケイドのライダーカードをセットし、サイドハンドルを押し込み、雄二はバースドライダーのバースロットにセルメダルをセットし、グラップアクセラレーターを2回転させ、翔子は手を空に突き上げた

ターンアツプ!!?

ターンアツプ!!?

オープンアツプ!!?

チェンジ!!?

カメンライド! ディケイド!!?

バース!!?

そう音が鳴り、磯貝は仮面ライダー剣に、片岡は仮面ライダーギヤレンに、前原は仮面ライダーレンゲルに、岡野は仮面ライダーカリスに、糸成は仮面ライダーディケイドに、雄二は仮面ライダーバースに、翔子は仮面ライダーなでしこに変身した

清水、姫路『何で仮面ライダーは豚野郎（泥棒猫）からお姉様（明久君）を引き離すのを邪魔するんですか!』

優斗「だからよ、そうやって明久さんと美波さんをヒデエ呼び方してつから仮面ライダーに嫌われてんだよっ！」

そう言いながら、優斗はオープンロイミュードを蹴り飛ばした

同時に雄二は膝蹴りをシーカーロイミュードに叩き込んだ

雄「大体、清水の明久の豚野郎呼ばわりはともかく、何で姫路は島田を泥棒猫呼ばわりしてんだ？ その理由を聞かせてくれないか？」

姫路「、あの泥棒猫はずるいです 私が7年かけて縮めた距離をたった2日で縮めたんですから」

糸成「大体分かった 要するに自分がかかった時間よりも速く明久と距離を縮めた事による嫉妬 ってわけか」

雄「だったら なおさら邪魔しないわけには行かねえなっ！」

そう言いながら、雄二はミルクタンクから追加で取り出したセルメダルをバースドレイバーのバースロットにセットし、グラップアクセラレーターを回した

ドリルアーム！

そう音が鳴り、仮面ライダーバースの右腕にドリルアームが装着された

そのまま、雄二はドリルアームでシーカーロイミュードを攻撃した

その間に、糸成はライドブッカーから3枚のカードを取り出し、磯貝、片岡、岡野の

後ろに立った

磯貝「どうした系成？」

系成「ちよつとくすぐつたいだろぅが我慢しろよ」

そう言いながら、素早く3枚のカードをデイケイドドライブにセットした

片岡「くすぐつたいだろぅが我慢しろよつて、系成君そのカードはまさか!!？」

ファイナルフォームライド！ ブ・ブ・ブ・ブレイド！

ファイナルフォームライド！ ギャ・ギャ・ギャ・ギャレン！

ファイナルフォームライド！ カ・カ・カ・カリス！

そう音が鳴るのを聞きながら、系成は磯貝の背中を中心に平面の円を描き、片岡の背中を中心に磯貝に描いたのとは別の向きで円を描き、岡野のカリスラウザーを外して上に投げつつ、背中を開いた

磯貝「うおあつ!!? おい系成!!? 何だよこれ!!?」

片岡「きやあつ!!? ちよつと系成君!!? こう言う事はs」

岡野「先に断つてからやってよね!!?」

そう磯貝が驚き、片岡と岡野は系成に怒りながら、磯貝はブレイドブレードに、片岡はギャレンガンに、岡野は系成が投げ上げた直後に大きくなったカリスラウザーと合体しながら、ビッグカリスアローに姿が変わった

そこにドリルアームを解除しながら雄二が戻ってきた

雄「何ださっきの怒鳴り声とかは、って何だこれ!?」

糸成「磯貝達をファイナルフォームライドしただけだ 決めるぞ」

そう言いながら、糸成は再び3枚のカードをライドブツカーから取り出して、ディケイドライバーにセットした

ファイナルアタックライド! ブ・ブ・ブ・ブレイド!

ファイナルアタックライド! ギャ・ギャ・ギャ・ギャレン!

ファイナルアタックライド! カ・カ・カ・カリス!

そう音が鳴ると同時にブレイドブレード、ギャレンガン、ビッグカリスアローにエネルギーが溜まり、ギャレンガンが雄二の元に、ビッグカリスアローが前原の元に移動した

優斗「撃てるかデネブ?」

デネブ「優斗、いつでも撃てるぞ」

デネブと話しながら、優斗はゼロノスベルトのフルチャージスイッチを押し、ゼロノスベルトからゼロノスカードを抜き、デネビツクバスターにセットした

フルチャージ!

そう音が鳴ると同時にデネビツクバスターのゴールドフィンガーにエネルギーが溜

まった

そこに蛮野と戦っていたはずの秀吉が仮面ライダーチェイサーに変身しながら走って来た

秀「待つんじゃない！ そのままではそのロイミュード達は倒せぬ！」

秀吉は叫ぶと同時にシンゴウアックスのシグナルランディングパネルにシグナルチェイサーをセットし、シンゴウプッシュボタンを押した

ヒツサツ！ マツテローヨ！ マツテローヨ！ マツテローヨ！

そう音が鳴るのを聞きながら秀吉はシーカーロイミュード達に言い放った

秀「少し待つておるのじゃ ふざけた音声じゃが、破壊力抜群のこの武器でお主らロイミュード達の悪行を終わらせてやるのじゃ！」

マツテローヨ！ マツテローヨ！ マツテローヨ！ イッテイーヨ！

そう音が鳴ると同時に秀吉はシーカーロイミュード達にシンゴウアックスを振りかぶり、シンゴウアックスのフルスロットルトリガーを引き、シーカーロイミュード達に振り抜いた

フルスロットル！ チェイサー！

シーカーロイミュード達にシンゴウアックスを振り抜いた後、秀吉はシーカーロイミュード達から清水と姫路を引き離し、通常のロイミュードに戻った所で仮面ライダー

チエイサーの変身を解除し、魔進チエイサーに変身し、ブレイクガンナーにバイラルコアをバット、スパイダー、コブラの順番でセットした

チューン！ チューン！ チューン！ チューン！ チューン！ チューン！ スパイダー！ コブラ！

そのまま秀吉はブレイクガンナーの銃口を押し込んだ

エクスキューション！ トリプルフルブレイク！ チエイサーバット！ スパイダー！ コブラ！

そう音が鳴ると同時に秀吉は雄二達に指示をした

秀「今じゃ！ お主らが先に撃つのじゃ！ 厄介なコアは儂が破壊するのじゃ！」

優斗「分かった！ みんな行くぜ！」

そう言うと同時に優斗達は一斉に攻撃した

通常のロイミュード達のコアが空中に浮いた所で、秀吉はコアに向かって叫びながらブレイクガンナーを突き出した

秀「トリプルチューンを食らうのじゃ！」

秀吉が放った一撃でロイミュード達のコアは完全に破壊された

清水と姫路はその光景を見て肩を落としていたのは言うまでも無い

追憶編

第27話 貴斗の様子がおかしいのは何故か？

ある日のAクラス

秀「貴斗、遅いのう」

優「珍しいわよね 貴斗が遅いなんて」

いつもなら貴斗が光実と共に来ている時間になっても貴斗と光実が教室に来ていない為か、秀吉と優子の口から遅いと言葉が漏れた

やがて、授業開始時刻ギリギリに貴斗と光実が教室に来た

貴、光『すいません！ 遅刻しました！』

高橋「いいえ、まだ授業前なので大丈夫ですよ それにしても、珍しいですね

呉島兄弟揃ってギリギリの登校とは」

貴「後、先生 今日授業終わったら即帰ります」

高橋「分かりました 何か不幸な事でもありましたか？」

貴「知り合いの命日なので、墓参りに呼ばれてまして」

少し飛んで全授業終了後

貴、光『それじゃ、帰ります！』

そう言いながら、貴斗と光実はずっと早く帰宅した

優「秀吉、あんた部活は？」

秀「今日は無いぞい 貴斗をつけるのかのう？」

優「当たり前よ 何か貴斗暗かったし」

そう言いながら、優子と秀吉は気付かれないようにこっそり教室を抜けた

足早に帰宅した貴斗と光実は文月学園の制服から黒服に着替え、貴虎の運転する車に乗った

貴虎の運転する車は運転免許試験場に止まり、運転免許試験場前にいた追田警部補、本願寺課長、貴斗より少し小柄なメガネをかけた男 西城 究、白衣を着た女性 沢神 りんな、若い婦人警官 詩島 霧子サングラスの似合う警官 狩野 洗一が貴虎の運転する車に乗り込んだ

その後、貴虎の運転する車は元 特殊状況下防衛センタービルの前に作られた墓石より少し離れた所に止まった

車から貴斗達が全員降りたタイミングで貴斗が近くを見渡すように言った

貴「優子、秀吉 つけてたのバレてるから出てこいよ」

すぐに優子と秀吉が貴虎の車から少し離れた場所の電柱の影から出てきた

本願寺「貴斗ちゃん 最初から気づいてたのにわざとここまでつけさせたのって もしかして、優子ちゃん達に話す決心ついたんですか？ あの日の事を」

貴「ええ、もう隠しててもしょうがないんで その前に、初めて会う人もいるんで互いに軽めに自己紹介でもしますかね」

本願寺「そういや、究ちゃん、りんなさん、霧子ちゃん、狩野君は優子ちゃん、秀吉君と会うのは初めてでしたね 貴斗ちゃんの彼女の木下 優子ちゃんとその弟の木下 秀吉君です」

究「初めまして、西城 究と言います 貴斗君にはいろいろ世話になりました 究ちゃんか西城さんのどっちかで呼んでください」

霧子「同じく初めまして、詩島 霧子です 貴斗君とは一時的ですが、コンピを組んでました」

りんな「同じく初めまして、沢神 りんなです 貴斗君の使ってるドライブの武器を作ったり、バトルのサポートをしてました」

洗一「狩野 洗一だ 貴斗君とは直接は関わってないが、彼には助けてもらった恩がある」

その後、優子と秀吉も自己紹介をした後、秀吉が首を傾げていた

秀「うむ？ 西城 究、、あつ！ もしかしてじゃが、あの『機械仕掛けの友情』を

書いたあの西城 究先生ではないかの?」

究「えっ! 秀吉君読んでくれてたの? 僕嬉しいな!」

秀「うむ! 儂は毎晩、寝る前に必ず読んで演劇の参考にさせてもらっておるのじゃ!!?」

究「わお! 劇にする時は公演日教えてね! 絶対見に行くから!!?」

秀「うむ! その時は必ず招待させてもらうのじゃ!!?」

本願寺「意気投合するのはいいですが、これからお参りですよ きゅくうちゃん 分かった?」

究「分かつてますよ 課長 あれ? 貴斗君、ベルトさんは?」

貴「家でハーレーの親父と留守番中だよ」

究「そっか 貴斗君、やつぱり先にあの日の事を優子ちゃんと秀吉君に話してからお参りした方がいいんじゃないかな?」

貴「そうするかな この場にベルトさんも居てくれていると話しやすいんだけどね

課長、究ちゃん、補足頼んでいいですか?」

本願寺「分かりました 優子さん、秀吉君、光実君、貴虎さん、今から話すのは、世界を静止させ、人々を支配しようとした機械生命体 ロイミュードと、その企みを止めるべく戦った、皮肉にもロイミュードの産みの親、蛮野 天十郎の血を受け継いだ2人、

貴斗君ともう1人、詩島ししま 剛君ごうと、唯一クリムちゃんがプログラムを施したロイミュード プロトゼロことチエイイス君の3人の戦士のロイミュードとの二度の最終決戦の時の話です」

そう言った本願寺課長の口から貴斗の実の兄に当たる詩島 剛と貴斗のロイミュードの中の数少ないダチ チエイイスの2人の悲運の話が語られ始めた

第28話

貴斗が死神という単語に敏感なのは何故か

？ 前編

本願寺「分かりました 優子さん、秀吉君、光実君、貴虎さん、今から話すのは、世界を静止させ、人々を支配しようとした機械生命体 ロイミュードと、その企みを止めるべく戦った、皮肉にもロイミュードの産みの親、蛮野 天十郎の血を受け継いだ2人、貴斗君ともう1人、詩島 剛君と、唯一クリムちゃんがプログラムを施したロイミュード プロトゼロことチェイス君の3人の戦士のロイミュードとの最終決戦の時の話です」

貴「の前に、俺とベルトさんが出会ったきっかけの事件から話すよ その事件があったのは文月学園に入る前の春休みの終わり頃 で間違いないですよね？ 霧子さん？」

霧子「ええ、優子さん、秀吉君、光実君、貴虎さんは連続人肌紅色化事件と連続誘拐事件の事はご存知ですか？」

貴虎「ああ、知っている 連日ニュースになっていたからな」

貴「その事件の現場にたまたま俺が散歩で通りかかったもんで、とつさに誘拐されそうになっていた人を避難させ、ジョーカーで戦おうと思つてロストドライバーを腰につ

けようとした時に、霧子さんが乗っていた車からベルトさんが飛んできて俺の腰についたんだ」

—————回想シーン—————

貴斗サイド

文月学園入学前の春休みの終わり頃のある日

貴（散歩するのに丁度良い天気だな 散歩してこよう）

そう思った貴斗は念のためにロストドライバーとジョーカーメモリを持って散歩をしに外に出てぶらついていた

そこに突如悲鳴が聞こえたので貴斗は悲鳴のした方向に走って行った

貴斗が駆けつけた時には、コブラの様な頭の胸に3桁の数字が書かれた怪物が女性を誘拐しようとしていた

誘拐されそうな女性「きやー!!?」

貴「その人！ 危ないから早く逃げて!!?」

貴斗は素早く怪物に当たるように近くの石を投げつけて、自分に気を引かせて、女性を逃がした

☒? 「さっきの女よりはお前の方が生きが良さそうだな 連れてくか」

貴「やれるもんならやってみやがれ！ ってあれ!!?」

そう言いながら、貴斗はロストドライバーを腰につけようとした時、何処からか車のメーターの様な模様のついたベルトがいつの間にか貴斗の腰についていたので貴斗は驚いた

霧子サイド

貴斗が散歩してたのとはほぼ同じ頃

私はすぐ近くで誘拐未遂事件が発生したと聞いて、急いで本願寺課長から渡された車、トライドロンを運転して現場に向かっています

現場に近くなった瞬間、トライドロンの運転席の近くにはまっていたベルト クリムが突然、トライドロンの中から飛び出しました

霧子「クリム! 何処に行くんですか!?!?」

クリム「彼だ! 彼しかない!!? 彼を誘拐されるわけにはいかない!」

そう言いながら、クリムはロイミュードと戦おうとドライバーを腰につけようとした少年の腰につきました

貴斗サイド

貴「あれ!?!? いつの間に!?!?」

クリム「いきなり失礼 私はクリム・スタインベルト 訳があつてこの姿なんだ 君の名前を聞かせてくれないか?」

貴「貴斗 呉島 貴斗だ」

クリム「貴斗か 良い名だ 貴斗 君が使おうとしていたそのドライバーでは人工機械生命体 ロイミュードを倒すことは出来ない」

貴「じゃあ、どうすりゃ倒せんだよ!!?」

クリム「私が開発したドライブシステムを使うのだ 奴 ロイミュードが放つ重加速にも耐えられ、重加速内でも早く動ける つかぬ事を聞くが、君は他人の運転はあまり信用出来ないタイプか？」

貴「どっちかと言われればあまり信用しない方だな 自分が運転した方が早いし」

クリム「ならばこのシステムは君にぴったりだ 君で君自身を運転するのだからな」

貴「俺がドライブシステムつてのを使えば、あのロイミュードつてのを倒せんだな ベルト?」

クリム「君が望むならばだがの話だ 後、呼び捨てとは失礼だね!」

貴「じゃあ、ベルトさんよ! あんたが俺に向いてるって言ったそのシステム使わせてもらうぜ!」

クリム「OK! まずは私、ドライブドライバー本体にキーが付いているだろう? それを手前側に回したまえ」

貴「こうか?」

ベルトさんに言われるままに、貴斗はドライブドライバのキー イグニッションキーを回した

クリム「次にシフトブレスに赤いシフトカー シフトスピードをレバーモードにしてセツトしたまえ」

貴「シフトブレスって何処にあんだよ？」

と貴斗がぼやいた瞬間、貴斗の近くに赤いミニカー シフトスピードがシフトブレスらしきものを乗せてきた

貴「これを腕につけりや良いんだな で、どうやってレバーモードにするんだ？」

と言いながら、貴斗はシフトブレスを腕につけ、シフトスピードを触っていた

クリム「失礼 その説明を忘れていた シフトスピードの後ろの部分を半回転させたまえ」

貴「こうか？」

そう言いながら、貴斗はベルトさんの指示通り、シフトスピードをレバーモードにして、シフトブレスにセツトした

クリム「後は変身と言いながら、シフトブレスにセツトしたシフトスピードを押し込む感じで倒したまえ そうすればドライブに変身出来る」

貴「分かったぜ ベルトさん！ ひとっ走り付き合えよ!!? 変身!!?」

そう言いながら、貴斗はベルトさんの指示通りにシフトブレスにセットしたシフトスピードを動かした

ドライブ！ タイプ！ スピード!!？

そう音が鳴り、貴斗は仮面ライダードライブタイプスピードに変身した

ロイミュード「何だ その姿は!!？」

貴「悪いが俺も全く知らない これが初運転だ！ ひとつ走り付き合えや！」

—————回想シーン 終わり—————

貴「その後、女性を誘拐しようとしていたロイミュード 029 をタイヤコウカンを駆使して倒した後、最年少の若さで客員警察官として警視庁 特殊状況下事件捜査課に所属する事になったんだ」

霧子「その後、貴斗君は 女性誘拐事件、輸送トラック襲撃事件、ビル崩壊事故等様々な事件を解決して、6月頃に怪盗アルティメットルパン ゴルーグ東城 もといロイミュードZZZZ（スリーゼット）、メガヘクスと戦った訳です」

貴虎「何!!？ じゃあ、あの時共に戦ったあの赤い戦士に変身してたのは貴斗だったのか!!？」

光「そうだよ もっとも僕は兄さんより先に知ってたんだけどね 後、貴斗が鎧武とバロンの力を入れたのもメガヘクスとの戦いの後だったんだけどね」

―――――再び 回想シーン―――――

呉島 貴斗は好敵手の1人である死神ことチェイスの変身する魔進チェイサーの協力を得て怪盗アルティメットルパン もといロイミュードZZZを倒したが、直後に謎の怪物 メガヘクスがZZZの体をコアごと吸収し、メガヘクスZZZに進化するのを目撃した為、ドライブに変身して、メガヘクスZZZを追ってトライドロンで向かっていったが、目的地を知った貴斗はトライドロンを止めながらクリムに話しかけていた

貴斗「ベルトさん 一旦変身解除していいか？」

クリム「構わないが どうしたんだね？」

貴斗「兄さん達に正体がバレたくないからりんなさんに作ってもらった変声機をつけたいんでね」

クリム「構わんよ 今は家族であってもあまり正体を明かすべきではないからね」

ベルトさんの許可を得て、貴斗は変声機をつけてから再びドライブに変身し、目的地である沢芽市内の兄である光実と貴虎が変身した仮面ライダー龍玄と仮面ライダー斬月・真らが戦っている場所の近くでトライドロンを止めて、近くの敵から戦っていたら複数のフルーツが描かれた胸当てをつけた仮面ライダーに話しかけられた

???「おいおい、何だお前 胸にタイヤ引っ掛けて」

貴斗(変声)「俺は仮面ライダードライブ ただの市民の味方です あそこにいるメガ

ヘクスを追って来ました。そっちこそ何者なんですか？」

???「俺か？俺は仮面ライダー鎧武。何だろ？今の俺を一言で説明すると、宇宙の神様。ってもんだ」

貴斗（変声）「神様？神様ね〜。話はさっぱり分かりませんが信用していい人だつて事はよく分かりました」

鎧武「お前の話を聞く限り俺たちにとつてメガヘクスは共通の敵のようだな。ドライブと一緒に戦おう！ってあのドライブってまさか!?？」

貴虎「メガヘクスめ！凌馬だけでなくよりによつて駆紋。戒斗まで！」

そう話してるうちにメガヘクスは鎧武や貴虎の反応を見る限り状況的にヤバイ相手を蘇らせたようだった

戒斗「葛葉。相変わらず貴様はまだそんなふうには足掻くか。俺のやる事は変わらない。変身！」

そう言いながら、駆紋。戒斗は仮面ライダーバロンバナナムズに変身し、バナナムズ専用武器を構えたと思つたら、メガヘクスに不意打ちをした

メガヘクス「何をする！」

戒斗「個を消して一つにするだど？くだらん。葛葉よりも甘つたれた考えの貴様等はこの俺が叩き潰す!!？」

鎧武「確かに俺たちはお前達と言う通り無軌道でそれぞれがそれぞれの考えで動き、失敗を犯すかも知れない」

光実「だけど 個っていうのはエラーとは違う!」

貴虎「個とはエラーではなく 可能性だ それぞれが違うからこそ新しい考えが生まれる」

鎧武「俺は、いや俺たちは個を消して一つになった世界より、みんなで手を取り合つて互いを認め合う世界を選ぶ!」

貴斗(変声)「いいね! 良いチームだ! 俺も鎧武と同じ意見だ! 鎧武! 行こうぜ!!? 彼奴らを倒すぜ!!?」

鎧武「ああ! 行くぜみんな!」

そう鎧武が言ったと同時にメガヘクスは新たに多数の敵を呼び出し、攻撃してきた貴斗達はメガヘクスの攻撃を避け、それぞれの近くの敵から戦い始めた

しばらくして光実と貴虎が鎧武に話しかけた

光実「紘汰さん! ここは僕や戒斗達に任せて下さい!」

貴虎「葛葉はその赤い戦士と強化されたメガヘクスを倒せ! それ以外に方法が見つからん!」

貴斗(変声)「赤い戦士? 俺か? ま いいや! 来い! ハンドル剣!!?」

貴斗は素早くハンドル剣を呼び寄せて近くの敵を倒しながらメガヘクスを追う為に鎧武と合流しようとして移動し始めた

戒斗「この俺に勝つて手に入れた未来を意地でも守れ！ 葛葉!!？」

鎧武「分かった！ ここは任せる！ 行くぜドライブ!!？」

そう言いながら、鎧武はロックシードの力で武器を複数呼び出し、火縄大橙DJ銃と無双セイバーを組み合わせて大剣モードにしてから貴斗と共にメガヘクスを追った

貴斗サイド

貴斗と鎧武はメガヘクスをそれぞれの剣系武器で攻撃した

メガヘクスのボディが切り裂かれて倒れたのをみた貴斗と鎧武は喜んだ

貴斗（変声）「やりましたね」

鎧武「おう！」

だが、喜んだのもつかの間、切り裂かれたボディを修復しながら立ち上がったメガヘクスを貴斗達はみた

貴斗（変声）「ウソダンドドコードン！ ってぐらい凄すぎる復元力だぞ ベルトさん

！」

鎧武「嘘だろ!!？ あんな状態から復元しやがった!!？」

クリム「某ライダーネタを言つとる場合じゃないぞ！ 奴の復元力を上回る破壊力が必

要だ!」

鎧武「え!?? ドライブ お前ベルトと喋れんのか!?? っておわっ!」

貴斗と鎧武が話してるうちにメガヘクスが攻撃を仕掛けてきたので避け、それぞれの銃系武器で攻撃し、メガヘクスが怯んだ所に女神が走ってきた

女神「絃汰!」

鎧武「おう 舞!」

貴斗(変声)「え!?? 今度は女神さん!??」

舞「さあ、鎧武とドライブ、お互いの力を分け合って!」

鎧武「分かった ドライブ!!?」

貴斗(変声)「お、おう」

そう言いながら、鎧武と貴斗は互いの手を握り合い、握り合った手に舞が手を添えた気がつくくと、貴斗と鎧武は変身が解けた状態で水上に立っていた

そこに輪切りのオレンジが複数描かれたシフトカー シフトフルーツとドライブの描かれた錠前 ドライブロックシードが飛んで来て、シフトカーは貴斗の、錠前は鎧武の手に乗った

貴斗と鎧武は互いの顔を見合い、貴斗はドライブドライバーのキーを回して、シフトフルーツの後ろ側を半回転し、シフトプレスにセットし、鎧武は錠前を解錠し、戦極ド

ライダーにセットして、互いに息を合わせて貴斗はシフトブレスにセットしたシフトフルーツをレバーのように動かし、鎧武は戦極ドライバーのカッティングブレードを倒した

貴（変声）& 鎧『変身!!?』

ドライバー!!?

ロック オン!

ドライバーアームズ! ひとっ走り いぎ! トウギヤザー!!?

ドライバー! タイプ! フルーツ! オン ステージ!!?

その音が鳴り、貴斗は仮面ライダードライブタイプフルーツに、鎧武は仮面ライダー

鎧武ドライバーアームズに変身した

鎧武「これがドライバーアームズ! やっぱり こう来たか!」

貴斗（変声）「これがタイプフルーツか 頭に編み笠 和風でかつこいいじゃん!」

互いの新たな姿の感想を言いながら、貴斗と鎧武はメガヘクスに攻撃した

見事に攻撃を当てた鎧武はハンドル剣を見ながら言った

鎧武「スゲエな! この武器!!?」

貴斗（変声）「鎧武 こいつをこうして、行って来い!」

と言いながら、貴斗は鎧武が持っているハンドル剣のハンドルを回し、鎧武の背中を

押し

鎧武「おわっ!?? おいっ!?? ちよっ!?? 何だよこれ!?? どんあっ!!?」

と言いながら、鎧武は車のようにジグザグ移動をしながらハンドル剣でメガヘクスを斬りつけた

鎧武に斬りつけられたメガヘクスは貴斗を標的にして攻撃を仕掛けてきた

貴斗はドライブドライバーのキーを回し、シフトフルーツをレバーのように3回動かした

フル! フル! フルーツ!

その音が鳴ると同時に、貴斗はメガヘクスを大橙丸と無双セイバーで斬りつけた

斬りつけられたメガヘクスが貴斗から距離を置いたと同時に鎧武が貴斗の近くに来た

鎧武「ドライブ! その2つの武器をひつつける!」

貴斗(変声)「お おう!」

鎧武は戦極ドライバーのカッティングブレードを1回倒し、貴斗はドライブドライバーのキーを回し、シフトブレスのイグナイターを押した

ヒツサツ! ア! フルスロットル!!?

ヒツサツ! フルスロットル!!? フルーツ!!?

そう音が鳴ると同時に鎧武と貴斗はメガヘクスを斬りつけた

メガヘクス「敗北の原因　一切不明！」

そう言いながら、メガヘクスは爆発し、ZZZと描かれたコアのような物体が空に向かって飛んでいった

貴斗（変声）「ベルトさん　あれってZZZのコアか？」

鎧武「あの星がメガヘクス　彼奴らそのものの中心核だ！」

クリム「メガヘクスはZZZを吸収した　そのためメガヘクスはロイミュードと同じ弱点を抱えたのだ！　早くあの星へ行つてコアを破壊しなければならないぞ　2人もー！」

貴斗（変声）「でもどうやって行くつもりだよ!??　宇宙船やロケット作つてる暇はな

いぞ!??！」

貴斗がそう言ったと同時に、トライドロンが貴斗達の近くに来て、リアシフトゲートにシフトフルーツがセットされ、スペースマシンのような見た目のトライドロンタイプフルーツに変形した

クリム「凄いね　スペースマシンか」

貴斗（変声）「丁度いいや　俺のトライドロンは2人乗りです　鎧武！　行くぜ　これ

なら奴らの星を破壊出来る！」

鎧武「よっしや! 舞 行ってくる!」

そう言いながら貴斗と鎧武はトライドロンに乗ろうとしたが、鎧武はドライブアームズの鎧が、貴斗はタイプフルーツの編み笠が引つかかってトライドロンに乗れなかった

貴斗(変声)「鎧武 これじゃ乗れない! 1回元に戻ろう!!」

そう言いながら、貴斗はシフトブレスにセットされているシフトフルーツを抜き、シフトスピードをセットし、シフトスピードをレバーのように動かし、鎧武はドライブロックシードを外し、オレンジロックシードを解錠して戦極ドライバーにセットして、戦極ドライバーのカッティングブレードを1回倒した

ドライブ! タイプ! スピード!

オレンジアームズ! 花道! オン ステージ!!?

その音が鳴り、貴斗は仮面ライダードライブタイプスピードに、鎧武は仮面ライダー鎧武オレンジアームズに変身した

鎧武「よっしや! これで乗れるぜ! 行くぜドライブ!」

貴斗(変声)「ああ! 行けぞ鎧武! ひとつ走りつき合えよ!」

鎧武「ああ! ここからは俺とドライブのステージだ!!」

そう言いながら、貴斗と鎧武はトライドロンに乗りこんで、惑星メガヘクスに向かって飛んでいった

その後、メガヘクスの星にオレンジタイヤW果汁キックをかまして、メガヘクスの星を破壊した貴斗と鎧武はトライドロンをメガヘクスと戦った場所から少し離れた場所に止めて変身を解いて話していた

クリム「2人ともナイスドライブ!!？」

貴斗(変声)「鎧武 助かったぜ ありがとう それにしても本当に神様だったんですね」

鎧武「もう神様はよせ 葛葉 紘汰(かずらば こうた)だ 運転凄く上手いな 本業はレーサーか？」

貴斗(変声)「違いますよ 俺は呉島 貴斗 本業は学生兼客員警察官です」

鎧武「え、呉島!!？」 お前ミツチの弟か!!？」

光実「紘汰さん! って貴斗!!？」 何でここに!!？」

貴斗(変声)「ベルトさん これはしようがないよね」
クリム「仕方あるまい 正直に話したまえ」

貴斗は変声機を外して、光実に正直に真実を話した

光実「で、僕や兄さんにばれたくなくて、変声機使って一緒に戦ってたと」

貴斗「そういう事です 兄さんには内緒でお願います」

紘汰「ミツチの弟なら俺の力を託しても大丈夫かな」

光実「紘汰さん!?? それってつまり 貴斗に鎧武の力を託すって事ですか!??」
舞「それだけじゃない 戒斗が君にあてた伝言で ドライブ、貴様ならこの俺の力を託してやる って言ってた 戒斗もバロンの力を君に託したいって」

貴斗「分かりました 俺で良ければ鎧武とバロンの力、託されましょう!」

——再び 回想シーン 終わり——

貴斗「鎧武とバロンの力を託された俺は召喚獣の実習に積極的に参加して、鎧武とバロンの力を使いこなせるように頑張ったって訳だ そして、7月中旬頃、ライバルの1人であるチエイズ 魔進チエイサーと戦ったんだ」

秀「そーういや、貴斗が首を怪我したのも丁度その頃じゃったのう」